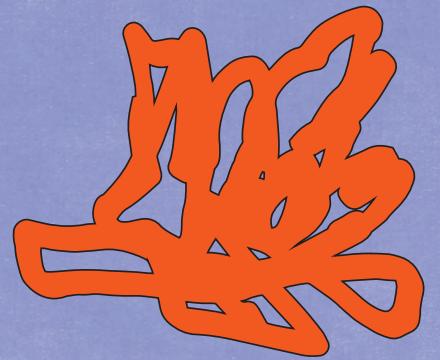



第8回 横浜トリエンナーレ

8TH YOKOHAMA TRIENNALE

野草: いま、ここで生きている

WILD GRASS: OUR LIVES



第8回 横浜トリエンナーレ   
8TH YOKOHAMA TRIENNALE  
野草: いま、ここで生きてる  
WILD GRASS: OUR LIVES

記録集



## 目次

横浜トリエンナーレとは	3
ごあいさつ	4
開催概要	6
第8回展の特徴	8
01 第8回横浜トリエンナーレのあゆみ	13
02 展覧会記録	15
03 アートもりもり!	30
04 鑑賞サポート	34
05 パブリックプログラム	35
06 グッズ、ショップ	45
07 市民参加	48
08 まちなか回遊促進	55
09 広報・プロモーション	57
10 国際発信・国際交流	65
11 アーカイブ	66
12 チケット・来場者情報	67
13 経済波及効果とパブリシティ効果	72
14 収支報告	73
第1回～第8回 横浜トリエンナーレー覧	74
人々の心に残る横浜トリエンナーレ	76
組織体制	77
クレジット	78

### [凡例]

1. 事業の総称および組織名は「横浜トリエンナーレ」(横浜=漢字表記)、第8回展の名称は「第8回横浜トリエンナーレ」となる。
2. 作家・作品データ、また組織・団体・機関名および所属・肩書は、ページ内に記載がない場合は2024年6月9日時点のものである。
3. 開催年に実施したものは、西暦表記(2024年)を省略した。
4. 第8回横浜トリエンナーレ「野草:いま、ここで生きてる」の略称として、一部表記を「第8回横浜トリエンナーレ」とした。
5. 「リウ・ディン(劉鼎)」、「キャロル・インホワ・ルー(盧迎華)」の略称として、一部表記を「リウ・ディン」、「キャロル・インホワ・ルー」とした。
6. 「アーティストック・ディレクター」の略称として、一部表記を「AD」とした。
7. 「新型コロナウイルス感染症」の略称として、一部表記を「新型コロナ」とした。
8. 写真図版のうち、撮影者の記載のないものは、横浜トリエンナーレ組織委員会、もしくは横浜美術館のスタッフによって撮影された。ほか「第8回展の特徴」の頁(P.8-P.11)の作品クレジットの一部と「展覧会記録」の頁(P.18-P.26)の作品クレジットの一部、また「パブリックプログラム」の頁(P.41)の作品クレジットの一部、「第1回～第8回 横浜トリエンナーレー覧」の頁(P.74-P.75)の作品および撮影クレジットについては、クレジットの頁(P.78)に記載。

## 横浜トリエンナーレとは

### 概要

横浜トリエンナーレは、横浜市で3年に1度開催する現代アートの国際展です。これまで、国際的に活躍するアーティストの作品を展示するほか、新進のアーティストも広く紹介し、世界最新の現代アートの動向を提示してきました。

2001年に第1回展を開催して以来回を重ね、世界の情勢が目まぐるしく変化する時代のなかで、世界と日本、社会と個人の関係を見つめ、アートの社会的な存在意義をより多角的な視点で問い直してきました。

第1回(2001年)から第3回(2008年)までは独立行政法人国際交流基金が主催団体のひとつとして事務局機能を担い、現代アートを通じて日本と各国との文化交流を促すことを目的に事業を実施してきました。第4回(2011年)以降、運営の主体を横浜市に移した後も、文化庁の支援を受けたナショナルプロジェクトとして、そして文化芸術創造都市・横浜を象徴するプロジェクトとして開催を重ね、多数の来場者を迎えています。

### 横浜トリエンナーレの基本的な考え

#### 使命

横浜トリエンナーレは、我が国を代表する現代アートの国際展として、文化芸術創造都市・横浜の発展をリードするとともに、多様性を受け入れる心豊かな社会の形成に寄与します。

#### 目標

##### ・アートでひらく

ひらかれた現代アートの祭典として、誰もが多様な表現に触れる機会を分野と時代を横断して提供し、世代等を超えた理解を促進します。

##### ・世界とつながる

ナショナルプロジェクトとして、横浜から新しい価値観と新たな文化を継続的に世界に届け、国際交流と相互理解に貢献します。

##### ・まちにひろがる

文化芸術創造都市として築いている、横浜ならではのまちの力と一体的に推進します。

#### 行動指針

世界水準／次世代育成／共生社会実現／市民参加／祝祭性／賑わいづくりと経済活性化／SDGs

2024年6月、「第8回横浜トリエンナーレ」は約3か月の会期を終え、惜しまれながら閉幕しました。「野草：いま、ここで生きてる」というテーマの下、唯一無二の現代アートの祭典を作り上げてくださったアーティストック・ディレクターのリウ・ディン（劉鼎）様、キャロル・インホワ・ルー（盧迎華）様、素晴らしい作品を出展してくださったアーティストの皆様へ深く感謝申し上げます。また、文化庁、大使館の皆様、協賛・協力企業の皆様、市民サポーターの皆様をはじめ、本展の開催にあたり御支援いただいたすべての皆様へ、厚く御礼申し上げます。

2001年にスタートし、日本を代表する現代アートの国際展として発展してきた横浜トリエンナーレ。8回目の開催となる今回展の総来場者数は、約58万人にのぼりました。オープニング式典でのリウ・ディン様のスピーチにあった「たとえ言葉が通じなくても、私たちはアートで分かり合うことができる」という言葉のとおり、今の時代を共に生きるアーティストたちの作品の数々に触れることで、多くの方が世界や社会の現在の情勢について考えを巡らせ、相互理解を深めるきっかけにつながれば、主催者として望外の喜びです。

また今回展は、3年ぶりにリニューアルオープンした横浜美術館をキーステーションとして、お子様から大人まであらゆる世代の方々に気軽にアートに触れていただけるよう、創造界隈拠点をはじめとした市内のアート拠点と連携した企画や、商業施設や駅などでの無料展示など、まち全体でプログラムを展開しました。現代アートファンの皆様はもちろん、横浜を訪れる多くの皆様へ、アートがあふれる横浜のまちを存分にお楽しみいただけたのではないかと思います。御協力いただきました皆様に、心から感謝申し上げます。

文化芸術活動は、創る人や見る人など、多くの人に有形無形の力を与えてくれます。横浜市は、文化芸術活動の創造性を生かし、地域コミュニティやまちの活性化につなげるとともに、横浜らしい魅力を創出し発信することで、国内外の多くの皆様から「選ばれる都市」としてさらに発展していけるよう、力を尽くしてまいります。今後も、皆様の変わらぬお力添えをお願い申し上げます。



横浜トリエンナーレ組織委員会 名誉会長代表  
横浜市長  
山中竹春

日本はかつて、17世紀から19世紀までの約200年間、政策により海外との交わりを断っていました。ヨーロッパ諸国やアメリカ、ロシアの要請で開国することになったとき、最初に設けられた五つの港の一つとなったのが横浜でした。1859年のことでした。以来、横浜は、新しい文化が次々と流入し、時に衝突を孕んで混じりあう特別な場所として今日まで発展してきました。2024年6月現在、人口は377万人余り、170におよぶ国籍の人々が暮らしています。

そんな横浜で行われる「横浜トリエンナーレ」は、20年以上の歴史を持ち、あまたある日本の芸術祭のなかでも大規模な催しです。第8回展となる今回は、北京をベースに活動するリウ・ディン（劉鼎）とキャロル・インホワ・ルー（盧迎華）をアーティストック・ディレクター（AD）に迎えました。タイトルは「野草：いま、ここで生きてる」です。このタイトルは、中国の作家、魯迅（ろじん、1881-1936）の散文詩集『野草』（1927年刊行）にちなんでいます。わたしたちの社会はいま、資本主義の暴走に起因する気候変動や戦争、経済格差や不寛容など、多くの問題を抱えています。ADの二人は、その拠って来たところを100年前の魯迅の時代にさかのぼって探り、未来を切り開く手掛かりを共に見いだそうとわたしたちに呼びかけました。

ADによる国際展は、世界31の国と地域から93組のアーティストを迎え、横浜美術館を含む市内全5会場に広がりました。この国際性は横浜というまちの歴史と現在を反映するものです。さらに今回は、「アートもりもり！」の名称で、「野草」の統一テーマの下、長く活動してきた市内の各アート拠点がさまざまな展示やプログラムを展開しました。国際展と「アートもりもり！」の二つの柱を以って、第8回横浜トリエンナーレは、世界に視野を広げることとローカルに根付いて思考することの両面が揃ってこそ、アートはわたしたちの生に深いインパクトを与えうるのだ、と訴えました。

この冊子は、展覧会内容だけでなく、準備から開幕にいたるまでの過程、展覧会の運営に関する内容、さまざまに実施された取り組みなど、多面的な事業の詳細を記録するものです。時代の変遷と共に各地で国際展の新しい形が模索されているいま、文化芸術に携わる方々に少しでも有益な情報をお届けする内容であれば、と願っています。

最後になりましたが、ご出品いただきました作家のみなさま、ご所蔵家のみなさまに厚く御礼申し上げます。またご支援をいただいた文化庁、後援、協賛・協力・助成をいただいた関係者の皆様、横浜トリエンナーレサポーターの皆様に、深く感謝の意を表します。

今後とも横浜トリエンナーレへのご高配を賜りますようお願い申し上げます。



横浜トリエンナーレ組織委員会 委員長  
公益財団法人横浜市芸術文化振興財団 理事長  
近藤誠一







## 第8回展の特徴

### 原点に戻りつつ、将来の姿を探る

第1回横浜トリエンナーレが開催された2001年から20年以上が経過し、第8回展は、これから横浜トリエンナーレが何を目指すべきなのかをあらためて考えることから始まった。それは、原点に立ち返り、初期から持ち続けた「みなとの祝祭」という横浜ならではのテーマを時代にあわせて更新することだった。

今から21年前、横浜トリエンナーレは、タイトルに「メガ・ウェイブ」をうたい、「市民に開放された巨大な祝祭」とのコンセプトを掲げて出発しました。以来横浜トリエンナーレは、一言でいうなら、波が打ち寄せる「みなと」で行われる人々の「祝祭」を長くその理念としてきたのです。

20年の節目を過ぎたいま、横浜トリエンナーレは、あらためて「みなと」と「祝祭」の意味を捉えなおし、更新したいと考えます。

人と人との豊かな出会いをもたらすと同時に、異質なものととの衝突をはらむ「みなと」。共感の輪を広げる可能性と、集団的な熱狂のあやうさをあわせ持つ「祝祭」。

グローバル化が進展し、友情と共に争いが生まれる今日の世界に、わたしたちは、どのような新しい「みなとの祝祭」からのメッセージを届けることができるでしょうか。

第8回展も、前回に引き続き海外よりアーティスト・ディレクターを迎え、アートを通じた世界との対話を続けて行きます。

—総合ディレクター 蔵屋美香  
[2022年6月30日プレスリリースより]

2019年末からの約3年間、世界を覆った新型コロナウイルス感染症のパンデミックは、経済格差や民族・文化の違いによる社会の分断、そして、人間と自然の歪んだ関係などを顕在化させた。この経験を経て迎えた第8回展では、パンデミック以降の世界を生きていくための術を探ることになった。

### 第8回展で変える

原点に立ち返ることにあわせて、2011年の第4回展から2020年の第7回展まで「ヨコハマトリエンナーレ」とカタカナ表記していた展覧会名を、今回は第1回展から第3回展までと同じ「横浜トリエンナーレ」という漢字とカタカナを組み合わせた表記に戻し、「第8回横浜トリエンナーレ」と表記することにした。また、第8回展は当初、2023年12月に開幕する予定だったが、世界的な半導体不足を受けて横浜美術館の大規模改修工事が遅延し、2024年3月の開幕に変更した。これにより、従来の夏～秋の会期ではなく、初めて春～初夏の会期で開催することになった。



撮影:大野隆介

### 世界の情勢に应答する

—世界が抱える課題を共有するテーマを掲げて展覧会を企画する

北京を拠点に世界各地で活動するリウ・ディン（劉鼎）とキャロル・インホワ・ルー（盧迎華）をアーティスト・ディレクター（AD）に迎え、「野草：いま、ここで生きてる」というテーマのもと、31の国と地域から参加した93組の作家による作品を展示した。それらの作品を通して、新型コロナウイルスのパンデミック以降、ますます生きにくくなった社会のなかで、制度やシステムに依存することなく、自立した「個人」として生きる術を見つけていくことを提案した。また、戦争や紛争が絶えない世界のなかで、国家ではなく「個人による国際主義」を推進し、芸術を介して交流する方向性を探った。



撮影:大野隆介

### まちのリソースを活用する

—横浜の歴史に由来する施設を活用する

ADが企画した「野草：いま、ここで生きてる」展が、1927年に出版された魯迅による散文詩集『野草』を起点に構想されたことにちなんで、1920年代に建てられた「旧第一銀行横浜支店」（1929年竣工）と、「旧横浜生糸検査所附属生糸絹物専用B号倉庫及びC号倉庫」（1926年竣工）を活用した、文化・商業施設「KITANAKA BRICK&WHITE」内に立地するオルタナティブスペース「BankART KAIKO」をまちなかの会場として使用した。また、日中交流の歴史で舞台となってきた横浜中華街へつながる元町・中華街駅連絡通路にも作品を設置した。

—横浜のアート関係団体と連携する

「アートもりもり！」では、第8回展のテーマである「野草：いま、ここで生きてる」を共有した市内のアート拠点と連携し、横浜駅から元町・中華街駅へつながる、みなとみらい線沿線を中心としたエリアで、さまざまなアートに触れるプログラムを展開した。横浜で約20年にわたり「創造界隈拠点」として活動してきたBankART1929や黄金町エリアマネジメントセンター、象の鼻テラスのほか、横浜駅西口にある商業施設ニューマン横浜や横浜港を一望できる横浜マリンタワーなどとも連携した。

—横浜のリソースとして活用される

「第8回横浜トリエンナーレ」は、横浜市立大学の産官学連携の研究拠点「Minds1020Lab」が実施した「アート鑑賞が心にもたらす効果」を検証する実証実験の対象となった。

※検証結果は、2025年3月にMinds1020Labから公表予定



©BankART1929 撮影:中川達彦



安部泰輔《黄金森》2024 撮影:笠木靖之



撮影:川島彩水



### 多様な価値を発信する現代アートに触れる機会をつくる

横浜トリエンナーレは、地域や民族を超えた幅広い価値観をさまざまな表現で発信する現代アートの展示により、寛容で心豊かな社会の実現に寄与することを目指している。第8回展では誰もが多様な表現に触れられるよう、アクセスポイントを増やした。

#### — 無料展示のエリアを拡大し作品に出会う機会を増やす

横浜美術館のファサードや側壁のほか、みなとみらい駅直結のクイーンズスクエア横浜や元町・中華街駅連絡通路など多くの市内就業者や観光客が往来する場所に大型の作品を設置し、日常生活のなかで本格的な現代アートに触れる機会を設けた。

また、横浜美術館会場では吹き抜け空間「グランド・ギャラリー」のほか、グランモール公園に面した2つの展示室を新たに無料にした。



元町・中華街駅連絡通路展示風景(チュン・イン・レインボー・チャン/陳雋然) 撮影:加藤甫



クイーンズスクエア横浜展示風景(北島敬三+森村泰昌) 撮影:加藤甫

#### — 市民に周知するためのイベントを実施する

横浜トリエンナーレを市民に周知するため、開幕から約1週間、横浜市役所アトリウムで「わくわくアートひろば」を開催し、親子を対象とした体験型のワークショップを実施したほか、市民から募集した過去の横浜トリエンナーレに関する思い出のエピソードを紹介するパネルを展示した。



撮影:富田了平

#### — パブリックプログラムの多様化を図る

横浜美術館の教育普及グループが企画・運営するプログラムのほか、国際交流や次世代育成に取り組む団体など、アート以外の分野で活動する団体を含め、さまざまな団体の協力を得て幅広い対象がアートに親しむことができるパブリックプログラムを実施した。

### 次世代が参加しやすい環境を整備する

#### — 乳幼児から高齢者まで安心して来場できる施設を提供する

大規模改修後の横浜美術館では、グランドギャラリーにエレベーターが増設され、車いすの方が展示室の入口にすぐアクセスできるようになった。また、授乳室や多機能トイレも刷新し、乳幼児から高齢者まで安心して来場できる環境を整えた。

#### — こどもと子育て世代がいつでも来場できる場所をつくる

学校団体の受け入れや中高生対象のプログラムを実施するなど、これまでも次世代育成に力を入れてきたが、第1回展の時にこどもだった世代が成人して社会に出るようになったいま、次の世代へ確実にバトンをつなげていくことを考えるようになった。事前申込なく無料でワークショップに参加できる「こどものアートひろば『はらっぱ』」を横浜美術館内に常設し、子育て世代を中心に、来場しやすい環境をつくった。



撮影:大野隆介



撮影:加藤健

#### — 高校生の入場料を無料にする

中学生以下に加えて第8回展では高校生も入場料を無料とし、世界への視野が広がる世代がひとりでも多く現代アートに触れる機会を提供し、4,941名の高校生を迎えた。



横浜美術館グランドギャラリー展示風景(ビッパ・ガーナー) 撮影:加藤甫



31の国と地域から 93組の作家が参加



総来場者数  
約 58 万人 (有料会場入場者数 約15万人)


撮影:加藤南

視察受入 113 件 360 人  
学校団体鑑賞 63 団体 2,478 人



メディア露出  
5,651 件  
(うち海外 377 件)

活動サポーター 延べ 1,126 人



撮影:大野隆介

48 のパブリックプログラムを展開  
※「アートもりもり!」を含む



vivian sui methodによる「インダストリアル・ウッドブロックエクササイズ」を体験してみませんか  
撮影:加藤南



Earth ∞ Pieces-世界で最もSLOWなよこごびの歌-  
撮影:427FOTO

83 の応援プログラム  
※中止2プログラムを含む



曾谷朝絵「鳴る色」ワークショップ/ライトアップ  
撮影:松下佳

来場者の傾向

30歳未満の若い世代は  
初めて来た人が7割以上

50代以上は  
過去の開催回も鑑賞経験のある人が7割

来場のきっかけは  
友人・知人からの口コミが最も多い27.8%

来場理由は「現代アートに関心があるから」  
と答えた人は74.8%

来場して「国際的な雰囲気を感じた」  
と答えた人は83.6%

「世界的な社会課題や文化について関心が高まった」  
と答えた人は83.2%

01. 第8回横浜トリエンナーレのあゆみ

2021	3月1日	横浜美術館改修工事に伴う休館(着工:10月1日)
	7月21日	横浜トリエンナーレ組織委員会第27回総会(ヨコハマトリエンナーレ2023(仮称)会期・会場)
	7月28日	横浜トリエンナーレ組織委員会事務局事務所移転(横浜美術館からPLOT48へ)
	8月2日	—「新型コロナウイルス感染症緊急事態宣言」(—9月30日)
	10-11月	第8回展アーティストック・ディレクター(AD)選考開始。推薦委員より候補者21組の推薦を受ける。
	12-2月	AD選考委員会開催(第1回:2021年12月7日、第2回:2022年2月1日)
2022	1月21日	—「まん延防止等重点措置期間」神奈川県適用(—3月21日)
	2月24日	—ロシアによるウクライナへの軍事侵攻
	3月28日	第28回総会(会期変更、第25期[令和4年度]事業計画および予算案)
	6月27日	第29回総会(第24期[令和3年度]決算、AD選考報告)
	6月30日	AD決定および会期・会場を記者発表(2023年12月9日-2024年3月10日・横浜美術館、プロット48ほか)
	7月27日	横浜市SDGs認証制度 Y-SDGs認証取得(スタンダード)
	11月30日	—外国人の新規入国の原則禁止(—12月31日)
	12月1日	第30回総会(会期変更)
	12月20日	会期変更を記者発表(2024年3月15日-6月9日)
2023	3月22日	第31回総会(開催名称・会場の変更、第26期[令和5年度]事業計画および予算案、基本的な考え方(行動指針)改正)
	5月8日	—新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置付けがいわゆる2類相当から5類感染症に変更
	6月22日	第32回総会(第25期[令和4年度]決算、第33回総会の開催時期変更)
	6月28日	テーマ・コンセプト、会場、ロゴ・ビジュアルを記者発表
	10月7日	—イスラエルとハマスら、ガザ地区に拠点を置く武装勢力が衝突
	11月28日	第一弾参加作家を記者発表
	11月30日	横浜美術館改修工事竣工(一部工事を除く)
2024	1月	横浜美術館会場の展示施工開始
	1月17日	オンライン記者会見(参加作家紹介・チケット情報)
	1月18日	前売チケット発売開始
	1月26日	第33回総会(第27期[令和6年度]事業計画および予算案)
	2月	旧第一銀行横浜支店会場・BankART KAIKO会場の展示施工開始
	2月15日	全参加作家を記者発表
	3月14日	プレス内覧会、記者会見、特別内覧会、オープニングセレモニー、特別懇親会、アーティスト交流会
	3月15日	第8回横浜トリエンナーレ開幕
	6月9日	第8回横浜トリエンナーレ閉幕
	6月28日	第34回総会(第26期[令和5年度]決算、次期委員長互選)
	9月30日	公式カタログ(日本語)発行
	10月23日	公式カタログ(英語)WEBサイト公開
	12月2日	第35回総会([第8回展]事業報告)



空間設計打ち合わせ風景



オンライン記者会見



ブリックリー・ペーパー(チェン・イーフェイス&オウ・フェイス)/刺紙(陳逸飛&歐飛鴻)制作風景 撮影:富田了平



丹羽良徳制作風景 撮影:富田了平



ヨアル・ナンゴ制作風景 撮影:富田了平



## 内覧会・オープニングセレモニー

開幕前日の3月14日にプレス内覧会および関係者を招待した特別内覧会を実施した。また、午前に記者会見、夕方からは横浜市長と共に駐日大使などを迎えてオープニングセレモニーと特別懇親会を行った。

夜には、象の鼻テラスへ場所を移し、参加作家（連携拠点の参加作家を含む）と関係者を交えた交流会の席を設けた。

### 内覧会

開催日：3月14日（木）

時間：①プレス内覧会 10:30-14:30 ②特別内覧会 13:00-18:00

会場：横浜美術館、旧第一銀行横浜支店、BankART KAIKO

総入場者数：1,984名

※クイーンズスクエア横浜、元町・中華街駅連絡通路でも公開を開始

### [アートもりもり!内覧会]

- ・BankART Life7「UrbanNesting：再び都市に棲む」

時間：13:00-19:00

会場：BankART Station+周辺各所（関内地区、みなとみらい21地区、ヨコハマポートサイド周辺地区）

- ・黄金町バザール2024—世界のすべてがアートでできているわけではない—

時間：13:00-19:00

会場：京急線日ノ出町駅・黄金町駅間の高架下スタジオ、周辺のスタジオほか

### 記者会見

時間：11:30-12:00 会場：横浜美術館 レクチャーホール

出席者数：262名 記者会見オンライン視聴数（YouTube）：265回（2024年7月31日時点 アーカイブ視聴含む）

### オープニングセレモニー

時間：16:30-17:10 会場：横浜美術館 レクチャーホール 出席者数：140名

### 特別懇親会

時間：17:30-18:00 会場：横浜美術館 円形フォーラム 出席者数：44名

### アーティスト交流会

時間：18:30-22:00 会場：象の鼻テラス

参加者：「野草：いま、ここで生きてる」展と連携拠点のプログラムの参加作家および関係者



撮影：富田了平



プレス内覧会 撮影：富田了平



オープニングセレモニー 撮影：加藤甫



アーティスト交流会

## 02. 展覧会記録

### コンセプト

アーティストック・ディレクター（AD）のリウ・ディン（劉鼎）とキャロル・インホワ・ルー（盧迎華）による「野草：いま、ここで生きてる」展は、戦争や気候変動、経済格差や不寛容などの課題を抱える、新型コロナのパンデミック以降の世界を生き抜くための手掛かりとして、中国を代表する小説家魯迅が絶望のなかであらわした散文詩集『野草』（1927年刊行）を参照した。本展ではこの詩集を出発点として、絶望のなかでこそ創造性が発揮されることに注目すると同時に、ふつうの人々を変える世界の可能性を探った。

### アーティストおよび作品

時代、地域や文化に関わる固有かつ個別の問題意識や表現方法を重視し、31の国と地域から93組の作家を選定。そのうち31組が日本初、20組が新作を出展した。

### 展覧会構成

7つの章を3つの会場と市内の公共空間で展開した。章によっては外部の専門家を「考える仲間たち」（Thinking Partners）として迎えてテーマを深く掘り下げた「セクション」（特集展示）も設けた。

章立て(展示の導線順)	会場	「セクション」 考える仲間たち
いま、ここで生きてる	横浜美術館 グランドギャラリー、3階ホワイエ、 ギャラリー8、ギャラリー9、ファサード、側壁 クイーンズスクエア横浜、元町・中華街駅連絡通路	「日々を生きるための手引集」 王欽（東京大学大学院総合文化研究科 准教授）
密林の火	横浜美術館 ギャラリー3、ギャラリー4	「小林昭夫とBゼミ」
わたしの解放	横浜美術館 ギャラリー2、ギャラリー5	「わたしの解放」(ギャラリー5 富山妙子展示) 萩原弘子（大阪府立大学 名誉教授）
流れと岩	横浜美術館 ギャラリー6	「李平凡の非凡な活動：版画を通じた日中交流」 町村悠香（町田市立国際版画美術館 学芸員）
苦悶の象徴	横浜美術館 ギャラリー7	
鏡との対話	横浜美術館 ギャラリー1	「縄文と新たな日本の夢(鏡との対話)」 山本浩貴（文化研究者、実践女子大学 准教授）
すべての河	旧第一銀行横浜支店、BankART KAIKO	「革命の先にある世界」 江上賢一郎（東京藝術大学 特任助教）

「いま、ここで生きてる」の章ではアーティストや思想家、社会活動家たち10組を「連帯する思想家たち」（Fellow Thinkers）として迎え、2000年以降発表した著書を「日々を生きるための手引集」として集約し、会場内で自由に閲覧できるようにした。

連帯する思想家たち	テキスト(初版年)
柄谷行人	『NAM 原理』(2000年)
汪暉(ワン・フィ)	『世界史のなかの世界—文明の対話、政治の終焉、システムを越えた社会』(中国語初版2011年/ 日本語版2016年)
デヴィッド・グレーバー	「ブルシット・ジョブ現象について」(英語初版2013年/日本語版2019年)
ジュディス・バトラ	『アセンブリー—行為遂行性・複数性・政治—』(英語初版2015年/日本語版2018年)
ビョーク&ティモシー・モートン	「ビョーク&ティモシー・モートンの往復書簡」(英語初版2015年/日本語版2024年)
松本哉	『世界マヌケ反乱の手引書—ふざけた場所の作り方』(2016年)
マッケンジー・ワーク	『資本は死んだ』(英語初版2019年/日本語版2023年)
斎藤幸平	『人新世の「資本論」』(2020年)
匿名	「寝そべり主義宣言」(中国語版2021年/日本語版2021年)
インゴ・ニアマン&エリック・ニードリング(共著)	「森の民の食事—ヴァルダー・ダイエット」(日英ともに2024年書き下ろし)

### 空間設計

横浜美術館では、丹下健三建築にみる左右対称性を参照した章や展示室構成とし、半透明や鏡面の素材でコンセプトを表現した。また建築意匠の丸と四角を仮設壁の構造に取り入れた。

旧第一銀行横浜支店では、不要となった什器を積み上げ、歴史的建造物のなかにバリケードがめぐるような空間をつくった。また、BankART KAIKOではドライエリアや元事務室を展示空間として活用した。

空間設計はnmstudio一級建築士事務所 + HIGURE 17-15 cas、ビジュアル・アイデンティティはREFLECTA, Inc. (岡崎真理子 + 田岡美紗子 + 田中ヴェートリ美南海 + 邵琪) が担当した。

## 展覧会風景

### 横浜美術館

#### いま、ここで生きてる Our Lives

どこかキャンプ場を思わせる空間を創出。災害や戦争に巻き込まれ、避難し、逃亡し、さまよう—わたしたちの日常のすぐそばにあるこうした「非常事態」。いつか来る非常事態を想像するための手掛かりを与えてくれる作品を展示した。

- セレン・オーゴード
- スーザン・チャンチオロ
- ラファエラ・クリスピーノ
- ピッパ・ガーナー
- ルンギスワ・グンタ
- マイルズ・グリーンバーグ
- オズギュル・カー
- サンドラ・ムジंगा
- ヨアル・ナンゴ
- オープングループ (ユリー・ピーリー、パヴロ・コヴァチ、アントン・ヴァルガ)
- ブリックリー・ペーパー (チェン・イーフェイ&オウ・フェイホン) / 刺紙 (陳逸飛&歐飛鴻)
- パピーズ・パピーズ (ジェイド・グアナロ・クリキ=オリヴォ)
- 志賀理江子
- SIDE CORE
- サローテ・タワレ
- エマニエル・ファン・デル・オウウェラ
- セクション「日々を生きるための手引集」

#### 密林の火 Fires in the Woods

いま現在の社会のありようを映し出すものとしての過去の歴史。まるで火打石を打ちつけたときのように、激しく火花が飛び散った歴史上の瞬間。時間と空間を飛び超えて、今を生きるわたしたちのうちに共感と共鳴を呼び起こす作品を展示した。

- ディルク・ブレックマン
- エリーズ・キャロン&ファニー・ドゥヴォー
- カルロマー・アーケンジェル・ダオアナ
- ジェレミー・デラー
- イェンス・ハーニング
- アルタン・ハイルラウ
- 浜口タカシ
- ルイス・ハモンド
- マシュー・ハリス
- ホアン・ボー・ジィ / 黄博志
- ダムラ・クルッチクラン
- ジョシュ・クライン
- 厨川白村
- クララ・リデン
- エリック・ニードリング
- インゴ・ニアマン
- 尾竹永子
- ポー・L
- トマス・ラファ
- 坂本龍一
- マーガレット・サーモン
- アラン・セクーラ
- 田中敦子
- 勅使河原蒼風
- ミルテ・ファン・デル・マーク
- セクション「小林昭夫とBゼミ」

#### わたしの解放 My Liberation

世界に広がる不平等や不公平。それについて自分で責任をとって行動することが人を解放へと導くことを示す作品群を展示した。

- 丹羽良徳
- 你哥影視社 / ユア・ブラザーズ・フィルムメイキング・グループ (スー・ユーシェン / 蘇育賢、リアオ・シウフイ / 廖修慧、ティエン・ゾンユエン / 田偉源)
- セクション「わたしの解放」富山妙子

#### 流れと岩 Streams and Rocks

小川のように進む力と岩のように阻む力。前進を続ければ、岩はやがてなめらかに削られ、流れはまた次の岩にぶつかる。危機と回復はいつもとなり合わせだが、困難に立ち向かう意志を生む源泉となるのは、無邪気さや若さ。本章では、そうした困難に立ち向かう生命力をあらわす作品を展示した。

- ラリー・クラーク
- ノーム・クレイゼン
- スターニャ・カーン
- トレイボラン・リンド・マウロン
- リタ・ジークフリート
- 谷中安規
- エクスパ・エクサー

セクション「李平凡の非凡な活動：版画を通じた日中交流」

#### 苦悶の象徴 Symbol of Depression

魯迅が翻訳をした日本の文筆家、厨川白村の著作『苦悶の象徴』(1924年刊行)。厨川によれば、芸術は、まさに抑圧強制と闘って生じる「苦悶」の表現。ここではアーティストが苦悩するなかで求めた表現をさまざまな形で展示した。

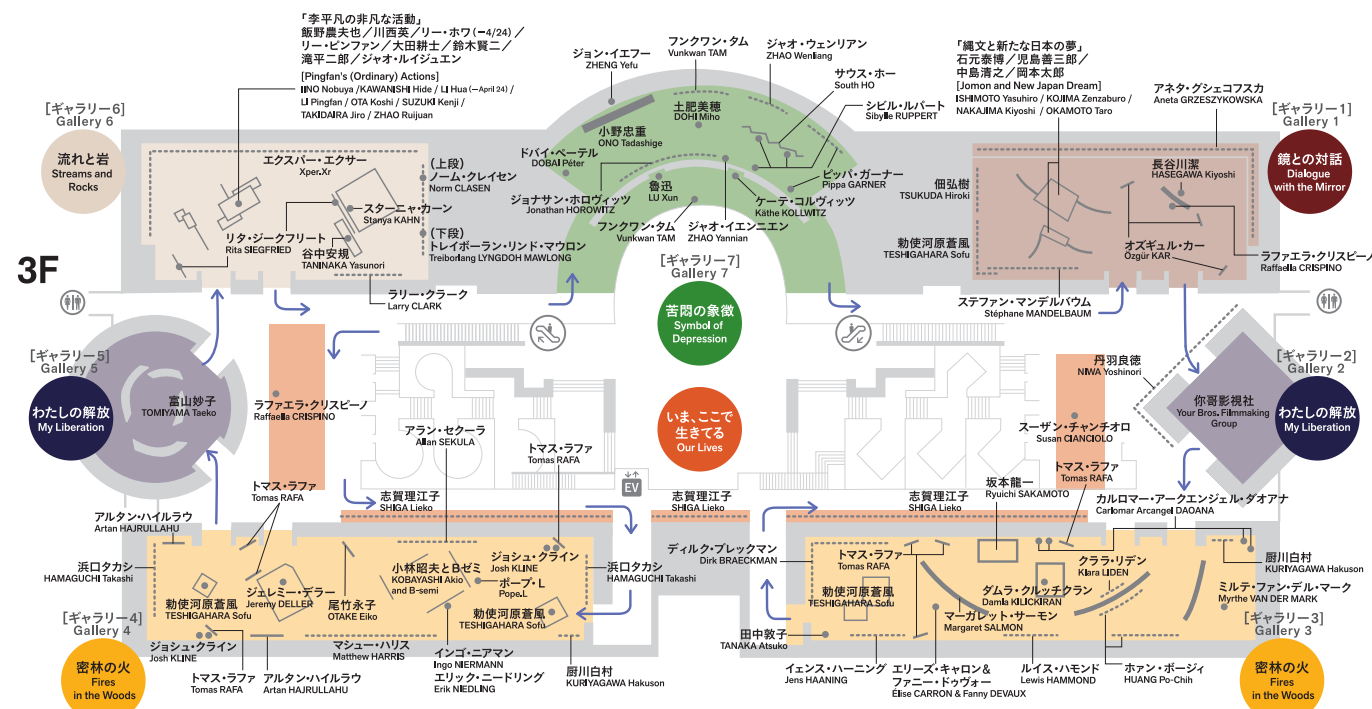
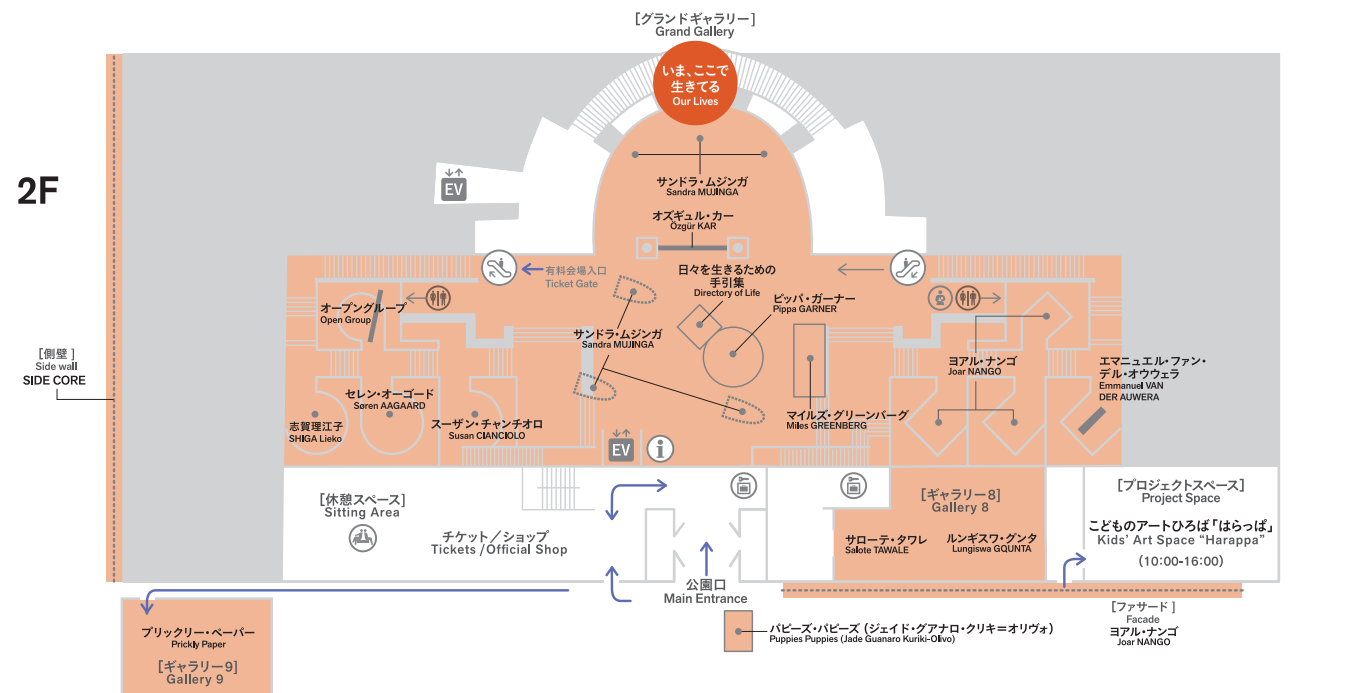
- ドバイ・ペーテル
- 土肥美穂
- ピッパ・ガーナー
- サウス・ホー / 何兆南
- ジョナサン・ホロヴィッツ
- ケーテ・コルヴィッツ
- 魯迅
- 小野忠重
- シビル・ルパート
- フンクワン・タム / 譚煥坤
- ジャオ・ウェンリアン / 趙文量
- ジャオ・イエンニエン / 趙延年
- ジョン・イエフ / 鄭野夫

#### 鏡との対話 Dialogue with the Mirror

鏡に映った自分の姿との対話—それは、自分を深く知り、同時にまだ見ぬ新しい自分を創造すること。ここでは「他者」との関係を通して「自己」のアイデンティティを見つめた作品を展示した。

- ラファエラ・クリスピーノ
- アネタ・グシエコフスカ
- 長谷川潔
- オズギュル・カー
- ステファン・マンデルバウム
- 勅使河原蒼風
- 佃弘樹

セクション「縄文と新たな日本の夢」



[註] アーティスト名は英語表記のアルファベット順(英語表記および参加アーティスト一覧はP.27-P.29を参照)





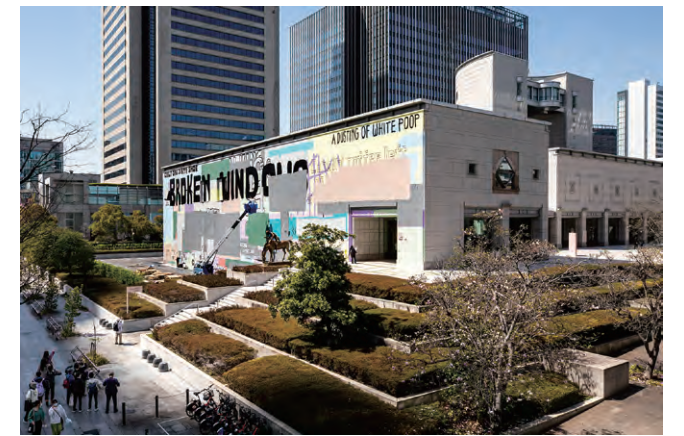
ヨアル・ナンゴ(ファサード右側)、バビーズ・バビーズ(ジェイド・グアナロ・クリキ=オリグオ)(正面入口前) 展示風景 撮影:山本真人



ヨアル・ナンゴ《彼らは決められた道を行かず、誰かが決めた秩序にも従わない》/ Eai čuoovo mearriduvvon luottaid eai ge vissis njuolgadusaid》(部分)2024 撮影:加藤甫



ブリックリー・ペーパー(チェン・イーフェイ&オウ・フェイホン)/刺紙(陳逸飛&歐飛鴻)《揺れ動く草の群れ》(部分)2024 ギャラリー9展示風景 撮影:加藤甫



SIDE CORE(big letters, small things)2024 撮影:山本真人



サンドラ・ムジンガ、志賀理江子、ビバ・ガーナー、オーブングループ、セクション「日々を生きるための手引集」 グランドギャラリー展示風景 撮影:富田了平

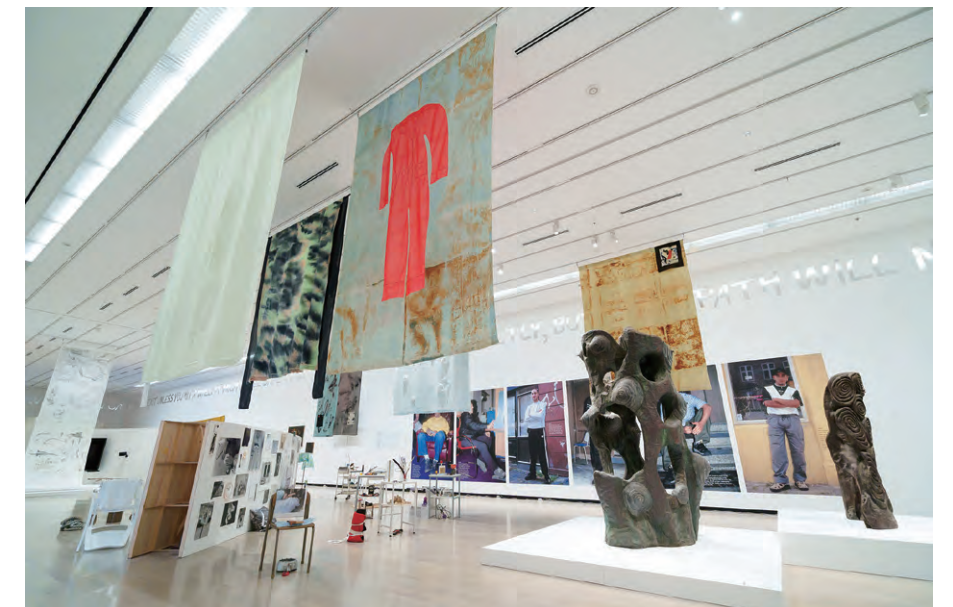
密林の火 Fires in the Woods



勅使河原蒼風、ポー・L、アラン・セクーラ、トマス・ラファ、ジョシュ・クライン、厨川白村 ギャラリー4展示風景 撮影:山本真人



サロテ・タワレ、ルンギスワ・グンタ ギャラリー8展示風景 撮影:山本真人



エリーズ・キャロン&ファニー・ドゥヴォー、ダムラ・クルッチクラ、マーガレット・サーモン、勅使河原蒼風、イェンス・ハーニング、厨川白村 ギャラリー3展示風景 撮影:富田了平



わたしの解放 My Liberation



セクション「わたしの解放」富山妙子 ギャラリー5展示風景 撮影:富田了平



丹羽良徳 ホワイエ(ギャラリー2側)展示風景 撮影:加藤健

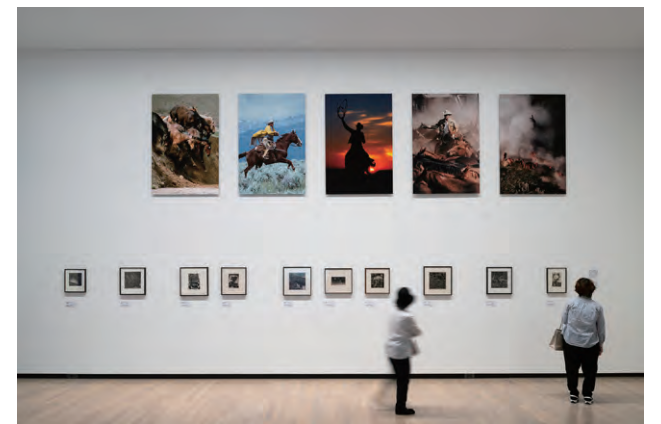


你哥影視社/ユア・ブラザーズ・フィルムメイキング・グループ(スー・ユーシェン/蘇育賢、リァオ・シウファイ/廖修慧、ティエン・ゾンユエン/田傑源)《宿舎》2023/2024 ギャラリー2展示風景 撮影:富田了平

流れと岩 Streams and Rocks



セクション「李平凡の非凡な活動:版画を通じた日中交流」、エキスパー・エクサー、リタ・ジークフリート、ノーム・クレイセン、トレイボラン・リンド・マウロン ギャラリー6展示風景 撮影:山本真人



ノーム・クレイセン、トレイボラン・リンド・マウロン ギャラリー6展示風景 撮影:加藤健

苦悶の象徴 Symbol of Depression



ジョン・イェー/鄭野夫、小野忠重、土肥美穂、ジョナサン・ホロヴィッツ ギャラリー7展示風景 撮影:加藤健





セクション「縄文と新たな日本の夢」、勅使河原蒼風、佃弘樹、オズギユル・カー、アナタ・グシエコフスカ、ラファエラ・クリスピーノ ギャラリー1展示風景 撮影:山本真人



SIDE CORE (construction giant) 2024 撮影:大野隆介

## 旧第一銀行横浜支店

### いま、ここで生きてる Our Lives

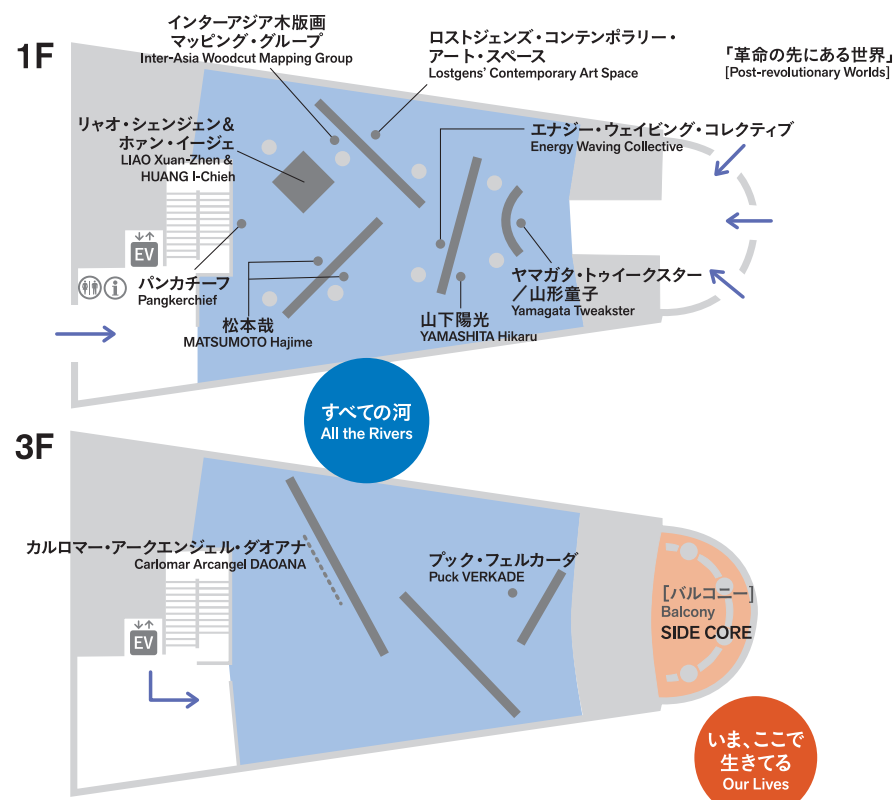
SIDE CORE

#### すべての河 All the Rivers

イスラエルの作家、ドリット・ラビニヤンの小説『すべての河』(2014年刊行)では、国家や社会の出来事が個人の人生を翻弄する。この物語にちなんだ本章では、国家と個人を考えるにあたり、「自治」「助け合い」「反消費」といった理念を掲げ、革命が起こるのをただ待つのではなく、自ら日常のうちに革命的な行動を起こした事例を紹介した。行き過ぎた資本主義に対抗する人たちの小さな活動も、その小さな流れが合流すればやがて大きな川になるという可能性を示した。

カルロマー・アークエンジェル・ダオアナ  
ブック・フェルカーダ

セクション「革命の先にある世界」



### すべての河 All the Rivers



セクション「革命の先にある世界」展示風景(インターアジア木版画マッピング・グループ、リャオ・シェンジェン & ホアン・イージェ / 廖恒棟 & 黄奕捷、松本哉) 撮影:大野隆介





ブック・フェルカード《根こそぎ》2023-2024 撮影:大野隆介

いま、ここで生きてる Our Lives



SIDE CORE(sey)2024 撮影:大野隆介

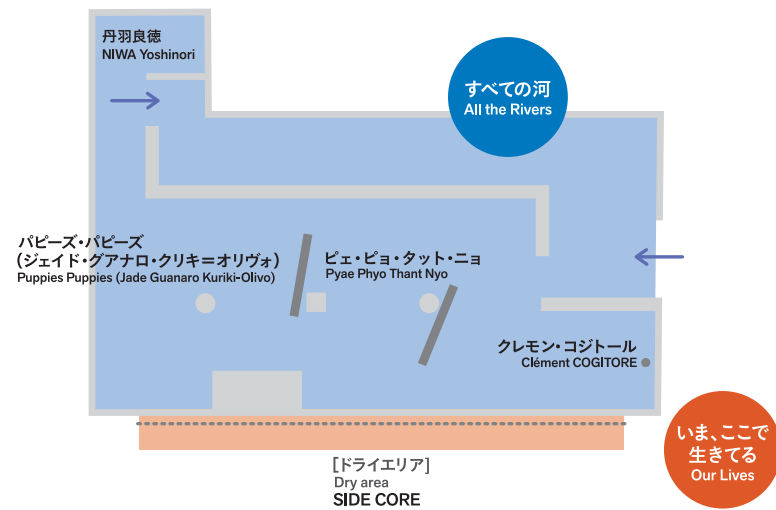
BankART KAIKO

いま、ここで生きてる Our Lives

SIDE CORE

すべての河 All the Rivers

クレモン・コジトール  
丹羽良徳  
パピーズ・パピーズ(ジェイド・グアナロ・クリキ=オリヴォ)  
ピエ・ピョ・タット・ニョ



BankART KAIKO 外観 撮影:大野隆介

すべての河 All the Rivers



ピエ・ピョ・タット・ニョ、クレモン・コジトール 展示風景 撮影:大野隆介



## クイーンズスクエア横浜

### いま、ここで生きてる Our Lives

北島敬三+森村泰昌

いま、ここで生きてる Our Lives



北島敬三+森村泰昌《野草の肖像:M. Y. September 16th, 2023》(左)、  
《野草の肖像:L. X. / M. Y. September 17th, 2023》(右)2023/2024 撮影:山本真人

## 元町・中華街駅連絡通路

### いま、ここで生きてる Our Lives

チュン・イン・レインボー・チャン／陳雋然

いま、ここで生きてる Our Lives



チュン・イン・レインボー・チャン／陳雋然《生果文(果物の詩)No. 2》(部分)2024 撮影:加藤甫

## 参加アーティスト一覧(アルファベット順)

	アーティスト名(日)	アーティスト名(英)	出生国・地域 (結成国・地域)	生没年 (結成年)	会場
1	セレン・オーゴード	Søren AAGAARD	デンマーク	1980	横浜美術館
2	ディルク・ブレックマン	Dirk BRAECKMAN	ベルギー	1958	横浜美術館
3	エリーズ・キャロン& ファニー・ドゥヴオー	Élise CARRON & Fanny DEVAUX	フランス	2021	横浜美術館
4	チュン・イン・レインボー・チャン/ 陳雋然	Chun Yin Rainbow CHAN	香港	1990	元町・中華街駅連絡通路
5	スーザン・チャンチオロ	Susan CIANCIOLO	米国	1969	横浜美術館
6	ラリー・クラーク	Larry CLARK	米国	1943	横浜美術館
7	ノーム・クレイセン	Norm CLASEN	米国	1939	横浜美術館
8	クレモン・コジトール	Clément COGITORE	フランス	1983	BankART KAIKO
9	ラファエラ・クリスピーノ	Raffaella CRISPINO	イタリア	1979	横浜美術館
10	カルロマー・アークエンジェル・ ダオアナ	Carlomar Arcangel DAOANA	フィリピン	1979	横浜美術館/旧第一銀行横浜支店
11	ジェレミー・デラー	Jeremy DELLER	英国	1966	横浜美術館
12	ドバイ・ペーテル	DOBAI Péter	ハンガリー	1944	横浜美術館
13	土肥美穂	DOHI Miho	日本	1974	横浜美術館
14	ピッパ・ガーナー	Pippa GARNER	米国	-	横浜美術館
15	ルンギスワ・グンタ	Lungiswa GQUNTA	南アフリカ	1990	横浜美術館
16	マイルズ・グリーンバーグ	Miles GREENBERG	カナダ	1997	横浜美術館
17	アネタ・グシエコフスカ	Aneta GRZESZYKOWSKA	ポーランド	1974	横浜美術館
18	イェンス・ハーニング	Jens HAANING	デンマーク	1965	横浜美術館
19	アルタン・ハイルラウ	Artan HAJRULLAHU	コソボ	1979	横浜美術館
20	浜口タカシ	HAMAGUCHI Takashi	日本	1931-2018	横浜美術館
21	ルイス・ハモンド	Lewis HAMMOND	英国	1987	横浜美術館
22	マシュー・ハリス	Matthew HARRIS	オーストラリア	1991	横浜美術館
23	長谷川潔	HASEGAWA Kiyoshi	日本	1891-1980	横浜美術館
24	サウス・ホー/何兆南	South HO	香港	1984	横浜美術館
25	ジョナサン・ホロヴィッツ	Jonathan HOROWITZ	米国	1966	横浜美術館
26	ホアン・ボージ/黄博志	HUANG Po-Chih	台湾	1980	横浜美術館
27	スターニャ・カーン	Stanya KAHN	米国	1968	横浜美術館
28	オズギュル・カー	Özgür KAR	トルコ	1992	横浜美術館
29	ダムラ・クルツチ克蘭	Damla KILICKIRAN	スウェーデン	1991	横浜美術館
30	北島敬三+森村泰昌	KITAJIMA Keizo + MORIMURA Yasumasa	日本	北島:1954 森村:1951	クイーンズスクエア横浜
31	ジョシュ・クライン	Josh KLINE	米国	1979	横浜美術館
32	小林昭夫とBゼミ	Kobayashi Akio and B-semi	日本	小林: 1929-2000 Bゼミ: 1967-2004	横浜美術館
33	ケーテ・コルヴィッツ	Käthe KOLLWITZ	ドイツ (旧・東プロイセン/ 現・ロシア)	1867-1945	横浜美術館
34	厨川白村	KURIYAGAWA Hakuson	日本	1880-1923	横浜美術館

	アーティスト名(日)	アーティスト名(英)	出生国・地域 (結成国・地域)	生没年 (結成年)	会場
35	クララ・リデン	Klara LIDEN	スウェーデン	1979	横浜美術館
36	魯迅	LU Xun	中国	1881-1936	横浜美術館
37	トレイボーラン・リンド・マウロン	Treiborlang LYNGDOH MAWLONG	インド	1987	横浜美術館
38	ステファン・マンデルbaum	Stéphane MANDELBAUM	ベルギー	1961-1986	横浜美術館
39	サンドラ・ムジンガ	Sandra MUJINGA	コンゴ民主共和国	1989	横浜美術館
40	ヨアル・ナンゴ	Joar NANGO	ノルウェー	1979	横浜美術館
41	エリック・ニードリング	Erik NIEDLING	ドイツ	1973	横浜美術館
42	インゴ・ニアマン	Ingo NIERMANN	ドイツ	1969	横浜美術館
43	丹羽良徳	NIWA Yoshinori	日本	1982	横浜美術館／BankART KAIKO
44	小野忠重	ONO Tadashige	日本	1909-1990	横浜美術館
45	オープングループ(ユリー・ビーリー、パヴロ・コヴァチ、アントン・ヴァルガ)	Open Group (Yuriy BILEY, Pavlo KOVACH, Anton VARGA)	ウクライナ	2012	横浜美術館
46	尾竹永子	OTAKE Eiko	日本	1952	横浜美術館
47	ポープ・L	Pope.L	米国	1955-2023	横浜美術館
48	ブリックリー・ペーパー(チェン・イーフェイ & オウ・フェイホン)／刺紙(陳逸飛 & 歐飛鴻)	Prickly Paper (CHEN Yifei & OU Feihong)	中国	2019	横浜美術館
49	パピーズ・パピーズ(ジェイド・グアナロ・クリキ=オリヴォ)	Puppies Puppies (Jade Guanaro Kuriki-Olivo)	米国	1989	横浜美術館／BankART KAIKO
50	ピエ・ピョ・タット・ニョ	Pyae Phyo Thant Nyo	ミャンマー	1998	BankART KAIKO
51	トマス・ラファ	Tomas RAFA	スロバキア	1979	横浜美術館
52	シビル・ルパート	Sibylle RUPPERT	ドイツ	1942-2011	横浜美術館
53	坂本龍一	Ryuichi SAKAMOTO	日本	1952-2023	横浜美術館
54	マーガレット・サーモン	Margaret SALMON	米国	1975	横浜美術館
55	アラン・セクーラ	Allan SEKULA	米国	1951-2013	横浜美術館
56	志賀理江子	SHIGA Lieko	日本	1980	横浜美術館
57	SIDE CORE	SIDE CORE	日本	2012	横浜美術館／旧第一銀行横浜支店 ／BankART KAIKO
58	リタ・ジークフリート	Rita SIEGFRIED	スイス	1964	横浜美術館
59	フンクワン・タム／譚煥坤	Vunkwan TAM	-	1997	横浜美術館
60	田中敦子	TANAKA Atsuko	日本	1932-2005	横浜美術館
61	谷中安規	TANINAKA Yasunori	日本	1897-1946	横浜美術館
62	サローテ・タワレ	Salote TAWALE	フィジー	1976	横浜美術館
63	勅使河原蒼風	TESHIGAHARA Sofu	日本	1900-1979	横浜美術館
64	富山妙子	TOMIYAMA Taeko	日本	1921-2021	横浜美術館
65	佃弘樹	TSUKUDA Hiroki	日本	1978	横浜美術館
66	エマニュエル・ファン・デル・オウウェラ	Emmanuel VAN DER AUWERA	ベルギー	1982	横浜美術館
67	ミルテ・ファン・デル・マーク	Myrthe VAN DER MARK	オランダ	1989	横浜美術館
68	プック・フェルカーダ	Puck VERKADE	オランダ	1987	旧第一銀行横浜支店
69	エクスパール・エクサー	Xper.Xr	香港	-	横浜美術館
70	你哥影視社／ユア・ブラザーズ・フィルムメイキング・グループ(スー・ユージェン／蘇育賢、リャオ・シウファイ／廖修慧、ティエン・ゾンユエン／田倥源)	Your Bros. Filmmaking Group (SO Yo-Hen, LIAO Hsiu-Hui, TIEN Zong-Yuan)	台湾	2017	横浜美術館

	アーティスト名(日)	アーティスト名(英)	出生国・地域 (結成国・地域)	生没年 (結成年)	会場
71	ジャオ・ウェンリアン／趙文量	ZHAO Wenliang	中国	1937-2019	横浜美術館
72	ジャオ・イエンニエン／趙延年	ZHAO Yannian	中国	1924-2014	横浜美術館
73	ジョン・イエファー／鄭野夫	ZHENG Yefu	中国	1909-1973	横浜美術館

### セクション「李平凡の非凡な活動：版画を通じた日中交流」

	アーティスト名(日)	アーティスト名(英)	出生国・地域 (結成国・地域)	生没年 (結成年)	会場
74	飯野農夫也	IINO Nobuya	日本	1913-2006	横浜美術館
75	川西英	KAWANISHI Hide	日本	1894-1965	横浜美術館
76	リー・ホワ／李樺	LI Hua	中国	1907-1994	横浜美術館
77	リー・ピンファン／李平凡	LI Pingfan	中国	1922-2011	横浜美術館
78	大田耕士	OTA Koshi	日本	1909-1998	横浜美術館
79	鈴木賢二	SUZUKI Kenji	日本	1906-1987	横浜美術館
80	滝平二郎	TAKIDAIRA Jiro	日本	1921-2009	横浜美術館
81	ジャオ・ルイチュエン／招瑞娟	ZHAO Ruijuan	中国	1924-2020	横浜美術館

### セクション「縄文と新たな日本の夢」

	アーティスト名(日)	アーティスト名(英)	出生国・地域 (結成国・地域)	生没年 (結成年)	会場
82	石元泰博	ISHIMOTO Yasuhiro	米国	1921-2012	横浜美術館
83	児島善三郎	KOJIMA Zenzaburo	日本	1893-1962	横浜美術館
84	中島清之	NAKAJIMA Kiyoshi	日本	1899-1989	横浜美術館
85	岡本太郎	OKAMOTO Taro	日本	1911-1996	横浜美術館

### セクション「革命の先にある世界」

	アーティスト名(日)	アーティスト名(英)	出生国・地域 (結成国・地域)	生没年 (結成年)	会場
86	エナジー・ウェイビング・コレクティブ／一起練功	Energy Waving Collective	中国	2020	旧第一銀行横浜支店
87	インターアジア木版画マッピング・グループ	Inter-Asia Woodcut Mapping Group	-	2019	旧第一銀行横浜支店
88	リャオ・シェンジェン&ホァン・イージェ／廖炬榛&黃奕捷	LIAO Xuan-Zhen & HUANG I-Chieh	台湾	リャオ:1993 ホァン:1992	旧第一銀行横浜支店
89	ロストジェンズ・コンテンポラリー・アート・スペース	Lostgens' Contemporary Art Space	マレーシア	2004	旧第一銀行横浜支店
90	松本哉	MATSUMOTO Hajime	日本	1974	旧第一銀行横浜支店
91	パンカチーフ(ナンシー・リウ／劉南茜、マイケル・ルン／梁志剛、ジョン・ユー／余在思)	Pangkerchief (Nanxi LIU, Michael LEUNG, Jon YU)	香港	2015	旧第一銀行横浜支店
92	ヤマガタ・トゥイークスター／山形童子	Yamagata Tweakster	韓国	-	旧第一銀行横浜支店
93	山下陽光	YAMASHITA Hikaru	日本	1977	旧第一銀行横浜支店

### パブリックプログラム・アーティスト

	アーティスト名(日)	アーティスト名(英)	出生国・地域 (結成国・地域)	生没年 (結成年)	会場
	伊東純子	ITO Junko	日本	1970	横浜美術館
	vivian sui method(数見亮平＋桐月沙樹＋齋藤匠＋須田貴哉)	vivian sui method (KAZUMI Ryohei + KIRIZUKI Saki + SAITO Takumi + SUDA Takaya)	日本	2016	横浜美術館





### 03. / アートもりもり!

#### 概要

アーティストック・ディレクター (AD) による国際展のテーマ「野草」を共有する市内のアート拠点が、多彩な展示やプログラムを横浜駅から山手地区におよぶ広いエリアで展開する「アートもりもり!」を実施した。

#### 第8回横浜トリエンナーレ

第8回 横浜トリエンナーレ  + 第9回 横浜トリエンナーレ   
 野草: いま、ここで生きてる + アートもりもり!

#### セット券プログラム

「アートもりもり!」の有料プログラムである「BankART Life7」と「黄金町バザール2024」を「野草: いま、ここで生きてる」とセットで鑑賞できるようにした。(セット券の詳細は、P.67参照)

#### BankART Life7「UrbanNesting: 再び都市に棲む」

2004年の活動開始から、都市と対峙しながらオルタナティブなアート・スペースとしての活動を続けてきたBankART1929による7回目となる「BankART Life」のテーマは「再び都市に棲む」。BankART Stationを起点として、関内地区、みなとみらい21地区、ヨコハマポートサイド周辺地区の3つのエリアの日常空間に作品を展開した。

日時: 3月15日(金) - 6月9日(日) 11:00 - 19:00 (BankART Station)  
 ※木曜休場(4月4日、5月2日、6月6日を除く)。ただし、BankART Station以外の会場の休日および観覧可能時間は、各設置場所に準じた。  
 会場: BankART Station + 周辺各所 (関内地区、みなとみらい21地区、ヨコハマポートサイド周辺地区)  
 入場料: 単体パスポート1,000円 ※高校生以下無料  
 来場者数: 6,959名 (BankART Station有料部分入場者数のみ)  
 関連プログラム: 計38回実施、628名参加  
 主催: BankART1929



©BankART1929 撮影:中川達彦



©ヤング荘

[参加作家142組] (五十音順)  
 浅井裕介、アトリエ・ワン+東京工業大学塚本研究室、石内都、磯崎道佳、ウー・チェンイー、牛島達治、大田黒衣美、岡崎乾二郎、甲斐貴大/studio arché、片岡純也+岩竹理恵、川俣正、キム・ガウン、蔵真墨、小林椋、佐藤邦彦、さとうみこ、志田塗装+酒井一吉、鳥袋道浩、下寺孝典(TAIYA)、白井美穂、SPACESPACE、鷹野隆大、高橋士郎、谷本真理、電子音響ビープル、野老朝雄、中谷ミチコ、西原尚、蓮輪友子、婦木加奈子、blanClass+神村恵、みかんぐみ、水木壘、三田村光土里、光岡幸一、村田真、矢内原充志、柳幸典、ヤング荘、吉田山+西山朝+木雨家具製作所、殿村太一、ワークステーション+武蔵野美術大学建築学科高橋スタジオ

### 黄金町バザール2024 —世界のすべてがアートでできているわけではない—

黄金町バザールはアートとコミュニティの関係、アジアとの交流をテーマに2008年より開催しているアートフェスティバル。15回目を迎える今回展では黄金町に関わりのあるアーティストをはじめ、アジアや横浜、他都市よりアーティストを招へいし、いくつかの章に分けて紹介した。また、黄金町のまちづくりの歴史を振り返り、その20年の軌跡を辿った。

日時: 3月15日(金) - 6月9日(日) 11:00 - 19:00  
 ※木曜休場(4月4日、5月2日、6月6日を除く)  
 会場: 京急線日ノ出町駅・黄金町駅間の高架下スタジオ、周辺のスタジオほか  
 入場料: 単体パスポート1,000円 ※高校生以下無料  
 来場者数: 31,187名  
 関連プログラム: 計55回実施、1,280名参加  
 主催: 特定非営利活動法人黄金町エリアマネジメントセンター、初黄・日ノ出町環境浄化推進協議会

[参加作家133組] (五十音順)  
 青木真莉子、安部泰輔、井上修志、ウ・ボウエイ/吳柏威、岡田光生、小幡春生、かずさ、gansomaeda (渡辺郷+蔦谷染)、クリス・チョン・チャン・ファイ、さとうりさ、獅子の歯ブラシ(稲村行真、船山哲郎、工藤結依)、地主麻衣子、柴田祐輔、スティーブ・フロスト、龍健太郎、尋木昭帆、谷口安利、チェン・レンベイ/程仁瓏、寺島大介、トウイ・アイン・ダン、西松秀祐、ニディヤ・クスマヤ、ハシグチリントウ、平山好哉、プ・ユン/普耘、本間純、マー・エイホン/馬延紅、実実生、宮内由梨、ムン・チャンファン、山本篤、柳瑛宋、和田昌宏



井上修志《日和山の階段を新しい視点まで延長してみる》2021 撮影:笠木靖之



安部泰輔《黄金森》2024 撮影:笠木靖之

#### 無料アート展示

「アートもりもり!」の無料プログラムでは、市内の創造界隈拠点や企業と連携して、多彩なアート展示を行った。

#### ポート・ジャーニー・プロジェクト 7 SEEDS -COMMUNICATION UNDER TREES- 展

象の鼻テラスが取り組む、創造的まちづくりを推進する世界の港湾都市の行政、文化施設と関係者、アーティストが協働する持続的な文化交流のためのネットワーク「ポート・ジャーニー」のグループ展。主要メンバーのひとり、ミヒャエル・クレス (ハンブルク、ドイツ) による映像とサウンドのインスタレーション《I Was》と、クレスが提案する地球を未来につなぐ「7つのメソッド」を手掛かりに公募で集まった作品を展示した。

日時: 5月10日(金) - 6月9日(日) 10:00 - 18:00  
 会場: 象の鼻テラス  
 来場者数: 42,332名  
 関連プログラム: 計2回実施、30名参加  
 主催: 象の鼻テラス  
 企画・ディレクション: ミヒャエル・クレス  
 協力: Hyper Cultural Passengers, Hamburg



撮影:加藤南



撮影:川島彩水

[オープンコール参加者] (順不同)  
 #FFFF00, Agnė Juodvalkytė, Ahmed Ahmed, AkikoTerunuma, Aleksandar Eftimovski, Aleksandra Sascha Beloyeroova, Alesia Majytava, alex sonderegger(so+ba), Almut Linde, Anna Grahlmann, Annika Unterburg, Arina Stepanov, artist collective: Sophie Casado & Christine Schön, 小野寺綾, Ayaka, Benjamin Janzen, Capitana F, Chao Li, Chiara Hofmann, Chrisdian Wittenburg, Christian Nappert, Christopher Çolak, Claudia Reiche, Detlef Lemme, Didier Frederick-Simon, elena victoria pastor, Elizabeth Wood, Enea Toldo, Esteban Devignaud, Faisal Saro, Frankie Gao, Gaby Taplick, Hans von Sonntag, Helene von Oldenburg, hoa et muchenberger, Isabel SELIGER, Jan Derk Diekema, Jasmin Hantl, Johannes Christopher Gerard, Jori Kehn, Julia Kaiser, Julia Nordholz, ONODA Kenzo, Kim Wiegandt, Klaus-Uwe Seelmann, Kohei, Kristina Popov, Leka Dereviankina, Lene Markusen, Lisa Claire Stolzenberger, Liza Odinkikh, LUMICO HARMONY, Luzie Kork, Madeleine Brunneier, Manfred Eichhorn, Manish C. Pathak, MARIA STUSIO, Marlen Schulz, Matt Kaelin, Mehron Kudratov, Milla Bubliy, Mina Süngüoğlu, Miriam Hamel, Naipi Witt, Paul Wiersbinski, Peter Güllenstern, Pieter Diekema, Rosa Everts, Samuel Lubicz, Sarah Letalik, Sarah Lin (NINJAWHEE), SHIMIZU Satoko, Sibylle/Mayr, Sophia Leitenmayer, Steve Mushin, Suhaylah Mohammad, Susi Hinz, MITOMO Syuta, Tara Mahapatra, Thomas Rupp, Torsten Bruch, TQ\_タケサワヒサミ, Vanessa Nica Mueller, Viviana Druga, Wanda/Listiani, Yotaro Niwa, Yousef Ahmed, Yuan/YUAN, OISHI Yuho, Yulia Lavrova, Yuuhan, 宇田見飛天, 岩谷雪子, 宮森敬子, 栗原亜也子, 山本総来, 柴田楓子, 池本真里



## 石内都「絹の夢－silk threaded memories」

馬車道周辺はかつて横浜開港から近代の礎を築いた「生糸貿易」に携わる商館や検査所が置かれ、関東甲信越一円から集積された生糸が欧米へと輸出された。この絹にゆかりある地に、石内都「絹の夢」シリーズの繭から絹織物に至る過程を撮影した写真作品による、空間的な展示を行った。

会期：3月15日（金）－6月9日（日）  
 会場：みなとみらい線馬車道駅コンコース  
 来場者数：95,700名  
 主催：BankART1929、横浜トリエンナーレ組織委員会  
 アーティスト：石内都



©BankART1929 撮影：中川達彦

## 久保寛子「ハイヌウェレの彫像」

不安な現代を生きる者として原始的なものへと目を向けた作家が、世界の古代神話や日本の考古学に創作のヒントを得て、インドネシアの神話に登場する女神像の彫像を土と泥で制作・展示した。初日の4月13日（土）は、作品の仕上げとなる土塗り作業と一緒に参加者を募集し、公開制作を行った。

日時：4月13日（土）－29日（月・祝）10:00－18:00  
 会場：象の鼻パーク  
 来場者数：71,165名  
 関連プログラム：計2回実施、62名参加  
 主催：象の鼻テラス、横浜トリエンナーレ組織委員会  
 アーティスト：久保寛子



撮影：加藤甫



撮影：加藤甫

## アメリカ山公園ペーパーランプイベント「野草の灯」

ろうそくに火を灯した「ペーパーランプ」を並べて、アメリカ山公園の敷地いっぱいに「野草」にちなんだ地上絵を描いた。ろうそく設置や点灯には、来場者も一緒に参加した。

日時：5月3日（金・祝）－4日（土）[ろうそく設置] 16:00－ [点灯] 17:30－  
 会場：横浜市アメリカ山公園  
 来場者数：約16,000名  
 事前ワークショップ：計4回実施、207名参加（詳細はP.43参照）  
 主催：黄金町エリアマネジメントセンター、横浜トリエンナーレ組織委員会  
 地上絵の下絵：さとよりさ



撮影：吉本直紀



撮影：吉本直紀

## NEWoMan ART Window「Hi and Bye」高橋銃

横浜駅西口にある商業施設ニューマン横浜（運営会社：株式会社ルミネ）では、「NEWoMan ART Window」に、高橋銃による《Hi and Bye》を展示した。《Hi and Bye》は、さまざまな外的要因によって飛行が左右されてしまう紙飛行機をモチーフにした作品。空を舞う紙飛行機の姿は、野草のように日々を力強く生きるわたしたちの儚くも美しい姿を映し出した。

会期：4月1日（月）－5月31日（金）  
 会場：ニューマン横浜 NEWoMan ART Window  
 来場者数：55,443名  
 主催：株式会社ルミネ ニューマン横浜  
 アーティスト：高橋銃  
 ディレクター：佐々木真純



提供：株式会社ルミネ ニューマン横浜

## 横浜マリニタワー 横浜トリエンナーレ特別プログラム

横浜マリニタワーでは、横浜トリエンナーレ開催を記念して、展望フロアでの夜景×サウンド／映像インスタレーション作品や、テーマ「野草」にちなんだ現代アートの展示を行った。

会期：3月1日（金）－6月30日（日）  
 来場者数：8,271名  
 主催：横浜マリニタワー（リストプロパティーズ株式会社を中心とした共同事業体）

### 〈プログラム〉

#### 横浜の夜景×サウンド／映像インスタレーション「シャトル」

日時：3月15日（金）－6月9日（日）18:00－22:00  
 会場：横浜マリニタワー展望フロア  
 企画協力：アーツコミッション・ヨコハマ（公益財団法人横浜市芸術文化振興財団）

#### 「存在が花する」須田日菜子 個展

日時：3月1日（金）－4月29日（月・祝）10:00－22:00  
 会場：横浜マリニタワー2階アートギャラリー（入場無料スペース）  
 企画協力：CCCアートラボ

#### 斉木駿介 個展

日時：5月1日（水）－6月30日（日）10:00－22:00  
 会場：横浜マリニタワー2階アートギャラリー（入場無料スペース）  
 企画協力：CCCアートラボ



提供：横浜マリニタワー

## びじゅチューン！×横浜トリエンナーレ

NHK Eテレで放送中の「びじゅチューン！」で紹介された美術作品を題材に、絵に登場する人物になりきって遊ぶことができる体験展示を行った。また、「びじゅチューン！」の制作者と出演者が制作秘話や横浜トリエンナーレの魅力を紹介するトークショーも開催した。

### 〈プログラム〉

#### なりきり美術館

日時：3月15日（金）－4月7日（日）10:00－18:00  
 会場：NHK横浜放送局  
 入場者数：8,838名

#### トークショー

日時：3月28日（木）14:30－15:45／18:00－19:15  
 会場：KAAT神奈川芸術劇場 大スタジオ  
 出演：井上涼（アーティスト）、  
 倉森京子（NHKエデュケーショナル「びじゅチューン！」制作統括）  
 入場者数：358名

主催：NHK横浜放送局、横浜トリエンナーレ組織委員会



提供：NHK横浜放送局



## 04. 鑑賞サポート

展覧会に初めて足を運ぶ方や現代アートにあまり馴染みのない方にとって、鑑賞の手掛かりとなるようなツールを制作、提供した。

### 学校向けサポート

#### 横浜トリエンナーレガイド

児童・生徒たちに、現代アートをより身近に感じてもらい、国際展「野草：いま、ここで生きてる」を鑑賞する手掛かりとなる「横浜トリエンナーレガイド」を年代別に3種類制作した。ガイドは、市内の小・中・高等学校など約650校に全校配布したほか、学校団体鑑賞で市外から来場した児童・生徒等にも配布した。

種類・印刷部数：

小学1年生から3年生「みなとみらいぼうけんすごろく」(102,900部)

小学4年生から6年生および中学生「冒険ノート」(207,500部)

高校生「Wild Grass News」(104,400部)

判型等：A3判両面十字折り、

フルカラー印刷

企画：横浜美術館 教育普及グループ

「Wild Grass News」

参加アーティストやデザイナーを紹介。制作の背景や作家の意図がわかり、鑑賞の手掛かりに。



「みなとみらいぼうけんすごろく」  
横浜トリエンナーレ会場のめぐり方、作品の楽しみ方をゲーム感覚でシミュレーションできるすごろくゲーム。



「冒険ノート」  
現代アートの作家や作品が、より身近に感じられるゲーム。2択のどちらかを選びながらさまざまな作品に出会うことができる。

### その他サポート

#### わかりやすいキャプション

初めて現代アートを観る方にもわかるように、文法・言葉のレベルや文章の長さに配慮した「やさしい日本語」による作品解説を導入した。



撮影：大野隆介

#### はじめての横浜トリエンナーレ「ちょこっとガイドツアー」

横浜美術館のエducatorがガイド役となり、美術館内の無料展示エリアの作品を紹介するガイドツアーを実施した。

日時：4月7日(日)、23日(火)、5月26日(日) 各日14:00-14:30

4月27日(土)、5月11日(土)、25日(土) 各日12:00-12:30

会場：横浜美術館

参加者数：352名

企画：横浜美術館 教育普及グループ



撮影：大野隆介

#### 「ビビッと!びじゅつ発見シート」

会場で作品をより楽しむための問いかけを掲載したワークシートを制作した。シートは表と裏で2つの異なる内容となっており、好きな方を選んで取り組むことができる。小さな子どもから小学生を中心に、来場者や子ども向けプログラムの参加者へ配布したほか、WEBサイトでも公開した。

判型等：A4判、フルカラー印刷

印刷部数：7,000部

企画：横浜美術館 教育普及グループ

「きもちのパレット」

たくさんある作品のなかから、今の気持ちに合う作品を選び、作品を見て感じたことを率直に書き込む。



「〇〇さんにお手紙をかこう!」

気になった作品について誰かに伝える。誰かに手紙を書くようにじっくり見ること、より理解が深まる。

## 05. パブリックプログラム

展覧会で作品を鑑賞するだけでなく、つくる・話す・考えるなど「野草」のテーマをいろいろな形で楽しめるよう、出展アーティストや地域団体などによる多彩なプログラムを実施した。

### アーティストプログラム

#### チュン・イン・レインボー・チャン ソロ・ライブパフォーマンス「むかしと今を悼むうた」

故郷を離れて嫁入りした香港の女性たちの嘆きをあらわした作品《生果文(果物の詩) No. 2》をテーマとした、作家による弾き語りのパフォーマンスを実施。華僑・華人女性の会が中華街で運営するホールで行い、香港と横浜の女性たちの思いをつないだ。

日時：3月15日(金) 18:30-19:30

会場：横浜華僑婦女会ホール

参加者数：50名

アーティスト：チュン・イン・レインボー・チャン/陳雋然



撮影：加藤甫

#### ミルテ・ファン・デル・マーク&ヨアヒム・バーデンホルストによるパフォーマンス「恍惚とした存在」

ミュージシャンのヨアヒム・バーデンホルストとのコラボレーションで、身体に関連した儀式をリズムカルな動きで内なるエネルギーを導くというパフォーマンスを実施。パフォーマンスで用いられたアイテムや空間が展示作品となった。

日時：3月15日(金)、16日(土) 各日10:45-12:15/13:15-14:45/16:00-18:00

会場：横浜美術館 ギャラリー3

参加者数：180名

アーティスト：ミルテ・ファン・デル・マーク、ヨアヒム・バーデンホルスト



撮影：富田了平

#### アーティストとの対話 Meet the Artists

総合ディレクターの蔵屋美香が聞き手となり、アーティストック・ディレクター(AD)のリウ・ディン、キャロル・インホワ・ルーと参加アーティストから作品の成り立ちや背景について話を聞いた。

日時：3月15日(金)、16日(土) 各日13:30-16:30 会場：横浜美術館 レクチャーホール

参加者数：126名 聞き手：蔵屋美香(総合ディレクター)

[3月15日] リウ・ディン、キャロル・インホワ・ルー、スーザン・チャンチオロ、エマニュエル・ファン・デル・オウウェラ、マーガレット・サーモン、ブック・フェルカーダ、ピエ・ビョ・タット・ニョ(登壇順)

[3月16日] リウ・ディン、キャロル・インホワ・ルー、サンドラ・ムジンガ、インゴ・ニアマン、セレン・オーゴード、ヨアル・ナンゴ、ルンギスワ・グンタ(登壇順)



撮影：富田了平

#### 山下陽光の展示即売会

横浜トリエンナーレで初めて発表した新作の絵画シリーズと、新しいコンセプトによるリメイク服の販売会を展示会場で実施した。

日時：3月17日(日) 11:00-13:00、5月6日(月・祝) 15:00-17:00、6月9日(日) 15:00-17:00

会場：旧第一銀行横浜支店1階

参加者数：120名

アーティスト：山下陽光



#### パンカチーフの刺繍ワークショップ

作家が関心を寄せる2つの選んだテーマについて語り合いながら、ハンカチに刺繍するワークショップを開催した。

日時：3月24日(日) [香港パンカチーフ] 11:00-13:00 [パレスチナA to Z] 15:00-17:00

会場：旧第一銀行横浜支店2階

参加者数：21名

アーティスト：パンカチーフ(ナンシー・リウ/劉南茜、マイケル・ルン/梁志剛)



撮影：加藤甫



## アーティスト・トーク(インターアジア木版画マッピング・グループ)

『インターアジア木版画マッピング』の編集者、クリスティ・ウン／吳君義、リー・チュン・フォン／李俊峰によるトーク。展示作品と地図を参照しながら、2010年代のアジアの木版画運動がどのように展開していったのか、また現在アジアで木版画が再び注目される背景と意義について話を聞いた。

日時：4月30日(火) 15:00-15:40 会場：旧第一銀行横浜支店 1階 参加者数：15名  
登壇者：リー・チュン・フォン／李俊峰、クリスティ・ウン／吳君義、江上賢一郎(東京藝術大学 特任教授)



## 置くだけで作品になるインスタレーション体験

本展参加アーティストの佃弘樹を講師に迎え、レクチャーやインスタレーション作品の共同制作を通して、創作のエッセンスを追体験するワークショップを開催した。

日時：5月3日(金・祝) 10:30-12:30  
会場：横浜美術館 子どものアトリエ  
対象：小学生以上  
講師：佃弘樹  
参加者数：29名 企画：横浜美術館 教育普及グループ 協力：Nanzuka



撮影：加藤甫

## 建築家と語る「野草：いま、ここで生きてる」

空間設計を担当したnmstudio一級建築士事務所のにながわ蜷川結と森創太を迎え、展示会場のコンセプト、実現にいたるまでの思考や試行について語った。

日時：5月3日(金・祝) 13:00-14:15  
会場：横浜美術館 レクチャーホール  
参加者数：88名  
聞き手：片多祐子(本展キュレーター、横浜美術館 主任学芸員)  
登壇者：蜷川結、森創太、リウ・ディン、キャロル・インホワ・ルー



## 北島敬三 + 森村泰昌と語る「野草の肖像」

《野草の肖像》を制作した北島敬三+森村泰昌がADと共に、作品や「野草：いま、ここで生きてる」のコンセプトについて語った。

日時：5月3日(金・祝) 15:30-17:00  
会場：横浜美術館 レクチャーホール  
参加者数：133名  
聞き手：蔵屋美香(総合ディレクター)  
登壇者：北島敬三、森村泰昌、リウ・ディン、キャロル・インホワ・ルー



## 「野草：いま、ここで生きてる」実践編

——松本哉[まつもと・はじめ]とアーティストリック・ディレクターが語る「日々を生きるためのアクション」!

「マスケ」をキーワードに「野草：いま、ここで生きてる」で伝えたい「日々を生きるためのアクション」について語った。

日時：5月4日(土・祝) 14:30-16:00  
会場：旧第一銀行横浜支店 1階  
参加者数：54名  
聞き手：蔵屋美香(総合ディレクター)  
登壇者：松本哉、リウ・ディン、キャロル・インホワ・ルー



## ヤマガタ・トゥイクスター／山形童子パフォーマンス&トーク

旧第一銀行横浜支店と横浜美術館の間を練り歩くパフォーマンスを実施。初日にはトークも実施した。

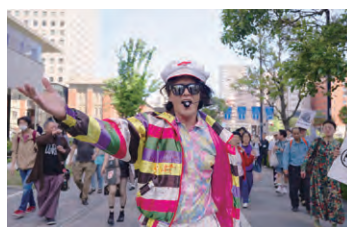
### 〈プログラム〉

#### パフォーマンス

日時：5月11日(土)、12日(日)各日14:00-  
会場：旧第一銀行横浜支店から横浜美術館までの公道、グランモール公園 参加者数：90名  
アーティスト：ヤマガタ・トゥイクスター／山形童子

#### ヤマガタ・トゥイクスター／山形童子×松本哉トーク

日時：5月11日(土) 16:00-17:30 会場：横浜美術館 休憩スペース 参加者数：56名  
登壇者：ヤマガタ・トゥイクスター／山形童子、松本哉 司会：江上賢一郎(東京藝術大学 特任教授)



## SIDE COREによる詩の朗読会

横浜美術館の外壁に路上をテーマにした詩や絵をペンキやスプレーで描くSIDE COREの作品《big letters, small things》。会期中、絶えず変化し続けた作品の一部であるポスターに書かれた「街に関するみじかい詩」を朗読する会を開催した。

日時：5月18日(土) 16:00-17:00  
会場：横浜美術館 SIDE CORE作品《big letters, small things》の前  
参加者数：20名  
アーティスト：SIDE CORE、ダニエル・ミラー



## 野草の生きかた：ふつうの人が世界を変える — 映画『首相官邸の前で』上映会 & トーク 小熊英二×蔵屋美香

ドキュメンタリー映画『首相官邸の前で』を上映。監督を務めた小熊英二と総合ディレクターの蔵屋美香が、映画の制作過程や内容に触れながら「野草」のテーマについて話し合った。

日時：5月26日(日) 13:30-16:30  
会場：横浜美術館 レクチャーホール  
参加者数：138名  
登壇者：小熊英二(慶應義塾大学総合政策学部 教授)、蔵屋美香(総合ディレクター)  
配給：アップリンク



## vivian sui methodによる木版画の体験プログラムおよび実演パフォーマンス

魯迅の時代から100年を経て、アジアの若い世代が再び木版画を媒介に連帯するさまを紹介した本展にちなみ、木版画による新しい表現を切り開くvivian sui methodのワークショップおよびパフォーマンスを開催した。

### 〈プログラム〉

#### 『インダストリアル・ウッドブロックエクササイズ』の体験

日時：5月18日(土)、19日(日)各日13:00-16:00  
会場：横浜美術館 休憩スペース  
参加者数：250名  
アーティスト：数見亮平(vivian sui method)

#### 『インダストリアル・ウッドブロックエクササイズ』の実演

日時：6月8日(土) 18:00-19:00  
会場：横浜美術館 休憩スペース  
参加者数：228名  
アーティスト：vivian sui method(数見亮平+桐月沙樹+齋藤匠+須田貴哉)

企画：横浜美術館 教育普及グループ



撮影：加藤甫



撮影：加藤甫

## 親子で楽しむプログラム

### こどものアートひろば「はらっぱ」

スタンプを使った創作ワークショップのほか、展示会の感想を書いたり、休憩したりと誰もが思い思いに利用できる無料スペースとして「はらっぱ」を横浜美術館に常設した。

日時：3月15日(金)-6月9日(日) 10:00-16:00  
会場：横浜美術館 プロジェクトスペース  
利用者数：14,931名  
空間構成：伊東純子  
企画：横浜美術館 教育普及グループ



撮影：加藤甫



## ファミリープログラム「描こう、つくろう、野草になろう！」

絵具や紙を使って描いたりつくったり、「野草」をテーマに親子で自由に創作を行うプログラムを開催した。

日時：4月27日(土)、5月11日(土)、25日(土) 各日10:30-12:00  
 会場：横浜美術館 子どものアトリエ  
 対象：小学生以下のこどもとその保護者  
 参加者数：267名  
 企画：横浜美術館 教育普及グループ  
 協力：株式会社スリーハイ



撮影：大野隆介

## 横浜トリエンナーレ ファミリーイベント@横浜市役所「わくわくアートひろば」

家族でアートを気軽に楽しみながら、横浜トリエンナーレに親しんでもらう参加型イベントを、展示会場を離れて横浜市役所で開催した。会場は、親子で遊べる「わくわくアートゾーン」や「展示・ワークショップゾーン」、人工芝の上でゆっくり本が読める「ごろごろライブラリー」、公募した横浜トリエンナーレの「思い出」を紹介する「おもいでリラックスゾーン」で構成した。

日時：3月16日(土) - 20日(水・祝) 11:00-15:00  
 会場：横浜市役所アトリウム  
 参加者数：2,933名  
 環境演出：有限会社スタジオニプロール

### 〈プログラム〉

#### 急な坂スタジオ×佐々瞬「ミルクを飲みながら」

0歳児から楽しめる、こどもによるこどものための「横浜美術館」をアトリウムに出現させた。

日時：3月16日(土)、17日(日)、18日(月)、20日(水・祝) 11:00-15:00  
 対象：0歳～どなたでも  
 企画・協力：急な坂スタジオ、佐々瞬

#### 展示「まだ見ぬ光のテラス RYUGUへ」

日時：3月16日(土)、17日(日)、20日(水・祝) 各日11:00-15:00  
 対象：小学生と保護者  
 主催：横浜市資源循環局  
 企画・協力：玉川大学 田中敬一デザイン・プロジェクト  
 協力：株式会社カネカ

#### ガーデンベアのグリーティング

日時：3月20日(水・祝) 11:20-11:40/13:00-13:20/14:20-14:40  
 協力：横浜市環境創造局、ガーデンネックレス横浜



撮影：富田了平



撮影：富田了平



撮影：富田了平



撮影：富田了平

## OUR LIVES NOW, OUR LIVES TOMORROW

### — 今を切り取り、未来を描く子どもたちのアート作品展 —

市内の小学生がSDGsの17の項目と「野草：いま、ここで生きてる」をテーマとして制作したアート作品を展示した。また、こどもを連れた家族を対象としたワークショップもあわせて開催した。

日時：[展示] 4月16日(火) - 22日(月) 10:00-18:00  
 [ワークショップ] 4月20日(土)、22日(日) 各日10:00-11:30/13:00-14:30  
 会場：JR横浜タワー アトリウム 3F イベントスペース  
 来場者数：1,316名(展示：1,247名、ワークショップ参加者：69名)  
 主催：特定非営利活動法人 EduArt 共催：横浜トリエンナーレ組織委員会  
 協力：JR東日本、YOKOHAMA Station City



提供：特定非営利活動法人 EduArt

## キッズ・ユースプログラム

### ユースプログラム「横浜トリエンナーレを体験しよう!伝えよう!」

作品やアーティストとの出会いを通してアートの魅力を体験し、感じたことや考えたことを表現し発信するプログラムを実施した。

会場：横浜美術館ほか 対象：10歳から19歳 参加者数：延べ111名 企画：横浜美術館 教育普及グループ

	日時	内容	講師
第1回	3月24日(日)10:00-15:00	鑑賞 レクチャー：出品作品と「エネルギー」について	志賀理江子
第2回	3月31日(日)10:00-15:00	レクチャー：横浜トリエンナーレについて ワークショップ：壁にポスターを貼る	蔵屋美香 SIDE CORE
第3回	4月13日(土)10:00-15:00	レクチャー：出品作品とメディアについて ワークショップ：テキスタイルを作る	山下陽光
第4回	4月14日(日)10:00-15:00	ワークショップ：リメイクTシャツ、共同制作	山下陽光
第5回	4月20日(土)10:00-15:00	ワークショップ：リメイクTシャツ、共同制作 Tシャツと共同制作作品をパレードで発表	山下陽光
第6回	4月21日(日)10:00-15:00	全体の振り返り 新聞の制作	
番外編	4月28日(日)10:00-13:00	美術館外の鑑賞ツアー	



撮影：加藤甫

### 蔵屋美香が語る 親子できたえる「考える力」：現代アートを通して、横浜トリエンナーレでできること

現代アートの作品を前に親子で会話することで「自分で考える力」を育むためのヒントとして、講演会を開催した。

日時：5月19日(日) 13:30-15:00  
 会場：横浜美術館 レクチャーホール  
 対象：主にティーンエイジャーとその保護者  
 参加者数：144名  
 登壇者：蔵屋美香(総合ディレクター)



### ロボットと遊ぶ「野草」鑑賞プログラム

普段、現代アートに触れることの少ないこどもたちが、コミュニケーションロボット「NAO」<sup>※</sup>を使った遊びを通してアートに親しみ、アートの世界に好奇心の幅を広げるきっかけとなるアウトリーチプログラムとして、アートクイズをつくるワークショップを実施した。(協力：三菱総研DCS株式会社)

※ Aldebaranの小型二足歩行ロボット「NAO」 ※「NAO」はAldebaranの登録商標です。この取り組みは、Aldebaranの「NAO」を活用し独自に実施しています。

### 障害者スポーツ文化センター 横浜ラポール

日時：[ロボット遊び] 3月20日(水・祝) 14:00-14:45  
 [作品見学] 3月22日(金) - 29日(金) の間で個別見学  
 [クイズづくり] 3月30日(土) 10:30-12:00/13:30-15:00  
 対象：特別支援学校、特別支援学級などに通学する小学生とその保護者(支援者)  
 参加者数：8組16名  
 運営協力：学校法人 岩崎学園(学生ボランティアサークル)

### みなとみらい本町小学校放課後キッズクラブ

日時：[作品見学] 3月27日(水) 13:00-16:00 [クイズづくり] 3月28日(木) 14:00-15:00  
 参加者数：12名

### 岩崎学園新横浜放課後児童クラブ、岩崎学園品濃町放課後児童クラブ[大地]・[大空]

日時：4月20日(土) 10:00-14:30  
 参加者数：14名  
 運営：学校法人 岩崎学園(学生ボランティアサークル 7名、職員 4名)





## ロボットと遊ぶ「野草」クイズ大会

コミュニケーションロボット「NAO」<sup>\*</sup>が展示作品に関するクイズを出題するクイズ大会を開催した。(協力：三菱総研DCS株式会社)

※ Aldebaranの小型二足歩行ロボット「NAO」

※「NAO」はAldebaranの登録商標です。この取り組みは、Aldebaranの「NAO」を活用し独自に実施しています。

日時：4月14日(日)、5月5日(日・祝) 各日10:30-11:15/12:00-12:45/14:00-14:45

会場：横浜美術館 レクチャーホール

対象：幼児から中学生

参加者数：373名



撮影：加藤甫

## ヨコハマ・中高生・クリエイティブ・コンペティション2024 (YSCC24)

アーティストを目指す横浜の中高生の登竜門となることを目指した中高生向け公募展を初開催。また、「YSCC24 TALKS | アートと教育」と題したシンポジウムもあわせて行った。

### 公募展 (YSCC24)

日時：4月3日(水) - 14日(日) 10:00 - 18:00 ※公開講評：4月6日(土) 13:00 -

会場：横浜市民ギャラリー

応募対象：中学生、高校生または13歳から18歳の学生 出品者数：237名(計241点)

来場者数：581名 主催：学校法人 岩崎学園



提供：学校法人 岩崎学園

### シンポジウム「YSCC24 TALKS | アートと教育」(横浜市民ギャラリー開館60周年記念)

日時：4月13日(土) 13:00 - 14:50

登壇者：稲吉稔(似て非works 代表、アーティスト)、大澤紗蓉子(横浜美術館 学芸員)、小川希(Artcenter Ongoing 代表)、佐藤友則(湘南美術学院 教育研究室・油画科講師)、細淵太麻紀(BankART1929 代表、アーティスト)、山野真悟(NPO法人黄金町エリアマネジメントセンター 事務局長)、森井健太郎(横浜市民ギャラリー 館長)、村田恒(岩崎学園マーケティング・教育事業創造本部クリエイティブグループ グループ長)

司会：小川智紀(STスポット横浜 理事長)

会場：横浜市民ギャラリー4階アトリエ 参加者数：43名 主催：学校法人 岩崎学園

共催：横浜市民ギャラリー(公益財団法人横浜市芸術文化振興財団、西田装美株式会社共同事業体)

## ワンダリングチャレンジ in 横浜トリエンナーレ

高校生が友人や仲間を誘って3人一組で決められた期間にミッションに挑戦する体験型ゲーム・イベントを、横浜のまちや横浜トリエンナーレの会場を舞台に開催した。

日時：[オープニング] 4月21日(日) 10:00 - 13:00 [クロージング] 5月11日(土) 15:00 - 18:00

会場：[オープニング] 横浜市役所アトリウム [クロージング] 横浜美術館 レクチャーホール

ミッション挑戦期間：4月21日(日) - 5月5日(日・祝)

対象者：高校生

参加者数：70名

主催：ワンダリングチャレンジ横浜トリエンナーレ大会実行委員会

共催：横浜トリエンナーレ組織委員会



提供：一般社団法人ウィルドア Courtesy of willdoor

## ジュニア記者による「横トリNEWS」

つづき・みなとみらいジュニアタイムズのジュニア記者が独自の目線で「第8回横浜トリエンナーレ」取材して作成した記事を、「横トリNEWS」として公式WEBサイトで公開した。(運営協力：NPO法人ミニシティ・プラス) \*記者数：延べ41名

### 〈取材日・記事タイトル〉

	記事タイトル	取材日
Vol.1	「オリジナルグッズ開発ワークショップ」レポート	2月4日(日)
Vol.2	「ロボットと一緒にアートクイズを作るワークショップ」レポート	3月27日(水)、28日(木)
Vol.3	ペーパーランイベント「野草の灯」レポート	5月4日(日・祝)
Vol.4	「アートもりもり! 横浜で活躍するアーティストへのインタビュー第1弾」 @横浜クリエイティブCOOP、@よこはまミーティングドーム2004-2024	5月25日(土)
Vol.5	「アートもりもり! 横浜で活躍するアーティストへのインタビュー第2弾」 @BankART Life7	5月25日(土)
Vol.6	「アートもりもり! 横浜で活躍するアーティストへのインタビュー第3弾」 @黄金町バザール2024	6月1日(土)



黄金町バザール2024「黄金森」(安部泰輔)取材風景



アメリカ山公園ペーパーランイベント「野草の灯」取材風景

## 横浜トリエンナーレ オリジナルグッズ開発ワークショップ

「野草：いま、ここで生きてる」を題材に、来場の思い出となるグッズの企画・試作品制作を行うワークショップを実施した。審査で選ばれた優秀作品を商品化し、「未来のクリエイターグッズ」として会期中に販売。また、ワークショップで制作された試作品の展示も実施した。

	開催日	内容	会場
Day 0	11月24日(金)	参加希望者向け説明会	オンライン
Day 1	1月14日(日)	テーマ理解・ディスカッション、企画検討	
Day 2	1月20日(土)・21日(日)	試作品の制作	NTT東日本ショールーム 光HOUSE YOKOHAMA
Day 3	2月4日(日)	プレゼンテーション・審査	
Day 4	3月23日(土)	オンライン講座(販売に向けたプロセス)	オンライン

対象：高校生以上 参加者数：35名 主催：横浜トリエンナーレ組織委員会、NTT東日本、NTT ArtTechnology

### 未来のクリエイター展示会

ワークショップ参加の全14チームが制作した試作品21点を展示した。

会期：3月15日(金) - 6月9日(日) 会場：横浜マリンタワー内・コミュニティラウンジ



提供：NTT東日本



## ビギナー向けプログラム

### おしゃべり鑑賞デー

乳幼児を連れた家族や現代アートに馴染みのない方でも、展示室内で気兼ねなく会話をしながら作品を鑑賞し、気軽にアートに親しむことができる日を設定した。当日は、ロボットと遊ぶ「野草」クイズ大会(P.40参照)を実施したほか、「ビビッと! びじゅつ発見シート」(P.34参照)を配布した。また、5月5日(日・祝)には、こども専用の入場レーンとして「こどもウェルカム・レーン」も設置した。

日時：4月14日(日)、5月5日(日・祝) 各日10:00 - 18:00

会場：横浜美術館、旧第一銀行横浜支店、BankART KAIKO



横浜美術館グランドギャラリー展示風景(セレン・オーゴート) 撮影：加藤甫

## インクルーシブプログラム

### 若者支援プログラム

市内の若者自立支援機関の利用者を対象に、アウトリーチプログラムと、展示会場での鑑賞ワークショップを開催した。

日時：①2月28日(水) 13:30 - 15:00、②3月27日(水) 13:30 - 15:00

会場：①よこはま南部ユースプラザ、②横浜美術館 平面室

参加者数：①13名、②15名

企画：横浜美術館 教育普及グループ





## アクセスプログラム「ことばで一緒にみる鑑賞会」

視覚障がいのある人とない人が、言葉を通して共に鑑賞するプログラムを実施した。

日時：5月12日(日) 10:30-12:30/14:30-16:30、  
26日(日) 10:30-12:30、28日(火) 14:30-16:30

会場：横浜美術館

対象：どなたでも

参加者数：48名

企画：横浜美術館 教育普及グループ、視覚障害者とつくる美術鑑賞ワークショップ



撮影：加藤甫

## アクセスプログラム「ダンボールであそび場をつくろう」

言葉の障壁を超え、つくって、観て、アートを通じた国際交流を促すプログラムを実施した。

日時：4月28日(日) 13:00-16:00

会場：横浜美術館 子どものアトリエ

対象：日本語以外の外国語を母語とする親子、日本語を母語とする親子

参加者数：66名

企画：横浜美術館 教育普及グループ、NPO法人Sharing Caring Culture

協力：メイドインつづき、古河電工パワーシステムズ株式会社、  
ガーデン&エクステリア LEADあざみ野、小岩井牛乳横浜ミルクセンター



撮影：大野隆介

## アクセスプログラム「オンラインで楽しむ妄想モクモク鑑賞会」

肢体に不自由がある人、発達障がいのある人、精神障がいのある人など、住む場所や暮らし方の違ういろいろな人と一緒にオンラインで作品を共に鑑賞する鑑賞会を実施した。

日時：5月18日(土) 13:00-15:00

対象：どなたでも

参加者数：6名

ファシリテーター：カミジョウミカ、天水みちえ

企画：横浜美術館 教育普及グループ、NPO法人エイブル・アート・ジャパン(みんなでミュージアム)



撮影：加藤甫

## 演奏会「Earth ∞ Pieces - 世界で最も SLOW なよこびの歌 -」

音楽家・蓮沼執太が書き起こした演奏用の特別な楽譜「音楽の設計図」をもとに、公募で集まったプロからアマチュアまで総勢28名の多様な個性を持つプレイヤーひとりひとりが地球のかけがえのない「Piece」(構成員)となり、前代未聞のベートーヴェンの『喜びの歌(第九)』を演奏する演奏会を開催した。

日時：3月16日(土) [パブリックタイム(無料)] 14:30-17:00 [プレミアムタイム(有料)] 19:00-20:30

会場：象の鼻テラス 参加者数：3,025名

主催：認定NPO法人スローレーベル 共催：象の鼻テラス、横浜トリエンナーレ組織委員会



撮影：427FOTO

## 急な坂スタジオ × studio oowa 「アトリウムで待ち合せ」

横浜市の創造界隈拠点「急な坂スタジオ」と、知的障がいのある子どもたちとアーティストとの協働プロジェクトや居場所づくりを行っている「studio oowa」の協働によるワークショップを実施した。

日時：4月27日(土) 13:00-15:30、28日(日) 11:00-15:30

会場：横浜役所アトリウム

対象：小学生ほか 参加者数：約300名

主催：急な坂スタジオ、横浜トリエンナーレ組織委員会

企画・協力：studio oowa



### 〈ワークショップ内容〉

#### 「こだわりラボ」

アーティストたちと一緒に絵を描いたり、工作したり、本をつくったり、音楽を奏でたり、歌ったり、踊ったり、カフェの店員になったり、自分の関心のあることを選び、楽しむワークショップを実施した。

メインコーディネーター：佐々瞬、加藤甫

参加アーティスト：Aokid、岩澤哲野、岩淵貞太、小野彩加 中澤陽 スペースノットブランク、西井夕紀子、モモンガ・コンプレックス

#### 「無題の稽古会」演劇ワークショップ

俳優やダンサーが集まり、本番のない稽古を重ねる“無題の稽古会”による演劇のワークショップを実施した。

運営：無題の稽古会

## 学校向けプログラム

### 学校団体鑑賞

児童・生徒が展覧会を通して文化芸術に親しみ、さまざまな表現に触れる機会を提供するため、学校団体鑑賞(美術予備校、フリースクール等を含む)を受け入れ、中学生以下の団体を対象に雨天時の昼食会場を提供する等、来場しやすい環境を整えた。

参加者数：63団体 2,478名 ※引率者含む(内訳は、P.69参照)



### 小学校のためのスクールプログラム

市内小学生を対象に鑑賞プログラムを実施。鑑賞前に作品の素材に触れたり、作品を観て言葉にしたりするアクティビティを体験後、小グループに分かれて鑑賞した。

日時・参加者数：5月14日(火) 10:00-12:00 横浜市立寺尾小学校 96名

5月15日(水) 10:00-12:00 横浜市立平沼小学校 108名

5月17日(金) 10:00-12:00 横浜市立東小学校 68名

5月24日(金) 10:00-12:00 横浜市立生麦小学校 65名 ※いずれも引率者含む

会場：横浜美術館 企画：横浜美術館 教育普及グループ



### 教員のためのオンライン説明会

開幕に先駆け、展覧会の見どころやさまざまな教科の学びにつながる作品のほか、児童・生徒が楽しめるコンテンツやプログラムを紹介する説明会を実施した。

日時：1月30日(火) 15:30-16:30

対象：市内小・中・高、特別支援学校教員および管理職 参加者数：17名

企画：横浜美術館 教育普及グループ



### 教員向け鑑賞会

市内小学校・中学校の図工・美術教員を対象に、校外教育の場としての活用を促すため鑑賞会を実施した。

日時・参加者数：4月24日(水) 14:30-16:30 横浜市立小学校図画工作科研究会 82名

5月8日(水) 14:30-16:30 横浜市立中学校教育研究会美術科部会 126名

5月31日(金) 13:30-16:30 神奈川県立中学校教育研究会美術科部会 99名

会場：横浜美術館 レクチャーホール 企画：横浜美術館 教育普及グループ

### アメリカ山公園ペーパーランプイベント「野草の灯」事前ワークショップ

ペーパーランプイベント「野草の灯」(P.32参照)の会場に並べる紙袋に、アーティストの指導のもと、子どもたちが自由に絵付けするワークショップを実施した。

主催：黄金町エリアマネジメントセンター、横浜トリエンナーレ組織委員会

開催日	会場	指導アーティスト	参加者数
4月15日(月)	横浜市立北方小学校	キム・ガウン	94名
4月17日(水)	アメリカ山徳育こども園	竹本真紀	27名
4月22日(月)	アメリカ山ガーデンアカデミー	太田瑞穂	61名
4月24日(水)	横浜市立元街小学校	さとうりさ	25名

横浜市立北方小学校



提供：黄金町エリアマネジメントセンター

アメリカ山徳育こども園



アメリカ山ガーデンアカデミー



横浜市立元街小学校





## 創造都市20周年

### クリエイティブシティ・ヨコハマ 20th Anniversary フォーラム

クリエイティブシティ・ヨコハマ20周年を記念して、横浜のクリエイティブシーンを彩るゲストを迎え、シンポジウムや参加型ワークショップ、アーティストと一緒に楽しめるイベントを行った。

日時：5月23日(木) 13:30-15:20、24日(金) 14:00-17:00/18:00-20:00、25日(土) 10:30-19:00  
会場：横浜市役所アトリウム

#### [DAY1(5月23日) 知る]

##### 基調講演「第8回横浜トリエンナーレの取組」

登壇者：蔵屋美香(総合ディレクター)



撮影：川島彩水

##### クロストーク「アートが心にもたらす効果」

登壇者：藤本敦也(横浜市立大学研究・産学連携推進センター 特任教授)  
川畑秀明(慶応義塾大学文学部 教授)  
蔵屋美香(総合ディレクター)



撮影：川島彩水

#### [DAY2(5月24日) 考える]

##### シンポジウム「創造都市スクールキックオフ」

登壇者：①趣旨説明：鈴木伸治(横浜市立大学 教授)  
②基調講演「世界と日本の創造都市」：佐々木雅幸(大阪公立大学 客員教授)  
③ラウンドテーブルディスカッション



撮影：川島彩水

##### 【Part 1 創造都市施策のこれまで】

鈴木伸治、吉本光宏(文化commons研究所 代表)、  
野原卓(横浜国立大学 准教授)、細淵太麻紀(BankART1929 代表、アーティスト)、  
山野真悟(黄金町エリアマネジメントセンター 事務局長)、  
岡田勉(象の鼻テラス アートディレクター)、野田邦弘(横浜市立大学大学院 客員教授)、  
永井由香(横浜市にぎわいスポーツ文化局 文化芸術創造都市推進部長)

##### 【Part 2 創造都市施策のこれから】

上野正也(コーディネーター、神奈川大学 准教授)、岡部友彦(コトラポ合同会社 代表)、  
福島慶介(NPO法人OTARU CREATIVE PLUS 専務理事、福島工務店 代表取締役)、吉田有里(名古屋芸術大学 准教授)、  
大越晴子(象の鼻テラス チーフ)、津澤峻(BankART1929 プロジェクトマネージャー)、山野桂(黄金町エリアマネジメントセンター)、  
小原光洋(アーツコミッション・ヨコハマ プログラムオフィサー)、園田大介(横浜市にぎわいスポーツ文化局 創造都市推進課担当係長)

④終わりに(創造都市スクールの紹介)：秋元康幸(横浜市立大学 客員教授)

##### トーク&ワークショップ「3大学連携・これからのクリエイティブシティ・ヨコハマを考える」

登壇者：①3大学の研究成果発表  
・「企業及び創造活動拠点の立地集積に関する調査研究」  
鈴木伸治  
・「創造界隈拠点にみる社会・地域的インパクトに関する調査研究」  
上野正也  
・「アーティスト・クリエイターの集積実態に関する調査研究」  
野原卓  
②クロストーク  
石川由佳子(一般社団法人for Cities)、鈴木伸治、上野正也、野原卓  
③ワークショップ「創造都市横浜の次の20年を考える」  
ファシリテーター：小泉瑛一(about your city、関内外クリエイターズ 副代表幹事)



撮影：川島彩水

#### [DAY3(5月25日) 楽しむ]

##### 磯崎道佳 よこはまミーティングドーム 2004-2024

クリエイティブシティ・ヨコハマのこれまでの20年に関わったアーティストたちの作品やメッセージが集まった約12m×18m、高さ5mの大きなエアドームに、当日参加者たちが自分のシルエットをかたどった「アバター(分身)」を貼り付けて1日限りの「よこはまミーティングドーム」を立ち上げた。また、アーティストと一緒に作る「等身大アバターワークショップ」もあわせて開催した。そのほか、横浜にゆかりのあるアーティストやクリエイター、関係者からのビデオメッセージを大型モニターで上映した。



撮影：川島彩水

アーティスト：磯崎道佳、村田峰紀、キム・ガウンほか 参加者数：504名  
主催：クリエイティブネットワーク(BankART1929、黄金町エリアマネジメントセンター、象の鼻テラス)

## 06. / グッズ、ショップ

第8回横浜トリエンナーレの公式グッズとして、展覧会のビジュアル・アイデンティティをデザインした岡崎真理子(REFLECTA, Inc.)が監修し、公式ロゴやメインビジュアルをあしらったTシャツ、トートバッグ、缶バッジのほか、オリジナルパッケージに入ったお菓子、アーティストの安部泰輔が制作するぬいぐるみバッジ「ヨコトリ」(「野草」に着想を得てリニューアル)を会期中に販売した。

公式グッズを取り扱うオフィシャルショップは、横浜美術館内ショップと「横浜クリエイティブCOOP」(BankART KAIKO ショップエリア)の2か所に設置した。

### 公式グッズ

公式ロゴやメインビジュアルを使用した計7アイテムを販売した。

#### 岡崎真理子による デザインアイテム



Tシャツ  
(左)バイオレット(右)ベッパー  
撮影：加藤健



トートバッグ  
撮影：加藤健



缶バッジ(5種) 撮影：加藤健

	アイテム名
1	「WILD GRASS」限定Tシャツ(バイオレット/ベッパー) ※サイズ展開:S・M・L
2	「野草」トートバッグ
3	「野草」缶バッジ ※5種展開
4	「野草」オリジナルキャンディー(PAPABUBBLE)30g(フレーバー:ミント・オレンジ)
5	香炉庵 薄皮どら 5個入り ※オリジナル焼印、「野草」パッケージ
6	香炉庵 花元町 6個入り ※「野草」パッケージ
7	ぬいぐるみバッジ「ヨコトリ」(制作:安部泰輔)

#### パッケージ等に メインビジュアルを 使用したお菓子



PAPABUBBLE キャンディー  
撮影：加藤健



「香炉庵 薄皮どら」  
横浜トリエンナーレの  
シンボルマークを焼印



香炉庵 薄皮どら



香炉庵 花元町

#### アーティスト 安部泰輔による 横浜トリエンナーレ 応援グッズ



ぬいぐるみバッジ「ヨコトリ」



「ヨコトリ」展示販売用のボード  
(制作:安部泰輔)



## クリエイターグッズ

BankART1929、黄金町エリアマネジメントセンター、象の鼻テラスが推薦する横浜にゆかりのあるアーティスト、クリエイターおよび本展参加アーティストのグッズや小作品を販売した。

出品者数：77組 アイテム数：312点

	アーティスト・クリエイター	アイテム数
1	ギャルリー・バリ	2
2	エクスポート	4
3	NEUTRAL COLORS	6
4	みかんぐみ	4
5	小泉アトリエ 小泉雅生	2
6	水辺荘	2
7	かずさ	3
8	Ariane Mercier-Beau	7
9	usagi	7
10	近あづき	7
11	内藤正雄	2
12	宇田見飛天	6
13	原倫太郎+原游	5
14	RED Profile	3
15	Fuji Anna	1
16	太田瑞穂	2
17	岩竹理恵	6
18	三田村光土里	4
19	実 実生 (MINO Mio)	2
20	野老朝雄	4
21	FRAMEFLAME	5
22	丹羽良徳	2
23	さとうりさ	7
24	井上尚子	3
25	伊藤有彦	1
26	イワナグチと、チヨダ	8
27	キウチアサミ	2
28	金子未弥	4
29	たなかまさき	2
30	三浦かおり	3
31	吉田結美	5

	アーティスト・クリエイター	アイテム数
32	深沢アート研究所 緑化研究室 カブ	7
33	マイブックサービス	1
34	富山玲子	3
35	瀧健太郎	4
36	信耕ミミ	3
37	かねだゆりあ	2
38	丸山純子	5
39	Gaeun ♥	5
40	柵瀬茉莉子	1
41	un:ten	6
42	SUZUKIMI	4
43	acatunderbubblewrap	6
44	twelvebooks	5
45	のげやまくん	5
46	orangcosong	4
47	荒牧悠	5
48	WA!moto.STUDIO	6
49	橋村至星	6
50	ピココンドウ	7
51	秋山直子	6
52	酒井一吉	2
53	SLOW LABEL	2
54	中山晴奈	3
55	松本秋則	3
56	KOSUGE1-16	4
57	UMISHIBAURA&Art-Phil	5
58	谷本真理	5
59	渡辺篤	5
60	森日出夫	5
61	Aokid	5
62	大洲大作	1
63	山口典子	1
64	ししょーと弟子ギャル	8
65	宮森敬子	2
66	窪田久美子	3
67	Gihun Noh	1
68	石内都	8
69	曾谷朝絵	4
70	椿昇	4
71	大橋文男	1
72	岡崎乾二郎	5
73	山下陽光	10
74	SIDE CORE	7
75	吉田山+西山萌+木雨家具製作所	1
76	ナカバヤシアリサ	3
77	ファブラボ神田錦町	2
	計	312



©曾谷朝絵  
アクリルキューブ「niji・iro」



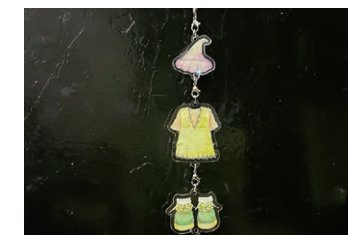
©キム・ガウン  
(写真左から)「君は僕のプレゼント!」絵本、「クマとウサギの旅」アクリルスタンド、「森」A4カード、「クマとウサギの旅」アクリルキーチェーン、「夏のクマとウサギ」ポストカード2枚セット

## 「未来のクリエイター」グッズ

1月から3月までの全4回にわたり行った「横浜トリエンナーレ オリジナルグッズ開発ワークショップ」(P.41参照)で参加者が企画・制作した試作品(14グループ 合計21点)のうち、優秀作品に選ばれた2点の企画をリデザイン等を経て商品化し、「未来のクリエイターグッズ」として販売した。

### 「野草ファッションチャーム」

チャームを3つつなげてコーディネートが組むことができる



### 「野草ハンカチーフ」

特徴的なデザインで居合わせた人とのコミュニケーションが生まれる



## ショップ

横浜美術館会場のチケット売り場に併設するオフィシャルショップで公式グッズを販売したほか、BankART KAIKO会場には、横浜トリエンナーレ組織委員会とクリエイティブネットワーク\*が共同運営する「横浜クリエイティブCOOP」を設置し、公式グッズのほか、クリエイターグッズもあわせて販売した。また、「横浜クリエイティブCOOP」では、週末の展覧会閉場後、クリエイティブネットワークが主催する関連イベントも行った。

※クリエイティブネットワーク…横浜市の創造界隈拠点である3拠点(BankART1929、黄金町エリアマネジメントセンター、象の鼻テラス)で構成

### 横浜美術館内ショップ

営業期間：3月15日(金)～6月9日(日) ※木曜定休(4月4日、5月2日、6月6日を除く)

### 横浜クリエイティブCOOP

営業期間：3月15日(金)～6月9日(日) ※木曜定休(4月4日、5月2日、6月6日を除く)

関連イベント実施回数：計10回 参加者数：742名



横浜美術館内ショップの様子 撮影：大野隆介



横浜クリエイティブCOOPの様子 撮影：中川達彦



## 07. 市民参加

### 横浜トリエンナーレサポーター

第8回横浜トリエンナーレの運営などをサポートする「おもてなしサポーター」「作品制作サポーター」「キッズプログラムサポーター」をそれぞれ募集し、期間中に延べ1,126名(実人数：237名)がサポーターとして活躍した。

#### 活動の様子

##### おもてなしサポート

館内設備や他会場までの道案内等を行った。また、周辺の商業施設等で受けられる半券サービスや周辺の観光・グルメスポット情報の紹介や、来場者へのアンケート協力の呼びかけを行った。また、横浜市役所で行った「わくわくアートひろば」(P.38参照)でも会場運営をサポートした。 活動人数：延べ696名

会場前で  
会場を案内  
撮影：大野隆介



##### 作品制作サポート

サンドラ・ムジंगा、SIDE COREや、アメリカ山公園ペーパーランプイベントの作品制作をサポートした。 活動人数：延べ77名

見落としがちな  
屋外作品を案内



##### こどものアートひろば「はらっぱ」サポート

横浜美術館に常設したキッズスペースで自由に遊ぶ子どもたちの見守りを実施したほか、予約なしで自由に参加できるスタンプを使ったワークショップの運営をサポートした。 活動人数：延べ314名

サンドラ・ムジंगाの  
作品制作を支援



##### こども向けワークショップサポート

子どもたちと保護者が一緒に参加して自由に遊ぶワークショップの運営をサポートした。 活動人数：延べ39名

こどものアートひろば  
「はらっぱ」の運営を支援  
撮影：大野隆介



##### 【交流イベント：サポーターおしゃべり会】

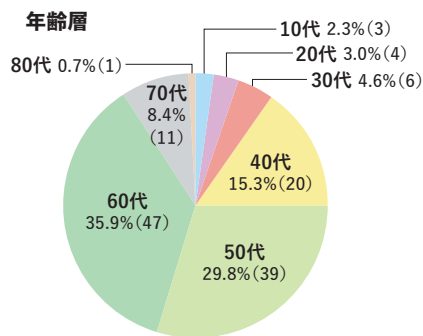
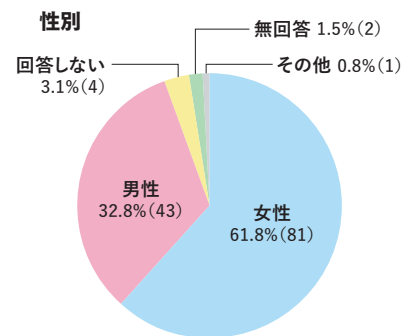
作品の前に集まり、作品のコンセプトや背景についての話や自分の好きなアートの話など、サポーター同士の交流を深めるイベントを実施した。 参加人数：48名

#### アンケート

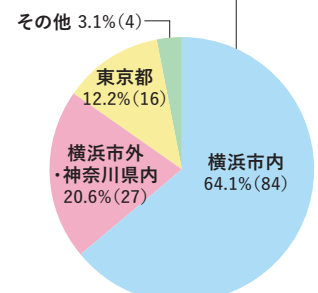
サポーター登録者1,389名(2024年6月時点)に対し、メールでアンケートの協力を依頼。選択式もしくは文章記入によるアンケート調査を実施した。

調査方法：WEBアンケート 調査期間：6月20日(木) - 7月10日(水) 有効回答数：131件

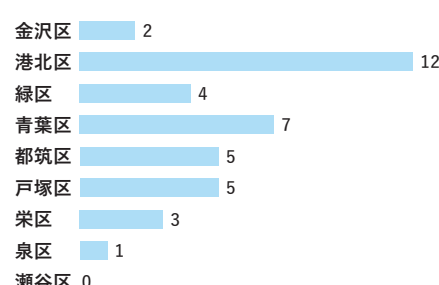
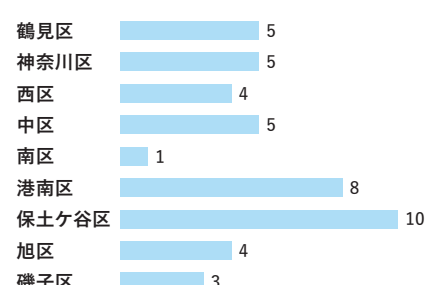
##### サポーターの属性



##### 居住地



##### 市内区の内訳

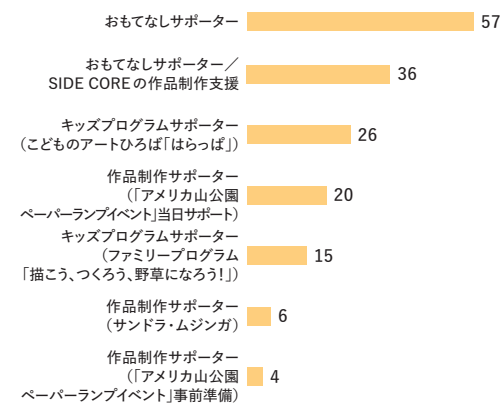


#### アンケート結果

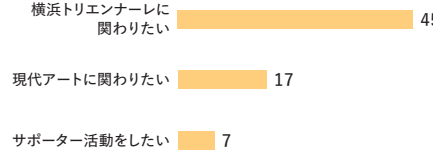
##### 1. 第8回横浜トリエンナーレのサポーター活動に参加しましたか？



##### 会期中どのような活動に参加しましたか？(複数回答可)



##### 2. 第8回横浜トリエンナーレのサポーター活動に参加した目的はどのようなものですか？最も近い項目を1つお答えください。



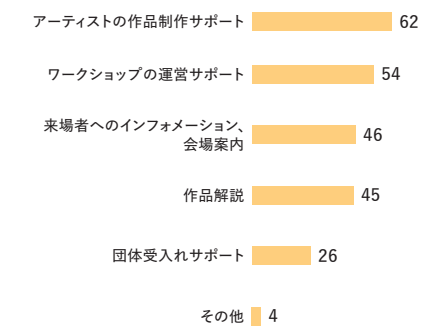
##### より作品や展覧会を理解したい



##### 3. 今後、横浜トリエンナーレのサポーター活動に参加したいですか？



##### どのような活動に参加したいですか？(複数回答可)



#### サポーターの声

※原文のまま掲載

##### ＼おもてなしサポーター／

- ・来場者へのさまざまな案内やご質問に対応することを通じて、横浜に馴染みのない方や初めて訪れる方などと交流ができたことが何より楽しかった。お一人で来場されている方などに「いかがでしたか？」とお声をかけてみると、たくさん生の声のご感想を熱く話していただくことが多く、「おもてなし」というミッションの達成感を持つことができた。
- ・こちらから声をかけて美術館の無料ゾーンに誘導した方から退館後感想を聞くのが楽しみでした。老若男女「わからなかったー」も多かったのですがその後に続く言葉もあり心に残る体験でした。
- ・会期後半では積極的に来場者にコンタクトを図り、見落としがちな作品への案内や、子ども連れ来場者に対しては「はらっぱ」への紹介案内を行うなどして感謝された(あとでわざわざ立ち寄りお礼を言われたことも)。
- ・オリエンテーションで開催のコンセプトなどを学習したので、サポーターとして来場者の方への声かけがスムーズに出来た。

##### ＼作品制作サポーター／

- ・サンドラさんの作品制作に参加出来たのが、1番印象に残っています。ありがとうございました。
- ・アメリカ山の準備の特別支援学級に入らせていただきましたが、声かけで、作品が出来上がっていく様子がやがやがとありました。
- ・「アメリカ山ペーパーランプイベント」の事前準備に参加しました。子どもたちの自由気ままな大らかさ、マイペースで楽しんでいる様子に触れられた事が、とても印象に残っています。

##### ＼こどものアートひろば「はらっぱ」サポーター／

- ・キッズスペースを訪れた全ての方に、子どもから大人まで、楽しんでもらえるような声掛けを工夫するなど、コミュニケーションにおいて成長することが出来た。
- ・ボランティアとはいえ、それぞれ知識やコミュニケーションのスキルの高い方が多く、勉強になった、身近な場所ですること貢献したいとやる気をもらえた。
- ・ワークショップで作られる作品一つ一つにそれぞれの魅力があり、それらが生み出される瞬間に立ち会えたことは何物にも変え難いと思う。また、それぞれの家族の様子に、親として考えさせられることがさまざまあった。来客者との距離感がサポーターの方によって異なり、興味深かった。

##### ＼こども向けワークショップサポーター／

- ・子ども達の素敵な笑顔に出会えた。
- ・暇な時間がなく、常に楽しい声が聞こえて自分もわくわくしました。
- ・とても素晴らしいプログラムだったと思います。会期中3回のイベントでしたが、もっと回数があってもよかったのではないのでしょうか。サポーターとして関わることができて、とても良かったです。



## 応援プログラム

第8回横浜トリエンナーレ会期中に開催される文化・芸術イベントを「応援プログラム」として募集し、文化・芸術の魅力を伝え、横浜のまちと一緒に盛り上げるため、相互広報協力を行った。(登録プログラム数：83 ※うち、2プログラムは中止)  
また、会期前のプレ応援プログラムとして、「横浜市地域文化サポート事業・ヨコハマアートサイト」とも相互広報協力を実施した。(ヨコハマアートサイト2023採択事業：32件)

### 応援プログラムの情報発信

イベント・コミュニティプラットフォーム「ピーティックス (Peatix)」内に応援プログラムの情報ページを特別開設し、登録プログラムの情報を広く発信した。  
(協力：Peatix Japan株式会社)



### 登録応援プログラム一覧

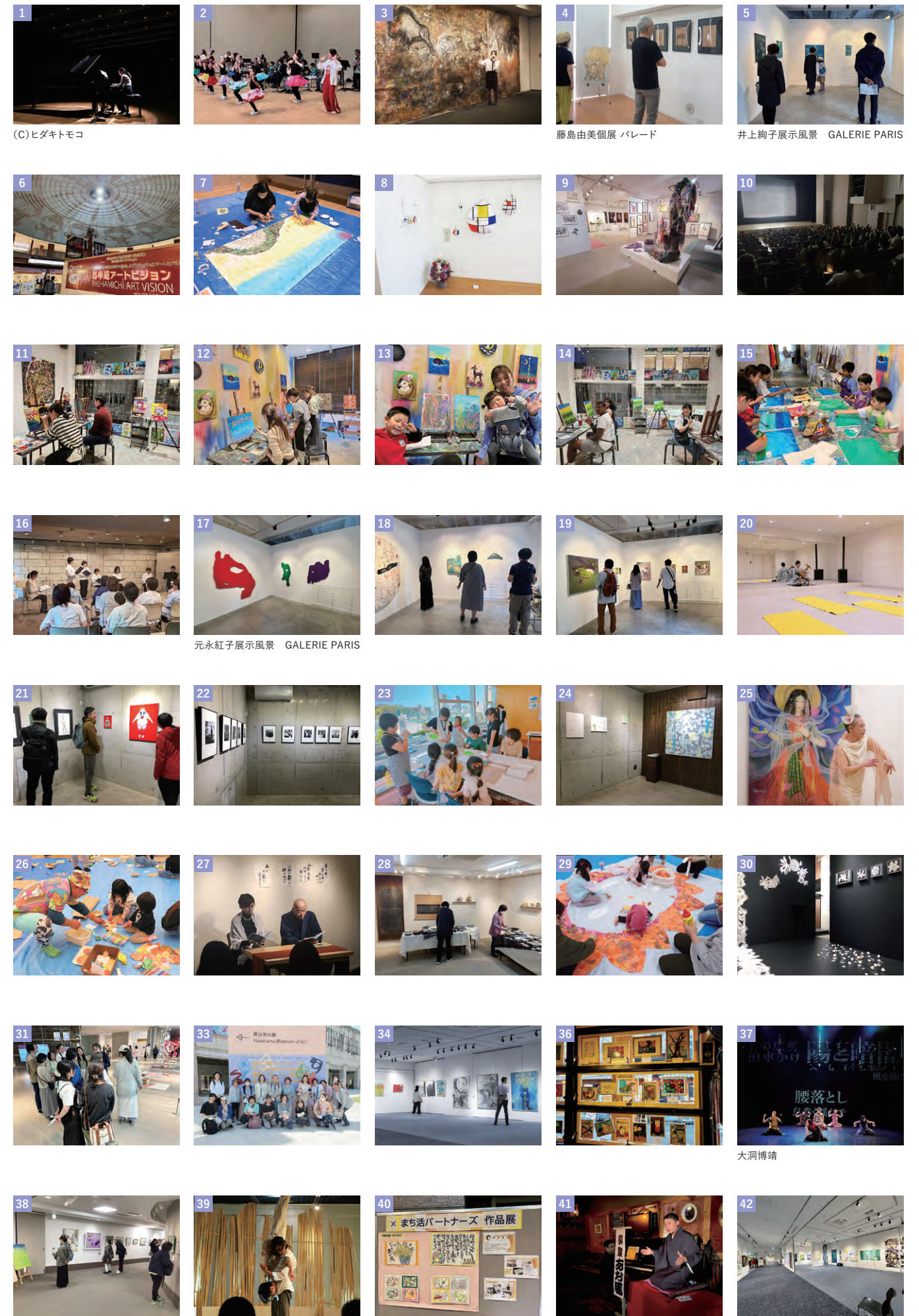
※中止2プログラム、実績報告書未提出2プログラムを除く(欠番)

	プログラム名	分野	日程	会場名	団体名	来場者・参加者数
1	シリーズ「新しい視点」紅葉坂プロジェクトVol. 3 ワークインプログレス	音楽	3月23日(土)	神奈川県立音楽堂	神奈川県立音楽堂	92
2	多世代交流音楽ワークショップ コンサート	音楽	3月9日(土)、31日(日)、 4月14日(日)、29日(月・祝)、 5月18日(土)、19日(日)、6月8日(土)	金沢公会堂、横浜市立文庫小学校校体育館	プラストファンクラブ	96
3	「山内若菜 予感展」 神々の草原・讃歌樹木から	美術	5月18日(土)～26日(日)	鶴見区民文化センター サルビアホール	鶴見区民文化センター サルビアホール	583
4	藤島由美個展 バレード	美術	5月3日(金・祝)～5日(日・祝)	art gallery, on the wind	on the wind	35
5	井上絢子個展 「今の空のあと、ブルー/ブルー」	美術	3月12日(火)～23日(土)	GALERIE PARIS	GALERIE PARIS	120
6	馬車道みらいプロジェクト	映像、写真	3月9日(土)～24日(日)	みなとみらい線馬車道駅 コンコース	馬車道みらいプロジェクト 委員会	220,000
7	さくらプラザ開館10周年関連事業 「とつかの未来地図」ワークショップ	美術	【ワークショップ】2月11日(日・祝) 【展示】2月16日(金)～12月28日(土)	戸塚区民文化センター さくらプラザ	戸塚区民文化センター さくらプラザ	539
8	パウハウスとブラジャー	デザイン	5月17日(金)～19日(日)	art garley, on the wind	L.C.L.Design	30
9	横浜人形の家企画展 「人はなぜひとがたをつくるのか」	美術、映像、 ダンス	4月6日(土)～6月30日(日)	横浜人形の家 3階企画展 示室	横浜人形の家	3,041
10	SDGsドキュメンタリー映画上映会 「草間彌生∞INFINITY」	映像	4月4日(木)	みどりアートパークホール	緑区民文化センター みどりアートパーク	230
11	ピカソ風未来の自画像制作	美術	3月15日(金)、28日(木)	Artbar Yokohama Motomachi スタジオ	Artbar Yokohama	10
12	アクションペインティング 私へのメッセージ	美術	3月22日(金)、6月7日(金)	Artbar Yokohama Motomachi スタジオ	Artbar Yokohama	5
13	親子で野草の景色 抽象画	美術	3月23日(土)	Artbar Yokohama Motomachi スタジオ	Artbar Yokohama	2
14	野草の景色 抽象画	美術	4月19日(金)、5月24日(金)	Artbar Yokohama Motomachi スタジオ	Artbar Yokohama	5
15	マテリアルリサイクルで作る野草の抽象画	美術	4月20日(土)、5月18日(土)、 6月1日(土)	Artbar Yokohama Motomachi スタジオ	Artbar Yokohama	13
16	Blue Text 朗読シアター 「ゴースト、ここに生きている」	演劇	5月11日(土)	横浜山手西洋館 エリスマン邸 地下ホール	ハタステージングオフィス	39
17	元永紅子個展 いろかげ 漫色	美術	4月13日(土)～23日(火)	GALERIE PARIS	GALERIE PARIS	170
18	連沼昌宏個展 不思議な道に進んでいった絵	美術	6月1日(土)～16日(日)	GALERIE PARIS	GALERIE PARIS	260
19	野沢二郎個展「時雨、のち静か」	美術	5月18日(土)～28日(火)	GALERIE PARIS	GALERIE PARIS	300
20	寝ながら聞く 平家琵琶で聞く平家物語@横浜  竹生嶋詣	音楽	3月15日(金)、4月19日(金)、 5月17日(金)	第二東商ビルB1階	盛典 (MORINORI)	21

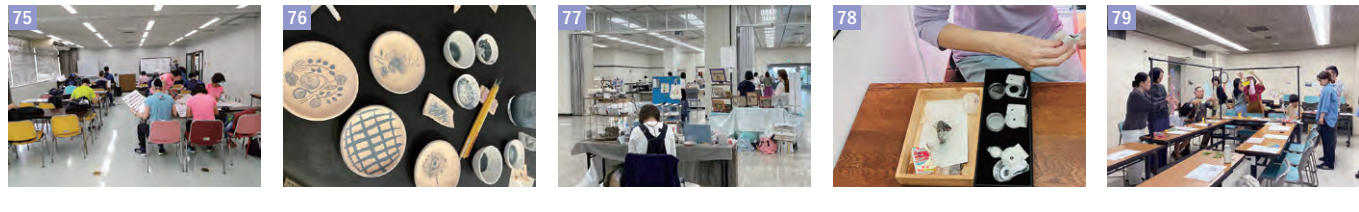
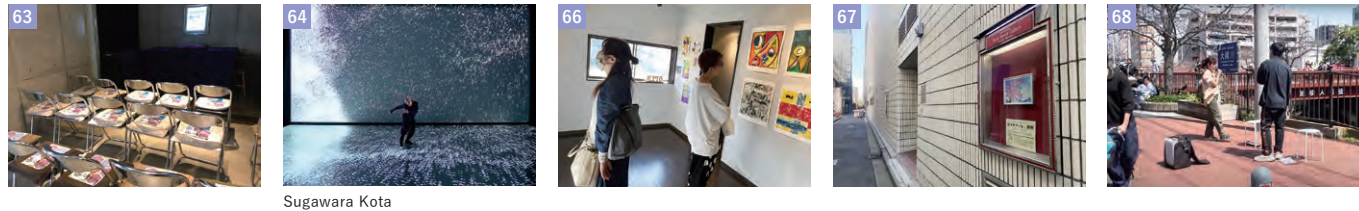
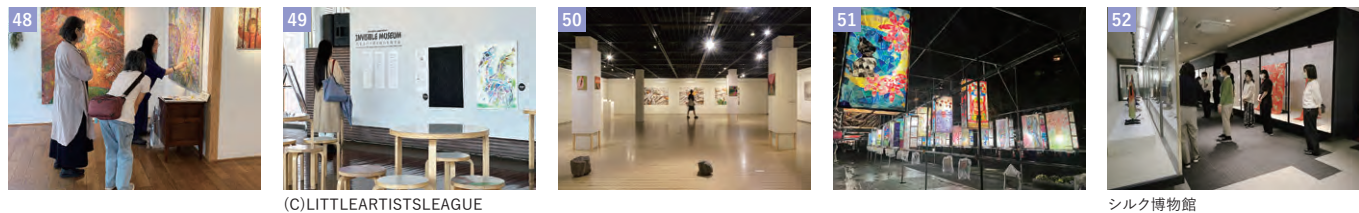
	プログラム名	分野	日程	会場名	団体名	来場者・参加者数
21	岩崎拓也   秘密の花園【珍獣図鑑】 ～私たちは何も知らない～	美術	3月13日(水)～24日(日)	gallery fu	gallery fu	97
22	江成常夫写真展 花嫁のアメリカ	写真	5月8日(水)～19日(日)	gallery fu	gallery fu	90
23	小学生・親子向けプログラム 「つくること・感じることを楽しもう!」	美術	【小学生対象】5月11日(土) 【未就園の親子対象】5月14日(火)	港南公会堂	ほっぺ	19
24	高橋健人 unknown space	美術	4月24日(水)～5月5日(日・祝)	gallery fu	gallery fu	80
25	第12回横浜開港アンデパンダン展	美術	3月12日(火)～17日(日)	横浜市民ギャラリー、 伊勢山皇大神宮	横浜開港アンデパンダン展 実行委員会	5,000
26	子ども向け工作壁画ワークショップ 「あっちこっちから横浜によろこせ!」	美術	【ワークショップ】3月3日(日) 【展示】3月3日(日)～15日(金)	戸塚区総合庁舎3階 区民広間、多目的スペース大	戸塚区役所地域振興課	44
27	「詠み語り二人会」栗生將信・芳山 鼓	朗読	3月24日(日)	万国橋ギャラリー	万国橋ギャラリー	30
28	「野口 均」作陶展	美術	3月26日(火)～29日(金)	万国橋ギャラリー	万国橋ギャラリー	40
29	花さかHumanプロジェクト	美術	3月24日(日)	日野中央公園	ばっちわーく	40
30	WHITEOUT (ホワイトアウト)	美術、映像、写真	5月22日(水)～6月9日(日)	gallery fu	gallery fu	70
31	瀬谷・栄・鶴見3館合同企画 アートを学んで横浜 トリエンナーレに行こう!～画家と一緒に辿る美術 の歴史とトリエンナーレ～	美術	【講座】4月27日(土) 【展覧会見学】4月28日(日)	瀬谷区民文化センター あじさいプラザ、 横浜美術館	瀬谷区民文化センター あじさいプラザ	8
33	瀬谷・栄・鶴見3館合同企画 アートを学んで横浜 トリエンナーレに行こう!～トリエンナーレの遊び 方♪～	美術	【講座】4月27日(土) 【展覧会見学】4月28日(日)	栄区民文化センター リリス、 横浜美術館	栄区民文化センター リリス	18
34	瑠璃ルリコ展 進化～有るものがどう成長し、 どう進んでいくのか～	美術	6月5日(水)～16日(日)	瀬谷区民文化センター あじさいプラザ 3階ギャラリー	瀬谷区民文化センター あじさいプラザ ギャラリー	265
36	パーキンソン病画家阿部八雄絵画展 「知られていない花」	美術	5月11日(土)～6月8日(土)	旧バラ荘	阿部八雄後援会	600
37	DANCE×Scrum!!!2024	ダンス	4月26日(金)～5月6日(月・振休)	KAAT 神奈川芸術劇場 アトリウム(大スタジオ)	合同会社 Wint2	500
38	芸術交差展	美術	3月13日(水)～20日(水・祝)	障害者スポーツ文化センター ラポール上大岡 8階展示コーナー	障害者スポーツ文化センター 横浜ラポール	615
39	横国トリエンナーレ	美術、映像、音楽、 ダンス	3月29日(金)～31日(日)	横浜赤レンガ倉庫1号館 スペースA・B・C	横浜国立大学	1,000
40	『横浜トリエンナーレ×まち活パートナーズ作品展』	美術	3月11日(月)～22日(金)	青葉区役所1階区民ホール、 青葉区区民活動支援センター	青葉区区民活動支援センター	111
41	「TRIP - 落語×浮世絵 -」 野草興行!ヨコトリップ!	伝統芸能	6月2日(日)	ル・タン ベルデュ/ Le Temps Perdu	TRiP 実行委員会	15
42	アート・フェスタ・瀬谷 ～あじさいのまち～	美術、写真、音楽、 ダンス	【ワークショップ】5月19日(日) 【展示】5月21日(火)～27日(月)	瀬谷区民文化センターあじさい プラザ、瀬谷駅北口駅前広場 (パフォーマンスイベント)	瀬谷区役所地域振興課	1,031
43	つなGO!はちのじライブラリー	美術	3月15日(金)～7月4日(木) 【ワークショップ】6月2日(日)、 7月4日(木)	都筑区内(川和地区・荏田地区) の各フリーライブラリー 設置場所	Little Free Libratry はちのじぶんこ (ワークショップ 2日間)	250
44	後藤京子&かれん展～ラブフォト・ライブアート	美術、写真	6月1日(土)～10日(月)	障害者スポーツ文化センター 横浜ラポール	障害者スポーツ文化センター 横浜ラポール	1,500
45	『野草』映画祭	映像	【1stステージ】 5月4日(土・祝)～6日(月・振休) 【2ndステージ】 5月9日(木)～11日(土)	【1stステージ】神奈川県立神 奈川近代文学館・ホール 【2ndステージ】神奈川県立 地球市民かながわプラザ・映 像ホール	キネマほうぼう	157
46	横浜美術大学×ハマホール・SPA EAS 合同企画 ボウリングピンとサウナストーンから生まれるクラ フトアート	美術	【ハマホールイアス展示】 3月21日(木)～6月9日(日) 【JR横浜タワー展示】 4月23日(火)～5月31日(金)	ハマホールイアス JR横浜タワー	株式会社ミツウロコスポーツ	60,222 (ハマホール・ SPA EAS 施設利用者数)
47	草花木工	美術	4月23日(火)～5月5日(日・祝)	art gallery OWL	art gallery OWL	140
48	常識のないギャラリー展「殊のはじまり」	美術、映像、写真、 ダンス	3月20日(水・祝)～6月9日(日)	Gallery/studio CHARLOTTE.USAGI	Gallery/studio CHARLOTTE.USAGI	800
49	INVISIBLE MUSEUM ～見えない大切な何かを探す展	美術、映像、音楽	3月30日(土)～4月10日(水)	象の鼻テラス	LITTLE ARTISTS LEAGUE	1,200
50	2024年度 横浜美術大学助手・副手展	美術、写真	5月8日(水)～13日(月)	横浜赤レンガ倉庫1号館 スペースA・B・C	横浜美術大学	1,113
51	第1回みなみ桜まつり2024	美術、映像、写真、 音楽、ダンス	3月22日(金)～4月7日(日) 【蒔田公園イベント】 3月23日(土)、24日(日) 【絵どうろう点灯】 3月22日(金)～24日(日) 【大岡川ライトアップ】 3月22日(金)～4月7日(日)	蒔田公園ほか	みなみ桜まつり実行委員会	14,800 (蒔田公園 イベントの2日間)



	プログラム名	分野	日程	会場名	団体名	来場者・参加者数
52	シルク博物館所蔵品展 「花嫁衣装―晴れの日の模様と彩り―」	美術	4月27日(土)–6月2日(日)	シルク博物館	一般財団法人シルクセンター 国際貿易観光会館 シルク博物館	3,483
53	第48回 三溪園俳句展	美術	3月21日(木)–6月10日(月)	三溪記念館(三溪園内)	公益財団法人 三溪園保勝会	24,481
54	曾谷朝絵「鳴る色」ワークショップ/ライトアップ	美術	【ワークショップ】11月4日(土) 【展示(ライトアップ)】 2月1日(木)–3月28日(木)	港南区役所 1階区民ホール	港南区役所地域振興課	700
55	ショーケースギャラリー シリーズ陶の表現 進藤詩子展	美術	3月16日(土)–5月26日(日)	横浜市民ギャラリーあざみ野 1F エントランスロビー	横浜市民ギャラリーあざみ野	51,173 (エントランス 入場者数)
56	Fellow Art Gallery vol.52 阿山隆之展	美術	5月29日(水)–7月15日(月・祝)	横浜市民ギャラリーあざみ野 2F ラウンジ	横浜市民ギャラリーあざみ野	8,610
57	あざみ野カレッジ スペシャル対談:進藤詩子× カニエ・ナハ「芸術と生活の器、詩、抽象―アグネス・ マーティンに倣って」	美術	4月27日(土)	横浜市民ギャラリーあざみ野	横浜市民ギャラリーあざみ野	35
58	あざみ野カレッジ 「ヨコトリを2倍楽しむ!見どころ解説」	美術	5月11日(土)	横浜市民ギャラリーあざみ野	横浜市民ギャラリーあざみ野	15
59	あざみ野カレッジ これで眠くならない!能・狂言の基礎知識	古典芸能	5月18日(土)	横浜市民ギャラリーあざみ野 3F アトリエ	横浜市民ギャラリーあざみ野	22
60	「Revealed – 3人の個人コレクション –」 Joytech Collection、照井コレクション、 G foundation Collection	美術	4月24日(水)–5月5日(日・祝)	横浜市民ギャラリーあざみ野 展示室1・2F 全室	横浜市民ギャラリーあざみ野	1,009
61	橘学苑高等学校 デザイン美術コース 自然環境に優しい椅子づくり	美術	4月19日(金)–5月31日(金)	橘学苑高等学校 2号館1階アトリウム	橘学苑高等学校	141
62	宮山広明「源氏物語・プラス」展	美術	4月9日(火)–26日(金)	Hideharu Fukasaku Art Museum Yokohama	Hideharu Fukasaku Art Museum Yokohama	403
63	立川志の八落語会   RAKUGO fu × 8 vol.8	古典芸能	4月5日(金)–7日(日)	gallery fu	gallery fu	69
64	梅田宏明「assimilating」	ダンス	3月16日(土)–17日(日)	横浜赤レンガ倉庫1号館 3Fホール	横浜赤レンガ倉庫1号館 [公益財団法人横浜市芸術 文化振興財団]	178
66	10YEARS	美術	5月3日(金・祝)–12日(日)	LAUNCH PAD GALLERY	LAUNCH PAD GALLERY	29
67	関内ホール・吉野町市民プラザ・岩間市民プラザ 3館連携プロジェクト関連企画 街ナカアートin関内	美術	3月1日(金)–4月7日(日)	横浜市民文化会館 関内ホール パックストリートギャラリー	横浜市民文化会館 関内ホール	550
68	「黄金町」を生きて/読んで (合同誌「tele-」朗読)	美術、演劇	3月31日(日)、4月7日(土)	日ノ出スタジオ前、 Tinys Yokohama Hinodecho (タイニーズ横浜日ノ出町)	かずさ・高橋慧丞	50
69	生命の宴	美術	3月18日(月)–24日(日)	Art gallery OWL	Art gallery OWL	200
70	郡和子・調布ガラススタジオ工房展	美術	4月30日(火)–5月5日(日・祝)	Art gallery OWL	調布ガラススタジオ	100
71	劇団唐せみ☆第31回公演「鐵假面」	演劇	3月20日(水・祝)–24日(日)	大通り公園 横浜市民文化 会館前 特設劇場	センターフィールドカンパニー 合同会社	684
72	生活劇「半ノラ的な」	演劇	5月25日(土)–26日(日)	ヨコハマアパートメント	ヨコハマアパートメント	20
74	横浜山手西洋館 第22回 花と器のハーモニー2024 「Rediscovery～世界のアーティスト×日本の器～」	美術	6月1日(土)–9日(日)	横浜山手西洋館7館(横浜市 イギリス館、山手111番館、外 交官の家、プラフ18番館、ペ ーリック・ホール、エリスマン邸、 山手234番館)	公益財団法人 横浜市緑の協会	75,600
75	横浜シティロゲイン2024	スポーツ、 自然観察	5月12日(日)	金沢産業振興センター	森を走ろう!	48
76	青花 呉須染付による絵付け体験	美術	5月18日(土)–19日(日)	Aonoha by Crony Club	Kawashima Kaori Porcelain	62
77	START!	美術	4月27日(土)–28日(日)	横浜産産ホール マリネリア	有限会社ワムハウス	378
78	野草のミクロとミクロな野草	写真	5月18日(土)、25日(土)、 6月1日(土)、8日(土)	Mobile Microscope Laboratory	科学コミュニケーション研究 所(さくり)	119
79	生態系×アート 「葛(くず)からアート」ワークショップ	美術	6月2日(日)	港北公会堂 会議室	Waves Project	11
80	生き纏う	美術、映像、写真、 ダンス	6月7日(金)–9日(日)	ヨコハマアパートメント	ヨコハマアパートメント	140
81	草花の知識を学び、ハーバリウムを創ろう!	美術、くらし	6月6日(木)	港南区民文化センター ひまわりの郷 会議室	港南区民文化センター ひまわりの郷	15
82	世界の現代アートに出会う「横浜トリエンナーレ」 (鑑賞ツアー付)	美術	4月26日(金)、5月13日(月)	神奈川大学みなとみらいキャン パス、横浜美術館	神奈川大学 社会連携部	60
83	野草 yasou ～社会の裂け目に生える～	音楽	6月8日(土)–9日(日)	シェアカフェニコエント、 まちかど広場	鶴ヶ峰 Glastonbury	45







## 08. まちなか回遊促進

来場者がまちなかを回遊し、会場周辺エリアも楽しめるように、商業施設や商店街、ホテル等と協力して半券サービスや連携プランを実施したほか、「よこはまウォーキングポイント」や横浜コミュニティサイクルbaybike、横浜マリントワーとの連携事業を行った。

### 半券サービス

周辺の商業施設や商店街、ホテル等の協力により、鑑賞券の半券提示でさまざまな特典が受けられる半券サービスを実施した。

開催期間：3月15日（金）～6月9日（日）

参加施設（商店街、ホテルを含む）：18施設（285店舗）

〈横浜駅周辺〉ASOBUILD(アソビル)、NEWoMan横浜、HAMABOWL EAS

〈みなとみらいエリア〉ウェスティンホテル横浜、MMテラス、MARK IS みなとみらい、みなとみらい東急スクエア、横浜ベイホテル東急、横浜ロイヤルパークホテル、ランドマークプラザ

〈桜木町駅周辺〉CIAL 桜木町、ニューオータニ横浜プレミアム

〈馬車道エリア〉KITANAKA BRICK & WHITE、馬車道商店街協同組合、LUXS FRONT

〈元町・中華街周辺〉ホテルニューグランド、横浜中華街発展会協同組合、横浜元町ショッピングストリート

### 横浜をめぐる!とくとくらりー

開幕時のキャンペーンとして、半券サービス参加施設の店舗で買い物や食事をしてスタンプを集めるデジタルスタンプラリーを実施した。

開催期間：3月15日（金）～31日（日）

対象者：鑑賞券の半券をお持ちの方

対象店舗：横浜トリエンナーレ半券サービス参加施設（285店舗）

プレゼント協力：ウェスティンホテル横浜、横浜ロイヤルパークホテル、ニューオータニ横浜プレミアム、株式会社キタムラ、株式会社JVCケンウッド

### 横浜コミュニティサイクルbaybike(ベイバイク)※

自転車のドレスガード広告へのビジュアル展開や、baybikeホームページでのおすすめルート紹介、アプリプッシュ通知による情報配信を実施した。また、baybike運営事務所で鑑賞券を提示すると、1日パスを割引価格で購入できるサービスを提供した（1回のみ有効）。

※横浜市内広域で展開する自転車シェアリングサービス



自転車のドレスガード広告

### 「よこはまウォーキングポイント」※

アプリ内のスタンプイベント「第8回横浜トリエンナーレをめぐる！」から、対象のスポットでスタンプを取得し、ポイントを集めると抽選で景品が当たる企画を実施した。また、フォトコンテストもあわせて実施し、アプリ内の「行きたい!」を多く獲得した上位入賞者には景品を贈呈した。

※18歳以上の横浜市在住・在勤・在学の方にウォーキングを通じて楽しみながら健康づくりを促す横浜市健康福祉局主催事業。歩いた歩数に応じてポイントが付与され、ポイントに応じて抽選で景品等が贈呈される仕組み。

#### 〈スタンプイベント〉

開催期間：3月15日（金）～6月9日（日）

スタンプスポット：横浜美術館、旧第一銀行横浜支店、BankART KAIKO、クイーンズスクエア横浜、元町・中華街駅連絡通路、黄金町 高架下スタジオ site-Aギャラリー、ぶかりさん橋、横浜クリエーションスクエア  
参加者数：598名（8スポット達成 347名）

#### 〈フォトコンテスト〉

応募テーマ：「第8回横浜トリエンナーレ」

応募期間：4月12日（金）～5月12日（日）

応募件数：200件



キタムラ提供  
オリジナルトートバッグ

JVCケンウッド提供  
ワイヤレスイヤホン



## 「野草：いま、ここで生きてる」限定スイーツ

周辺のホテルや商業施設の協力により、展覧会のテーマ「野草：いま、ここで生きてる」からインスピレーションを受けた限定スイーツを提供した。

ウェスティンホテル横浜



横浜トリエンナーレ 2024コラボレーションガトー  
「Inspiration of Art インスピレーション・オブ・アート」  
提供：ウェスティンホテル横浜

EAS cafe(SPA EAS内)



森林のジオラマグラス  
提供：SPA EAS

## 横浜トリエンナーレ×横浜マリンタワー 共通チケット

「野草：いま、ここで生きてる」鑑賞券と、横浜マリンタワーの展望フロアチケットがセットになったチケットを販売した。

横浜美術館



撮影：新津保建秀

横浜マリンタワー



提供：横浜マリンタワー

## 中華街満喫プラン

横浜トリエンナーレ×横浜マリンタワー共通チケットに、中華街の食事がセットとなったプランを提供した。



金香楼



提供：横浜マリンタワー



中華街 桂宮



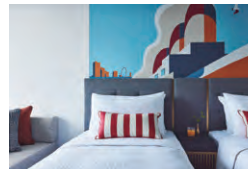
提供：横浜マリンタワー

## 横浜トリエンナーレパートナーホテルの特別プラン

周辺のホテルと連携し、展覧会と一緒に宿泊や食事を楽しめる特別プランを提供した。

ホテル名	プラン名
シタディーンハーバーフロント横浜	横浜トリエンナーレ チケット付き宿泊プラン
ウェスティンホテル横浜	期間限定 デイナーと朝食付き宿泊プラン／アフタヌーンティープラン
横浜ロイヤルパークホテル	横浜トリエンナーレ チケット付き 絶景を望む天空ステイプラン
ホテルニューグランド	歴史的建造物とともに過ごす、朝食付き宿泊プラン

シタディーン  
ハーバーフロント横浜



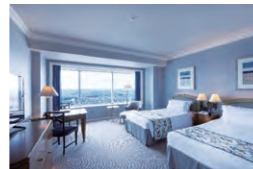
提供：シタディーンハーバーフロント横浜

ウェスティンホテル  
横浜



提供：ウェスティンホテル横浜

横浜  
ロイヤルパークホテル



提供：横浜ロイヤルパークホテル

ホテル  
ニューグランド



提供：ホテルニューグランド

## 09. 広報・プロモーション

横浜トリエンナーレを幅広い層に周知するため、美術専門メディアから一般メディアまで広く情報を発信し、インターネットメディアを活用した多様なアプローチを行った。パブリシティ活動では、プレス内覧会などを通じて、アーティスティック・ディレクター（AD）の言葉で展覧会コンセプトを伝え、新聞の展覧会評などで高い評価を得た。また、誘客促進のため、SNSやデジタル広告で作家や作品の紹介、イベント情報を発信すると共に、会場周辺ではシティドレッシングを展開して祝祭感を創出した。

### パブリシティ

#### 記者懇談会・記者会見・プレス内覧会・プレスツアー

開幕前にオンラインにて記者懇談会と記者会見を実施し、作家や作品の見どころや第8回展の特徴を紹介。記者会見では、来日したADのリウ・ディンが記者からの質問に回答し、もう1名のADであるキャロル・インホワ・ルーからのビデオメッセージも配信した。開幕前日のプレス内覧会では、国内外の多くの参加作家が横浜美術館のグランドギャラリーに一堂に会し、その光景が多く報道された。

#### オンライン記者懇談会

日時：2023年12月4日（月）15:00-16:00

概要：展覧会コンセプト、出展作家・作品、質疑応答

出席者数：Zoom参加 19名

#### オンライン記者会見

日時：1月17日（水）13:30-14:30

（NTT東日本ショールーム 光HOUSE YOKOHAMAから生配信）

概要：第8回横浜トリエンナーレの特徴

ADよりメッセージ

ADによる国際展の見どころ

「アートもりもり!」、多彩なプログラム

チケット情報

質疑応答

出席者数：Zoom参加 108名

YouTube視聴数 1,639回（2024年7月31日時点 アーカイブ視聴含む）



#### 記者会見・プレス内覧会

日時：3月14日（木）10:30-14:30

概要：[作品解説] 解説者：片多祐子（本展キュレーター、横浜美術館 主任学芸員）

[記者会見] 登壇者：リウ・ディン、キャロル・インホワ・ルー、蔵屋美香（総合ディレクター）

[フォトセッション] 会場：横浜美術館 グランドギャラリー（参加アーティスト38組42名）

出席者数：262名（[記者会見] YouTube視聴数：265回（2024年7月31日時点 アーカイブ視聴含む））

#### プレスツアー

日時：3月14日（木）14:30-17:30

参加者数：111名

ツアー内容：「野草：いま、ここで生きてる」

（旧第一銀行横浜支店、BankART KAIKO）

「BankART Life7」

（BankART Station、馬車道駅構内、ぶかりさん橋）

「黄金町バザール2024」





## プレスリリース

メール・FAXでプレスリリースを配信した。

日本語プレスリリース33回、英語プレスリリース 6回

	配信日	リリースタイトル
1	2022年6月30日	「ヨコハマトリエンナーレ2023」AD、会期、会場が決定しました
2	2022年12月20日	「第8回横浜トリエンナーレ」会期変更について
3	2023年6月28日	「第8回横浜トリエンナーレ」テーマと新たに2会場が決定
4	2023年10月5日	「第8回横浜トリエンナーレ」おもてなしサポーター、キッズプログラムサポーターを募集
5	2023年10月24日	「横浜トリエンナーレ」思い出エピソードを募集
6	2023年11月1日	「第8回横浜トリエンナーレ」応援プログラムを募集
7	2023年11月16日	横浜トリエンナーレ オリジナルグッズ開発ワークショップ 参加者募集
8	2023年11月28日	第8回横浜トリエンナーレ 第1弾 参加アーティスト発表
9	2023年12月13日	横浜市×横浜トリエンナーレ×三菱総研DCSが共同して取組
10	2024年1月17日	まちへダイブ!「第8回横浜トリエンナーレ」1/18(木)チケット発売開始 プレス資料(2024.1.17版)
11	2024年2月7日	プレスリリース/プレス資料(「BankART Life7」「黄金町パザール2024」展覧会概要と参加作家を発表)
12	2024年2月7日	横浜トリエンナーレを体験し、伝えよう 10代のアートプログラム 参加者募集
13	2024年2月8日	ロボット×アート 横浜トリエンナーレ鑑賞プログラム 参加者募集
14	2024年2月13日	高校生チーム対抗体験型ゲーム・イベント ワンダリングチャレンジ in 横浜トリエンナーレ開催
15	2024年2月15日	第8回横浜トリエンナーレ「野草：いま、ここで生きてる」全アーティスト 94組が決定
16	2024年2月29日	横浜トリエンナーレ組織委員会と横浜市立大学 Minds1020Lab が実証実験「アートが心にもたらす効果」を検証 ー2024年5月17日～19日横浜トリエンナーレにて実証実験&協力者を募集ー
17	2024年3月5日	第8回横浜トリエンナーレを盛り上げる「応援プログラム」61プログラムが決定
18	2024年3月7日	横浜市役所で、親子のアートイベント開催 横浜トリエンナーレ「わくわくアートひろば」 3/16(土)から3/20(水・祝)まで
19	2024年3月13日	プレス資料(2024.3.13版)
20	2024年3月15日	第8回横浜トリエンナーレ「野草：いま、ここで生きてる」本日3月15日開幕
21	2024年3月19日	横浜トリエンナーレと商業施設や商店街が連携 約270の店舗で割引・特典をプレゼント 半券サービスとデジタルスタンプラリーを実施
22	2024年3月19日	山下・元町中華街エリアにアート広がる 横浜トリエンナーレ×横浜マリンタワー×中華街展覧会が連携
23	2024年4月2日	第8回横浜トリエンナーレ「おしゃべり鑑賞デー」開催
24	2024年4月9日	第8回横浜トリエンナーレ「アートもりもり!」開催中 ニュウマン横浜にもアート広がる
25	2024年4月9日	「横浜トリエンナーレガイド」横浜市内の全小・中・高等学校など 約650校に配布
26	2024年4月15日	「OUR LIVES NOW, OUR LIVES TOMORROW」子どもたちのアート作品展
27	2024年4月17日	市民がグッズを考案 横浜トリエンナーレ「未来のクリエイターグッズ」4月17日(水)から販売
28	2024年4月25日	まちに広がる横浜トリエンナーレ アメリカ山公園ペーパーランプイベント「野草の灯」ほか 大型連休のファミリープログラム
29	2024年5月9日	横浜美術館館長 蔵屋美香が語る 親子できたえる「考える力」5月19日(日)特別講座開催
30	2024年5月21日	スペシャルイベント 5月26日(日) 野草の生きかた：ふつうの人が世界を変える 上映会 映画『首相官邸の前で』 トーク 小熊英二×蔵屋美香
31	2024年5月29日	第8回横浜トリエンナーレ 6月9日(日) 閉幕 夜間開場を実施します 6月6日(木)、7日(金)、8日(土)、9日(日) 20時まで
32	2024年6月7日	第8回横浜トリエンナーレ「野草：いま、ここで生きてる」公式カタログ オンライン予約開始
33	2024年6月10日	第8回横浜トリエンナーレ「野草：いま、ここで生きてる」希望をテーマにした国際展 6/9に閉幕

## 露出件数

国内媒体の露出件数一覧表(2022年6月–2024年7月)

期間	合計	テレビ	ラジオ	新聞	雑誌・書籍	フリーペーパー	WEB	その他
2022年6月–2024年2月	1,556	4	3	47	34	18	1,440	10
2024年3月	1,526	9	5	50	22	3	1,423	14
2024年4月	1,222	7	8	71	19	12	1,092	13
2024年5月	447	0	6	43	12	1	379	6
2024年6月	447	1	0	19	7	4	414	2
2024年7月	76	0	0	2	2	0	70	2
<b>合計</b>	<b>5,274</b>	<b>21</b>	<b>22</b>	<b>232</b>	<b>96</b>	<b>38</b>	<b>4,818</b>	<b>47</b>

海外媒体の露出件数一覧表(2022年6月–2024年7月)

期間	合計	テレビ	新聞	雑誌・書籍	フリーペーパー	WEB	その他
2022年6月–2024年2月	98	0	0	5	0	92	1
2024年3月	129	0	0	2	1	121	5
2024年4月	48	0	0	1	0	46	1
2024年5月	71	0	4	2	0	60	5
2024年6月	18	0	0	8	0	9	1
2024年7月	13	0	0	0	0	13	0
<b>合計</b>	<b>377</b>	<b>0</b>	<b>4</b>	<b>18</b>	<b>1</b>	<b>341</b>	<b>13</b>

国・地域	件数
中国	42
台湾	13
香港	16
韓国	72
その他アジア	6
中東	8
欧州	80
米州	34
オセアニア	7
その他	99
<b>合計</b>	<b>377</b>

## 各媒体での露出傾向(国内・海外)

### テレビ

開幕序盤の4月7日にNHK「日曜美術館」本編で横浜トリエンナーレが特集された。開幕前からの約2か月にわたる取材で、ADを含めた計10組の作家のインタビューや制作風景が紹介され、横浜美術館のリニューアルオープンとあわせて大きく扱われた。また、本編に先立ち、元旦の「日曜美術館 新春特番」でも告知された。テレビ神奈川「ハマナビ」でも会期中に登場したゲストが作品を鑑賞するなどの特集が放映された。内覧会当日には、NHK「首都圏ネットワーク」、テレビ神奈川で総合ディレクターのコメントと共に「明日から開幕」というニュースが放送された。また、NHK「首都圏ネットワーク」お天気コーナーでは横浜美術館から生中継されたほか、NHK「あさイチ」や「おはよう日本」でも紹介された。

### ラジオ

NHK横浜放送局「はま☆キラ!」、FMヨコハマ、東京FM、ラジオ日本、マリンFMほかにおいて、横浜美術館からの中継を含め、総合ディレクターやキュレーターらが多数の番組に出演し、展覧会の特徴や楽しみ方についてわかりやすく紹介した。

### 新聞

『朝日新聞』をはじめとした五大紙のほか、『神奈川新聞』『東京新聞』『The Japan Times』『西日本新聞』『しんぶん赤旗』に展覧会評が掲載され、ADのキュレーションが高く評価された。また、共同通信社によるウクライナの作家であるオープングループへのインタビューが地方紙で多数掲載されたほか、横浜市立大学との「アートが心にもたらす効果」に関する実証実験については『日本経済新聞』や『読売新聞』に、横浜市内の全小・中・高等学校等に配布した「横浜トリエンナーレガイド」記事は神奈川版等に複数掲載された。

### 雑誌

『美術展びあ』『日経おとなのOFF』『芸術新潮』などで2024年注目の芸術祭として紹介された。また、『OZ magazine』横浜特集や『散歩の達人』等では、展覧会の特徴のひとつである「アートもりもり!」を含め、横浜のまち歩きと一緒に楽しむ展覧会として紹介された。そのほか、『BAILA』では市川紗椰「週末アートのトビラ」コーナーでキュレーターとの対談形式で展覧会が紹介され、『Numero』『Casa BRUTUS』『25ans』『クロワッサン』『女性自身』などのカルチャー誌・女性誌でも多く掲載された。

### WEB

美術系の『美術手帖WEB』『Tokyo Art Beat』『美術展ナビ』で、開幕レビューが掲載されたほか、『CREA』『Time Out』等では連携拠点を含めて展覧会が紹介された。掲載内容はSNSにも投稿され、横浜トリエンナーレを広く認知してもらうきっかけとなった。また、『artscape』『美術評論+』には、専門家による展覧会評が掲載され、『日テレNEWS』では、オープングループの作品がフォーカスされ、来場者インタビューも含めた動画がニュースとして配信された。

### 海外

海外プレス招へいが実現したこともあり、主要美術WEBメディア『Art Asia Pacific』『The Art Newspaper』『e-flux criticism』『ARTFORUM』『FRIEZE』等では展覧会レビューが掲載され、ADのキュレーションが高く評価された。また雑誌『Art Review Asia』『Art in Culture』にもレビューが掲載された。また、ADのインタビュー記事が『ARTouch』『The Art Journal China』『Harper’s BAZAAR Taiwan』などの中国語圏メディアにも多数掲載された。



## ビジュアル・デザイン

ビジュアル・アイデンティティのデザインには、岡崎真理子 (REFLECTA, Inc.) を起用した。展覧会のテーマを表現するタイポグラフィー※に用いられた文字は、岡崎の発案により、横浜市民や市内の大学に通う学生など約400人による手書きの文字をもとにつくられた。また、メインビジュアルには、展覧会のコンセプトにヒントを得た「オブジェクト」があしらわれた。  
※タイポグラフィー…文字で1つのデザインをつくる手法

### コンセプト

#### 文字について

大国の大企業が全世界的スタンダードとして制作した書体を、横浜市民をはじめとした多様な個人による手書き文字をバリエーションに混ぜ合わせることで徐々に崩し、生き生きとした様相に変化させていく。

その変化の過程を、モーションロゴと、その動きの一瞬を捉えた静止ロゴの形で表現した。

#### 背景の色について

キーカラーには、夜の暗闇が徐々に明るくなっていく時刻の色が選ばれた。死が生に、絶望が希望に、暗闇が光明に移り変わる変化の過程を表現した。

— 岡崎真理子

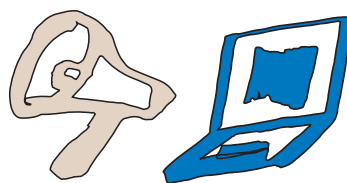
### メインビジュアル



### 手書き文字の収集



### オブジェクト



### ロゴ・デザイン

第8回 横浜トリエンナーレ  
8TH YOKOHAMA TRIENNALE  
野草: いま、ここで生きてる  
WILD GRASS: OUR LIVES

横トリへ行こう!  
2024.3.15-6.9  
第8回 横浜トリエンナーレ  
アートもりもり!



#### [岡崎真理子 (REFLECTA, Inc.)]

1984年生まれ、東京都出身。慶應義塾大学SFCで建築を学んだのち、アムステルダムへのリット・リートフェルト・アカデミーでグラフィックデザインを学ぶ。帰国後 neucitora, village® での実務経験を経て2018年よりフリー、2022年 REFLECTA, Inc. 設立。

現代美術やパフォーマンスアート、建築、ファッション等の文化領域に深くコミットし、観察とコンセプチュアルな思考にもとづいた、編集的/構造的なデザインを探索している。

## デジタル・コミュニケーション

### 特設WEBサイト

2023年6月28日にティザーサイト、同年11月28日に特設サイトを公開した。特設サイトには、開催概要、展覧会のコンセプトとADのメッセージ、作家・作品の紹介、イベント、「アートもりもり!」、会場・アクセス、チケットページを設けた。開幕後は、展覧会の全体像を紹介する「横トリやさしくまるわかり」ページや、来場者が展覧会とあわせて楽しめるコンテンツやサービスを紹介するページを新たに追加すると共に、トップページに見どころとなる作品の展示風景を掲載するなどリニューアルを行った。なお、ページ構成や配置は、モバイル閲覧が多数となることを想定して縦型配置とした。

セッション数(訪問者数): 802,133、ページビュー数(総閲覧数): 1,893,540  
(集計期間: 2023年11月28日 - 2024年6月9日)



特設WEBサイト

### SNS

#### Instagram

開幕を機に本格的に投稿を開始し、写真とキャプションでの展示作品紹介のほか、展示室内の鑑賞風景や各種イベントの様子などを静止画と動画を織り交ぜて発信した。ハイライト機能※を活用し、参加作家情報やイベント情報、「アートもりもり!」等の情報、公式グッズ情報、メディア掲載情報などをアーカイブした。また、会期中にインフルエンサーを招待し、より広い層への情報発信につなげた。

※ハイライト機能…一定時間で消える投稿(ストーリーズ)を保存し、アーカイブ化するための機能

#### X

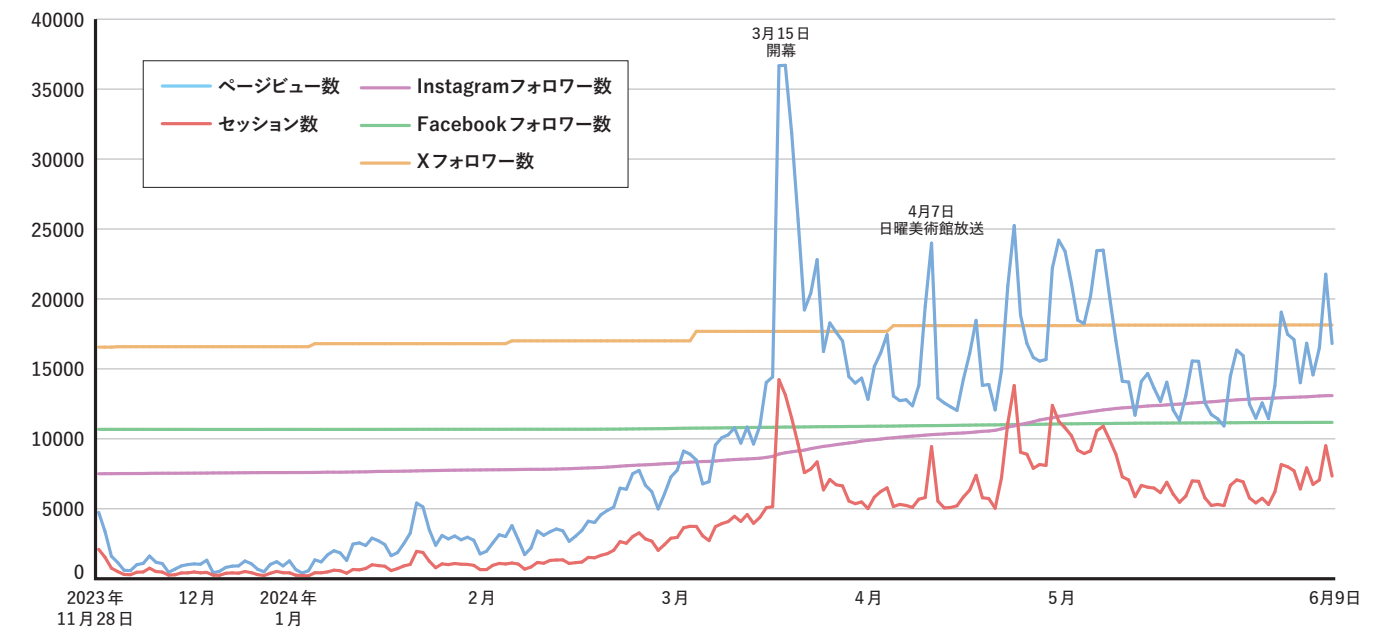
Xは主に、来場の際に役立つ情報の発信に活用し、開館・閉館のお知らせ、各種イベントの周知・参加者募集、公式グッズの紹介、来場者向けコンテンツやサービスの周知等を毎日投稿した。また、話題の拡散を狙い、参加作家の投稿や取材にもとづくメディアの投稿についても数多くリポストを行った。

#### Facebook

Facebookでは、パブリックプログラムや「アートもりもり!」のイベント等、市民が参加しやすい身近な話題が好まれる傾向が見られたため、XまたはInstagramで投稿した各種イベントの周知・参加者募集、展示作品の紹介等を、より詳細な情報を加えて発信した。

#### メールニュース

主に、プレスリリースやイベントの情報等を配信した。(日本語32回/英語3回)





## デジタル広告

横浜トリエンナーレについて取り上げるメディアの多くがデジタル発信を行っていること、また、ターゲットに直接アプローチできることを鑑み、SNS広告やリスティング広告（検索連動型広告）、リマーケティング広告を活用したデジタルプロモーションを展開した。また、海外に向けて、現代アートの専門WEBサイトへの情報掲載等を行った。

### 展覧会周知（静止画）



### 展覧会周知（動画）



© 西野正将

### 個別プログラムの周知（静止画）



### セット券・共通チケット周知（動画）



制作: BankART1929

### 18歳以下無料、夜間開場の周知（動画）



制作: 黄金町エリアマネジメントセンター

制作: 横浜マリンタワー

## ハッシュタグキャンペーン

展覧会の写真や動画を指定のハッシュタグをつけてInstagramに投稿してもらい、抽選でホテルの宿泊券などをプレゼントするハッシュタグキャンペーンを実施し、誘客促進を図った。

プレゼント協力：  
ウェスティンホテル横浜  
横浜ロイヤルパークホテル  
ニューオータニ横浜プレミアム  
株式会社キタムラ  
株式会社JVCケンウッド



## シティドレッシング・交通広告

祝祭感の創出と誘客促進を目的として、みなとみらい地区を中心としたまちなかや交通媒体等にメインビジュアルを掲出した。

### 会場および周辺の装飾

横浜美術館会場周辺では、グランモール公園やみなとみらい・桜木町駅間の動く歩道にフラッグを掲出した。また、まちなか会場の旧第一銀行横浜支店では建物の壁面と入場口に、BankART KAIKOでは建物周辺の壁面等にメインビジュアルを用いた装飾を行った。



グランモール公園 撮影: 大野隆介



みなとみらい・桜木町駅間の動く歩道



BankART KAIKO 付近 壁面ラッピング 撮影: 大野隆介



北仲クロスデッキ(歩道橋) 撮影: 大野隆介



旧第一銀行横浜支店 撮影: 大野隆介

### 駅構内・電車内など

みなとみらい線みなとみらい駅ほか各駅、横浜駅通路、横浜市営地下鉄車内などでポスターやデジタルサイネージなどによる広告を展開した。



みなとみらい線横浜駅構内



野毛ちかみち



みなとみらい線馬車道駅構内 撮影: 大野隆介



横浜市営地下鉄車内



## 広報イベント

### 図書館連携

横浜市立図書館と連携し、横浜トリエンナーレや現代アートに関するテーマ展示、トークイベントを実施した。

実施館	実施日
南図書館	3月5日(火)–31日(日)
中央図書館	3月19日(火)–4月14日(日)
保土ヶ谷図書館	4月2日(火)–30日(火)
神奈川図書館	4月15日(月)–5月6日(月・振休)
都筑図書館	4月25日(木)–5月15日(水)
港南図書館	5月1日(水)–30日(木)
山内図書館	5月7日(火)–6月10日(月)(5月11日(土):トークイベント)
泉図書館	5月8日(水)–26日(日)



横浜トリエンナーレ入門講座(山内図書館)



現代アートに関する展示(南図書館)

### 他都市連携企画PRブース設置

国際芸術祭を開催する3市(さいたま市、札幌市、横浜市)合同で、「六本木アートナイト2023」にブースを出展し、各芸術祭SNSフォロワーにスペシャルステッカーを配布するキャンペーンを行った。

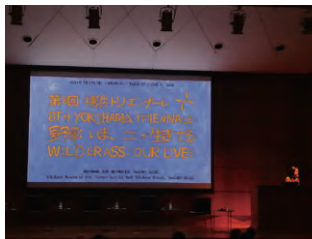
日時: 2023年5月27日(土) 10:00–28日(日) 18:00  
会場: 六本木ヒルズ 森タワー2階

### アートイベント登壇

2023年7月8日(土)に開催された国内外のアート関係者が集うアートイベント「Tokyo Gendai」と、同年11月2日(木)開催の「アートウィーク東京」でのトークに、ADや総合ディレクターの蔵屋美香が登壇し、第8回横浜トリエンナーレの企画やテーマについて参加者に向けて発信した。



「Tokyo Gendai」  
アートトーク「第8回横浜トリエンナーレの展望」

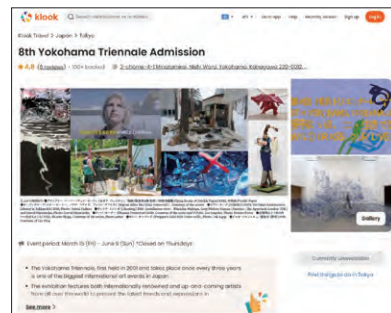


「アートウィーク東京」  
エキシビジョン・エキリチュール「展覧会はいかに語り得るか」入門講座

## 海外プロモーション

### 「Klook」チケットプロモーション

公式チケット販売サイトに加えて、アジアからの観光客に強い海外OTA(オンライン・トラベル・エージェンシー)の「Klook」に登録し、訪日外国人向けのプロモーションを実施した。(会期中「Klook」を通じたチケット販売枚数: 208枚)



Klook掲載画面

### 「VISIT JAPAN トラベル&MICE マート 2023」出展

日本政府観光局(JNTO)主催の日本最大のインバウンド商談会「VISIT JAPAN トラベル&MICE マート 2023」に横浜市観光協会およびアスコット・ジャパンと共同出展し、アジアを中心とする世界各国の旅行会社25社に対して、横浜トリエンナーレの売り込みを行った。(2023年10月26日–28日)



商談風景

## 10. 国際発信・国際交流

### 国際発信

#### IBA Stage

横浜トリエンナーレ組織委員会は国際展の会員ネットワーク「International Biennial Association」(IBA)に2013年の設立当初より参画している。5月8日(水)にIBAが主催する世界の国際展関係者を紹介するオンライン・トークプログラム「IBA Stage」に参加。横浜トリエンナーレの沿革および第8回横浜トリエンナーレについて、事務局およびアーティストック・ディレクター(AD)から紹介した。本トークは当日配信されたほか、IBAウェブサイトにてアーカイブされた。

[視聴URL]

<https://www.youtube.com/watch?v=y3J044mlCts>



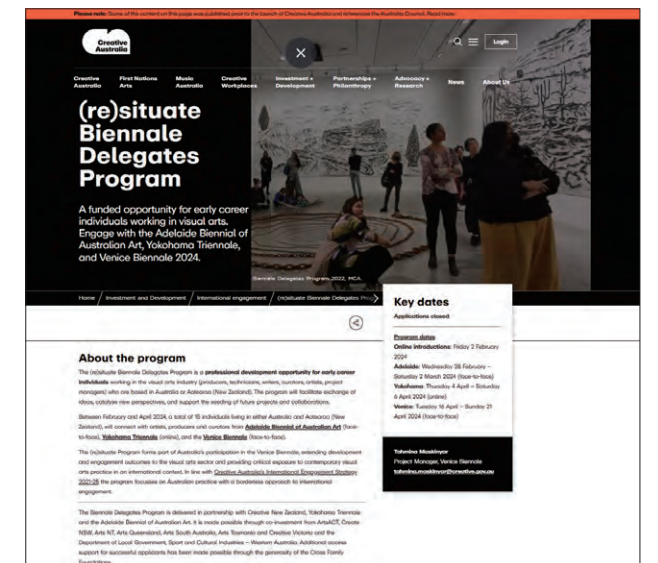
IBA Stage: 8th Yokohama Triennale “Wild Grass: Our Lives”

Curators Carol Yinghua Lu and Liu Ding walk us through their project for the 8th Yokohama Triennale titled “Wild Grass: Our Lives” referencing the seminal Chinese writer Lu Xun and the eponymous book published in 1927. The presentation is introduced by Yokohama Triennale Deputy Executive Director Aki Hoashi and moderated by Christian Oxenius.

### 国際交流

#### (re)situate Biennale Delegates Program

オーストラリア政府の文化機関、クリエイティブ・オーストラリアが主催する芸術文化分野の若手専門人材育成事業「(re)situate Biennale Delegates Program」に参加した。同事業は2月から4月にかけて、オーストラリアとニュージーランド在住の15名の若手実務者がアデレード・ビエンナーレ・オブ・オーストラリアン・アート(対面式)、横浜トリエンナーレ(オンライン)、ヴェネチア・ビエンナーレ(対面式)の各関係者と交流することを目的としたもので、横浜トリエンナーレは4月3日(水)、4日(木)の2日間、事業紹介およびADや参加作家によるプレゼンを行い、オンラインを介して、参加者と活発に意見交換を行った。





## 11. / アーカイブ

### 『野草：いま、ここで生きてる』公式カタログ

展覧会の展示デザインの特徴を捉えた図版ページ、全会場の展示風景、またアーティストック・ディレクター（AD）によるエッセーおよび7つの章の解説、「考える仲間たち」（王欽、江上賢一郎、山本浩貴、萩原弘子、町村悠香）によるテーマ別展示の解説、ほか93組の作家作品解説を収録した。日本語版・英語版の2種を制作した。



### アーティストインタビュー

参加アーティストやデザイナーの作品および制作環境についての映像インタビューを実施。映像はYouTubeに公開したほか、横浜美術館チケット売り場（機材協力：株式会社JVCケンウッド）、こどものアートひろば「はらっぱ」で投影した。

#### インタビュー

1	SIDE CORE(参加アーティスト)
2	岡崎真理子(REFLECTA,Inc. / ビジュアル・デザイン)
3	ヨアル・ナンゴ(参加アーティスト)

企画：横浜美術館 教育普及グループ ※横浜トリエンナーレガイド「Wild Grass News」の連動企画

### YouTube 横浜トリエンナーレチャンネル

YouTubeの横浜トリエンナーレ公式アカウントで、記者会見やオープニングセレモニーの様子を配信。また、アーティストインタビューのほか、パブリックプログラムや「アートもりもり！」などの記録映像等21本を順次公開した。



ヨアル・ナンゴインタビュー  
Interview with Joar NANGO



1	第8回横浜トリエンナーレ オンライン記者会見	12	「野草：いま、ここで生きてる」(横浜美術館編)
2	第8回横浜トリエンナーレ SIDE COREインタビュー	13	「野草：いま、ここで生きてる」(馬車道編)
3	第8回横浜トリエンナーレ 岡崎真理子インタビュー	14	【アートもりもり!】BankART Life7「UrbanNesting:再び都市に棲む」(SNS用動画)
4	第8回横浜トリエンナーレ ヨアル・ナンゴ インタビュー	15	【アートもりもり!】黄金町バザール2024 —世界のすべてがアートでできているわけではない— PV
5	第8回横浜トリエンナーレ 記者会見	16	アメリカ山公園ペーパーランプイベント「野草の灯」記録映像
6	第8回横浜トリエンナーレ オープニングセレモニー	17	第8回横浜トリエンナーレ ヤマガタ・トゥイークスター/山形童子×松本哉トーク
7	第8回 横浜トリエンナーレ 【アーティストとの対話】	18	第8回横浜トリエンナーレ   蔵屋美香が語る親子でできた「考える力」:現代アートを通して、横浜トリエンナーレでできること
8	第8回 横浜トリエンナーレ 【アーティストとの対話】	19	第8回横浜トリエンナーレ トーク「野草の生きた:ふつうの人が世界を変える」小熊英二×蔵屋美香【音声のみ】
9	第8回横浜トリエンナーレ 建築家と語る「野草：いま、ここで生きてる」	20	第8回横浜トリエンナーレ パブリックプログラム 佃弘樹ワークショップ「置くだけで作品になるインスタレーション体験」
10	第8回 横浜トリエンナーレ 北島敬三+森村泰昌と語る「野草の肖像」	21	第8回横浜トリエンナーレ 6/9(日)に閉幕しました!
11	「野草：いま、ここで生きてる」(ティザー動画)		

## 12. / チケット・来場者情報

### チケット

鑑賞券およびセット券は、オンライン販売サイトのほか、横浜美術館、BankART KAIKO ショップエリア「横浜クリエイティブCOOP」、BankART Station、黄金町バザールインフォメーションの窓口等で販売した。なお、高校生以下(18歳以下)、障がい者とその介護者1名は入場無料とした。

### 券種

「野草：いま、ここで生きてる」鑑賞券(取扱：紙、電子)

有料3会場(横浜美術館、旧第一銀行横浜支店、BankART KAIKO)に入場可能なチケット。※会場ごと別日での入場も可 ※入場当日は、同一会場に限り再入場可

セット券(取扱：紙、電子)

「野草：いま、ここで生きてる」鑑賞券と「BankART Life7」、「黄金町バザール2024」のパスポートがセットになったチケット。(それぞれ個別に購入するよりも1,000円割引)

フリーパス(取扱：紙)

鑑賞券およびセット券が対象とするすべての会場に何度でも入場できるチケット。横浜美術館窓口のみで販売。

[アップグレード]

「野草：いま、ここで生きてる」鑑賞券およびセット券は、販売価格の差額分を横浜美術館窓口で支払うことで、フリーパスへのアップグレードを可能とした。

### 販売価格

※税込価格

券種	一般	横浜市民	学生(19歳以上)
「野草：いま、ここで生きてる」鑑賞券	2,300円 (前売:2,200円)	2,100円 (前売:2,000円)	1,200円
セット券	3,300円 (前売:3,200円)	3,100円 (前売:3,000円)	2,000円
フリーパス	5,300円	5,100円	3,000円

### 販売期間

前売：1月18日(木) - 3月14日(木)  
当日券：3月15日(金) - 6月9日(日)

### 横浜トリエンナーレ×横浜マリンタワー 共通チケット

「野草：いま、ここで生きてる」鑑賞券と、横浜マリンタワーの展望フロアチケットがセットになったチケット。

※税込価格

券種	平日	土日祝
デイチケット	2,800円	3,000円
学生(19歳以上)	2,000円	2,200円
ナイトチケット	3,000円	3,200円
学生(19歳以上)	2,200円	2,400円

### その他

横浜トリエンナーレパートナーホテルの宿泊や食事とのセット販売のほか、海外サイト(Klook)では、みなとみらい線一日乗車券とのセット販売も行った。

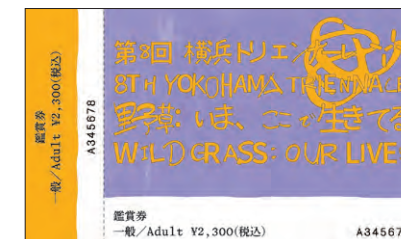
### 販売実績

販売期間：1月18日(木) - 6月9日(日) ※窓口での販売は会期中のみ。

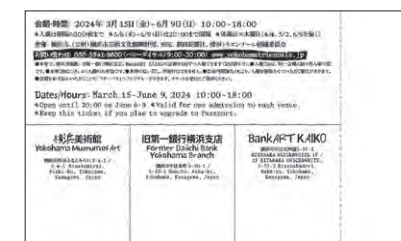
(単位：枚)

鑑賞券	セット券	フリーパス (アップグレード含まず)	合計
48,614	6,907	1,054	56,575

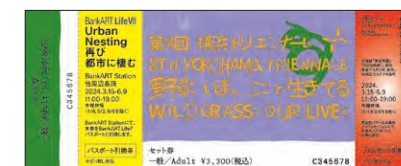
※(参考)フリーパスへのアップグレード：196件



「野草：いま、ここで生きてる」鑑賞券(一般)



裏面



セット券(一般)



裏面



フリーパス(一般)



裏面



## 来場者データ

### 総来場者数 575,857人

前回展（2020年）では、有料会場来場者数に主催・共催プログラム参加者数を加算して「総来場者数」としていたが、第8回展では人流測定システムで推計した無料会場の来場者数もこれに加算して「総来場者数」とした。

なお、人流測定システムでは無料会場の来場者数のほか、会場間の人の流れも測定した。

(単位:人)

有料会場			無料会場			主催・共催プログラム	合計
横浜美術館	旧第一銀行横浜支店	BankART KAIKO	横浜美術館無料エリア	クイーンズスクエア横浜	元町・中華街駅連絡通路		
81,854	35,347	33,332	122,100	200,096	65,540	37,588	575,857
150,533			387,736				

※有料会場の来場者数のうち、中学生以下は10,351人、高校生は4,941人、障がい者とその介護者は7,019人、外国人は4,555人。

※横浜美術館無料エリアの来場者数は、ギャラリー8および9、グランドギャラリー(有料エリアへの入場者を除いた人数)、こどものアートひろば「はらっば」利用者数をカウント。

※主催・共催プログラムのカウント対象プログラムは、パブリックプログラムのうち36プログラム。

### 一日平均来場者数

(単位:人)

	有料会場			無料会場			合計
	横浜美術館	旧第一銀行横浜支店	BankART KAIKO	横浜美術館無料エリア	クイーンズスクエア横浜	元町・中華街駅連絡通路	
平日平均	700	278	264	1,268	1,569	782	4,861
休日平均	1,608	733	688	2,042	4,160	934	10,165
一日平均	1,050	453	427	1,566	2,565	840	6,901

### 最多来場者数記録日 5月5日(日・祝) 天気:晴れ

(単位:人)

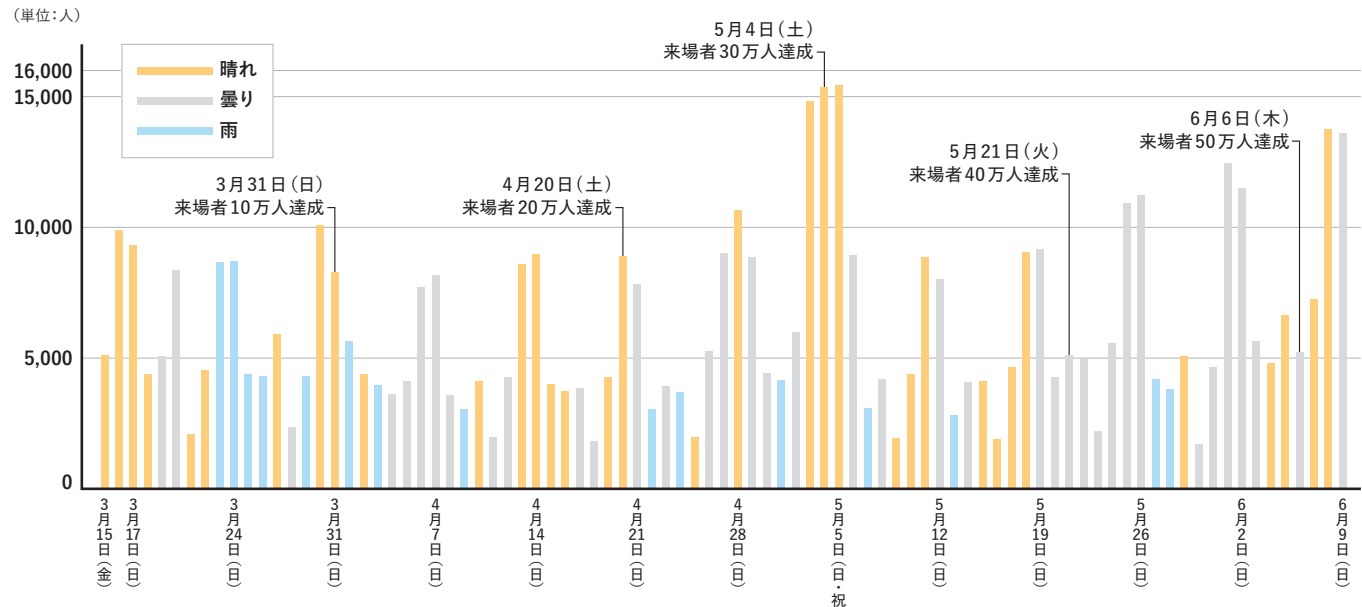
	有料会場			無料会場			合計
	横浜美術館	旧第一銀行横浜支店	BankART KAIKO	横浜美術館無料エリア	クイーンズスクエア横浜	元町・中華街駅連絡通路	
来場者数	2,306	857	817	4,396	6,011	1,049	15,436

### 最少来場者数記録日(有料会場休場日を除く) 5月13日(月) 天気:雨

(単位:人)

	有料会場			無料会場			合計
	横浜美術館	旧第一銀行横浜支店	BankART KAIKO	横浜美術館無料エリア	クイーンズスクエア横浜	元町・中華街駅連絡通路	
来場者数	482	166	146	347	1,131	541	2,813

### 展覧会来場者数の推移



## 学校団体鑑賞

総来場者数 63団体 2,478名(児童・生徒・学生:2,240名 引率者:238名)

### 校種別内訳

種別	団体数	来場者数
大学	16団体	495人
専門学校	6団体	189人
高等学校	16団体	1,251人
中高一貫校	4団体	64人
中学校	11団体	298人
小学校	1団体	17人
インターナショナルスクール	3団体	44人
特別支援学校	2団体	45人
その他(教育支援センター等)	4団体	75人
<b>合計</b>	<b>63団体</b>	<b>2,478人</b>

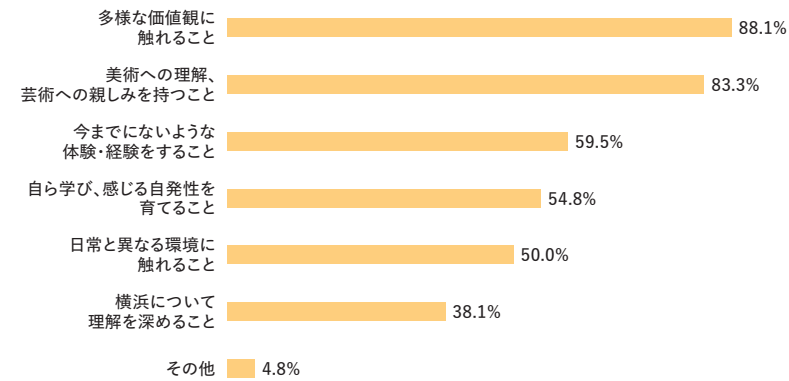
### 地域別内訳

地域区分	団体数
横浜市内	34団体
神奈川県(横浜市内)	11団体
東京都	12団体
上記以外の関東地方	2団体
北陸地方	1団体
近畿地方	2団体
アジア(シンガポール)	1団体
<b>合計</b>	<b>63団体</b>

※表中の「大学」には大学院、「その他」には美術予備校やフリースクールなどを含む

### 学校団体来場者アンケート 調査方法:WEBアンケート 有効回答数:42校

- 横浜トリエンナーレでの鑑賞活動にどのような効果を期待しますか?(複数回答可)
- 学校団体鑑賞へご参加いただいた感想はいかがでしたか ※原文のまま掲載



**[満足/やや満足]**

・生徒たちが普段目向けることが少ない社会問題に対して、美術作品を通して考えさせることが意味がある。

・中学生には現代美術は難しいかと心配していたが、意外に新しい価値観を知り、多くのことを考えるきっかけになったようでよかった。

・現代美術を見る機会があまりない学生にとって、芸術祭というまとまったキュレーションの元で作品鑑賞ができたことは、大変勉強になった。横浜という地域とアートを考える上でも貴重な機会となった。

**[どちらとも言えない]**

・高校生には刺激や政治的なメッセージ性の強い展示があったため。

## 視察受入

### 視察件数・来場者数

	海外	国内	合計
視察件数	70件	43件	113件
来場者数	195人	165人	360人

### 国(地域)内訳

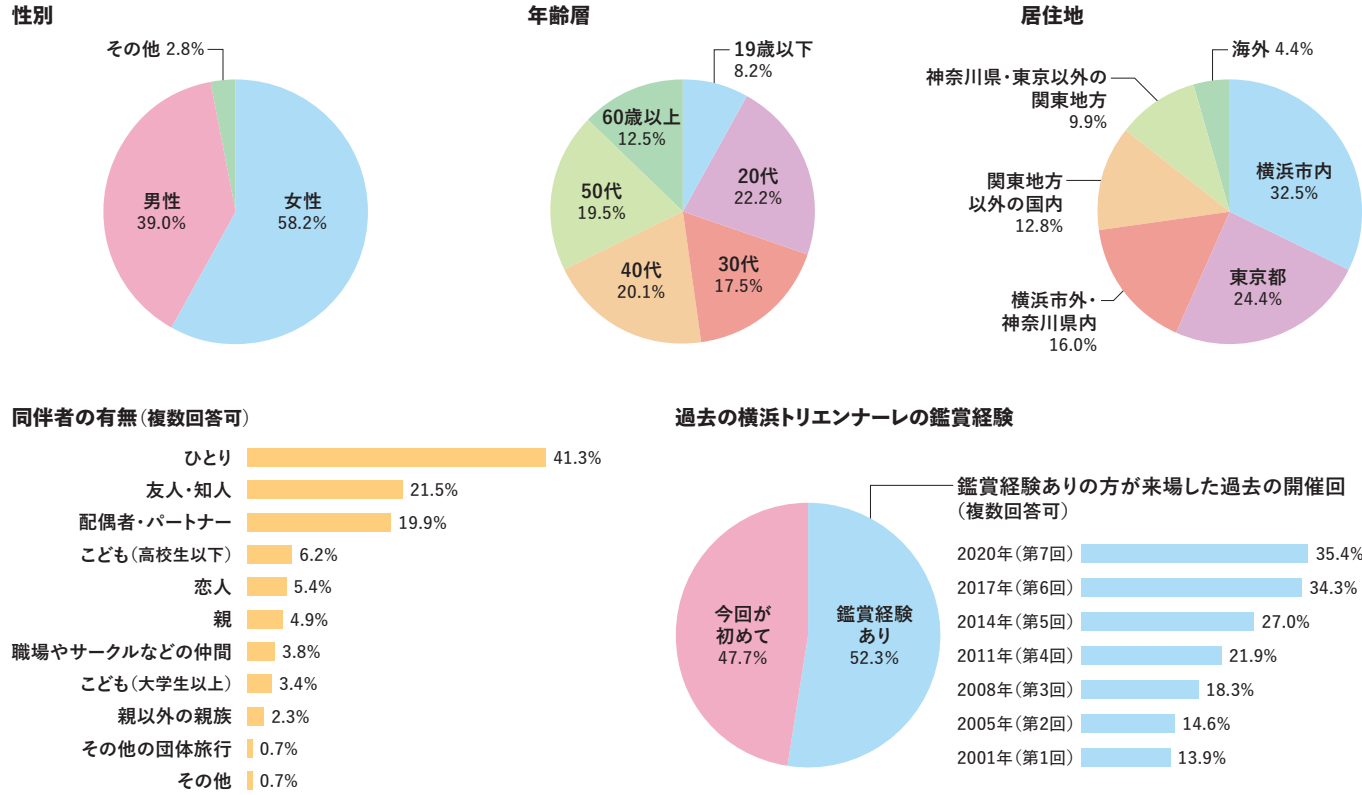
	国・地域数	国・地域名
アジア	8	インドネシア、シンガポール、韓国、中国、フィリピン、日本、台湾、香港
大洋州	1	オーストラリア
北米	2	米国、カナダ
中南米	2	ブラジル、ペルー
欧州	10	イタリア、ウクライナ、英国、オランダ、スイス、フランス、ベルギー、ポーランド、リヒテンシュタイン、ロシア
中東	2	アラブ首長国連邦、イスラエル
<b>合計</b>	<b>25</b>	



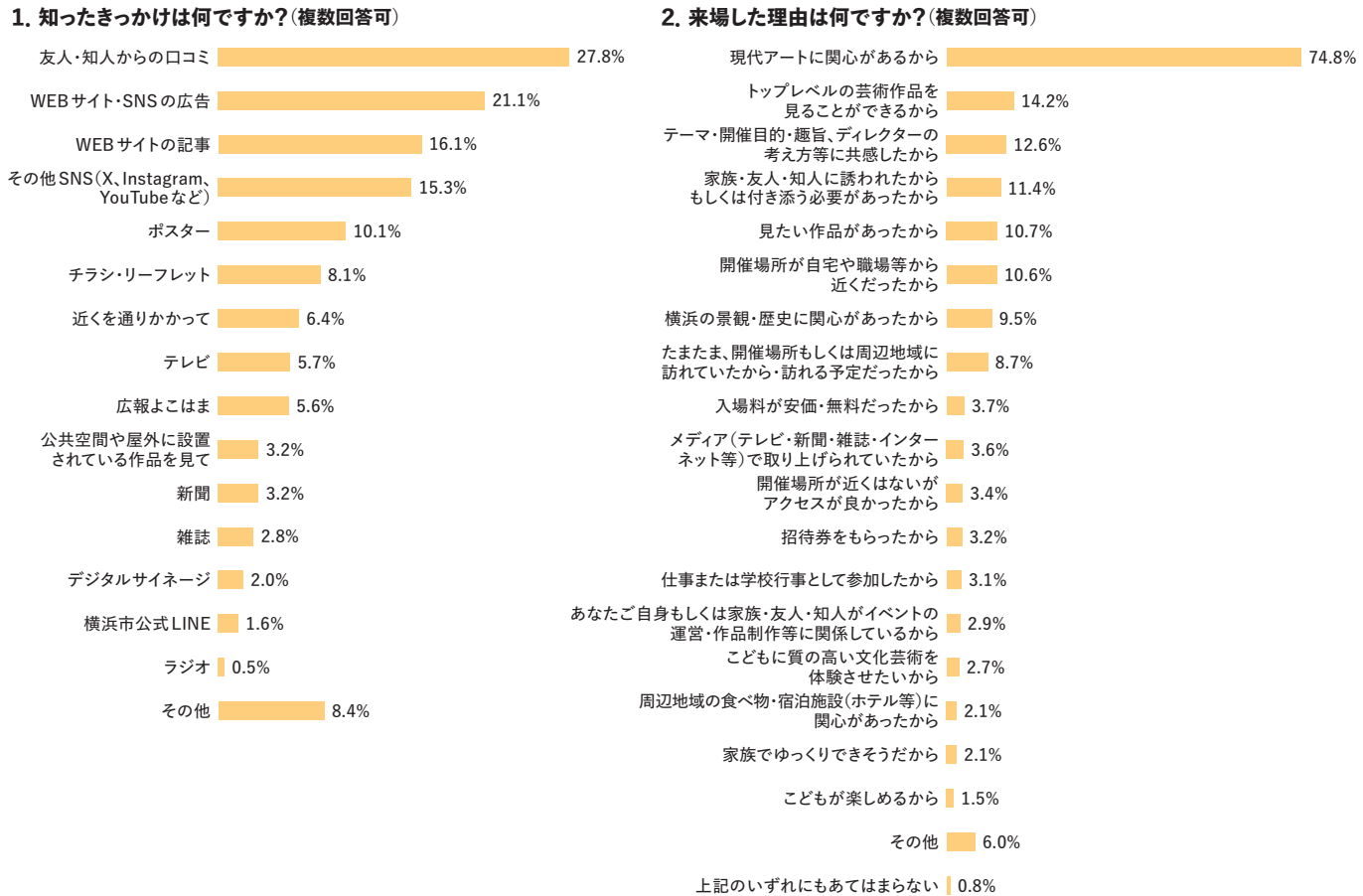
## 来場者アンケート

調査方法：WEBアンケート 調査期間：3月15日（金）～6月9日（日） 有効回答数：1,961件

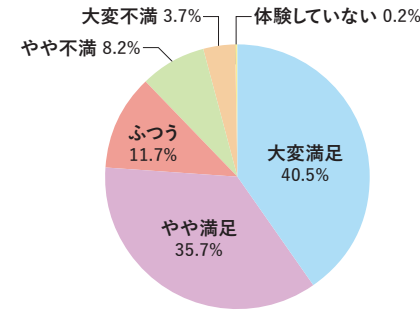
### 来場者の属性



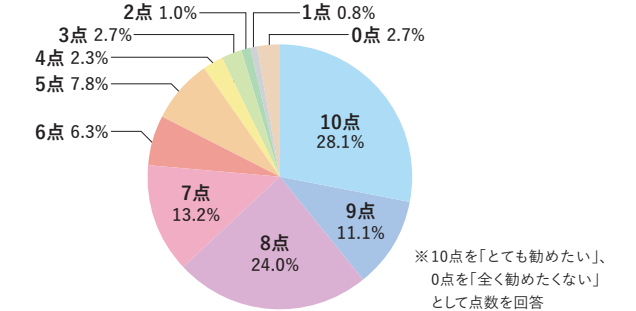
### 第8回横浜トリエンナーレについて



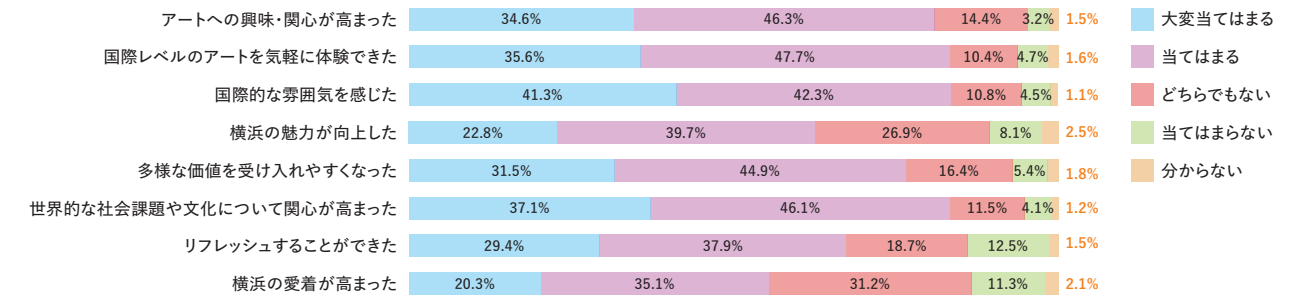
### 3. 展示の満足度はいかがでしたか？



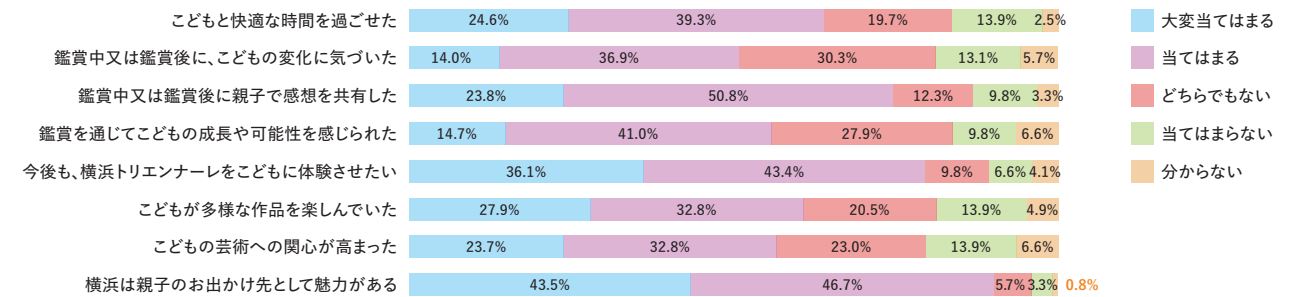
### 4. ご家族やご友人に勧めたいと思いますか？



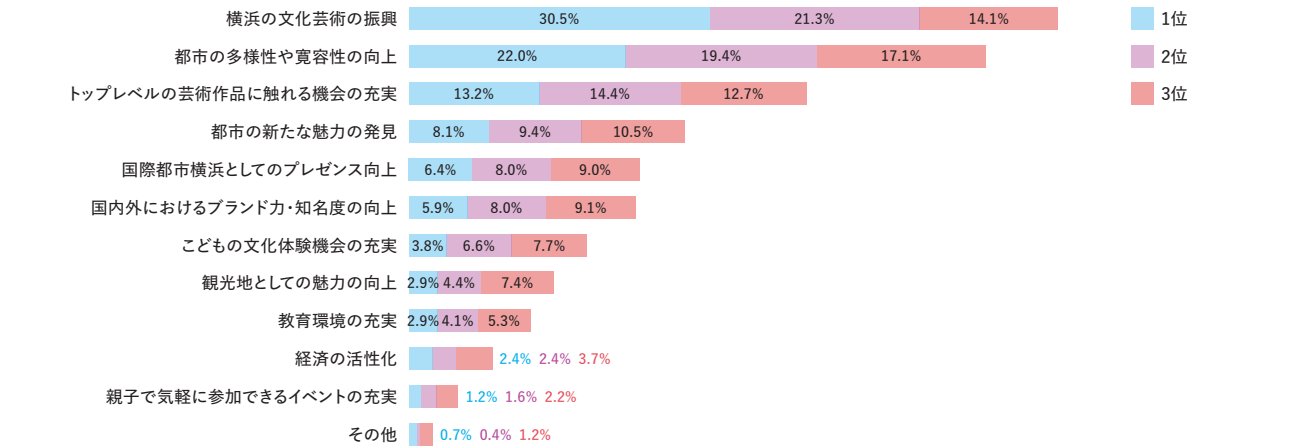
### 5. 第8回横浜トリエンナーレに来場した感想として、以下の項目はそれぞれどれくらい当てはまりますか？



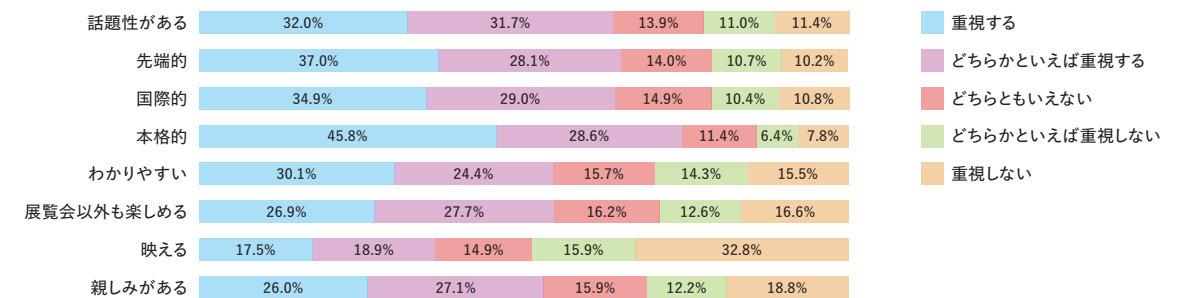
### 6. 第8回横浜トリエンナーレにお子様と来場した感想として、以下の項目はそれぞれどれくらい当てはまりますか？



### 7. 横浜トリエンナーレは横浜にどのような効果を生み出していると思いますか？以下の項目の中で、当てはまると思うものを上位3位までお選びください。



### 8. 現代アートの国際展について以下の項目をどれくらい重視しますか？





## 13. 経済波及効果とパブリシティ効果

### 経済波及効果

経済波及効果は、推計時点で最新の平成27年（2015年）横浜市産業連関表を用いて算出した。また、来場者消費支出は来場者アンケート、主催者調査は開催準備と運営に関わる経費支出をもとにしている。来場者消費支出および主催者調査を合計した、横浜市の経済波及効果は約32億円となった。

#### 経済波及効果合計（市内）

（単位：百万円）

経済波及効果(生産誘発額)計	3,226
第一次波及効果	2,888
第二次波及効果	338
雇用誘発数	359(人)

#### 【内訳】

##### 来場者消費支出による経済波及効果

（単位：百万円）

経済波及効果(生産誘発額)計	2,766
第一次波及効果	2,480
第二次波及効果	286
雇用誘発数	319(人)

##### 主催者調達による経済波及効果

（単位：百万円）

経済波及効果(生産誘発額)計	460
第一次波及効果	408
第二次波及効果	52
雇用誘発数	40(人)

#### 【参考】来場者消費金額（市内）

（単位：円）

	日帰り	市内宿泊	市外宿泊
一人当たり消費金額	10,186	67,083	28,397

### パブリシティ効果

第8回横浜トリエンナーレについて、2022年6月30日から2024年7月31日までに露出した各メディアの広告換算額は、国内・海外あわせて約44.5億円（税込）となった。

#### 国内媒体

（単位：百万円）

媒体種類	換算額
テレビ	3,202
キー局	3,179
地方局・CATV	23
ラジオ	27
新聞	333
全国紙	51
全国紙(地方版)	156
地方紙	119
その他新聞	7
雑誌・書籍	29
フリーペーパー	5
WEB	793
計	4,389

#### 海外媒体

（単位：百万円）

媒体種類	換算額
新聞	31
雑誌・書籍	3
WEB	24
計	58

## 14. 収支報告

### 第8回横浜トリエンナーレ収支

#### 収入の部

（単位：円）

項目	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	第8回展決算
横浜市負担金	64,000,000	124,000,000	409,000,000	0	597,000,000
文化庁補助金	0	0	90,000,000	0	90,000,000
協賛金・助成金	0	0	11,415,678	33,149,426	44,565,104
入場料収入	0	0	30,946,070	100,729,380	131,675,450
カタログ・グッズ等販売収入	315,051	25,675	1,020,558	3,437,463	4,798,747
雑収入	1,402	49,491	195,870	480,851	727,614
繰越金	49,174,191	60,202,731	92,148,296	185,062,005	49,174,191 ※初年度のみ計上
計	113,490,644	184,277,897	634,726,472	322,859,125	917,941,106

#### 支出の部

（単位：円）

項目	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	第8回展決算
展示制作費	968,716	2,528,824	130,125,950	58,243,104	191,866,594
会場設営費	0	373,120	133,660,084	5,355,472	139,388,676
会場運営費	0	0	42,658,940	99,358,583	142,017,523
広報費	5,478,841	9,245,215	30,602,643	24,504,749	69,831,448
地域連携関連費	0	0	14,381,480	13,044,764	27,426,244
カタログ等経費	204,289	10,137	836,080	12,991,049	14,041,555
関連行事費	0	0	3,359,290	0	3,359,290
入場券経費	0	0	5,761,075	11,585,103	17,346,178
次世代育成・共生社会費	0	0	2,214,144	3,445,971	5,660,115
ボランティア経費	0	1,408	1,053,340	1,030,433	2,085,181
専門家旅費	0	1,128,923	1,731,531	41,560	2,902,014
業務委託費	1,524,600	9,541,000	28,539,680	11,113,309	50,718,589
事務局費	45,111,467	69,300,974	54,740,230	33,614,414	202,767,085
開催費	35,625,788	42,351,881	44,706,376	24,779,926	147,463,971
委員会運営費	7,455,679	25,600,089	8,571,171	7,990,166	49,617,105
事務所使用料	2,030,000	1,349,004	1,462,683	844,322	5,686,009
繰越金(商品及び貯蔵品を含む)	60,202,731	92,148,296	185,062,005	48,530,614	48,530,614 ※最終年度のみ計上
計	113,490,644	184,277,897	634,726,472	322,859,125	917,941,106



# 第1回－第8回 横浜トリエンナーレー覧

	第1回(2001年)	第2回(2005年)	第3回(2008年)	第4回(2011年)
会期 (開催日数)	9月2日－11月11日(67日間)	9月28日－12月18日(82日間)	9月13日－11月30日(79日間)	8月6日－11月6日(83日間)
主会場 (有料)	[2会場] ・パシフィコ横浜展示ホール(C,D) ・横浜赤レンガ倉庫1号館	[1会場] 山下ふ頭3号・4号上屋	[4会場] ・新港ピア ・日本郵船海岸通倉庫 (BankART Studio NYK) ・横浜赤レンガ倉庫1号館 ・三溪園	[2会場] ・横浜美術館 ・日本郵船海岸通倉庫 (BankART Studio NYK)
テーマ	メガ・ウェイブ ー新たな総合に向けて	アートサーカス [日常からの跳躍]	TIME CREVASSE ータイムクレヴァスー	OUR MAGIC HOUR ー世界はどこまで知ることができるか?ー
ディレクター/ キュレーター	アーティストック・ディレクター: 河本信治 建畠哲 中村信夫 南條史生	総合ディレクター: 川俣正 [キュレーター] 天野太郎 芹沢高志 山野真悟	総合ディレクター: 水沢勉 [キュレーター] ダニエル・バーンバウム フー・ファン 三宅暁子 ハンス・ウルリッヒ・オプリスト ペアトリクス・ルフ	総合ディレクター: 逢坂恵理子 アーティストック・ディレクター: 三木あき子
作家数 <sup>※1</sup>	109作家	86作家	70作家	77組(79作家、1コレクション)
総事業費	約7億円	約9億円	約9億円	約9億円
総来場者数	約35万人	約19万人	約55万人	約33万人
有料会場 来場者数 <sup>※2</sup>	約35万人 ※チケットは2日間有効(連続しない日も可) ※未就学児無料	約16万人 ※チケットは1日に限り有効 ※フリーパスあり ※中学生以下無料	約31万人 ※チケットは2日間有効(連続しない日も可) ※中学生以下無料	約30万人 ※チケットは1会場1日有効 ※中学生以下無料
うち中学生以下	記録なし	記録なし	記録なし	24,205人
うち外国人	記録なし	記録なし	記録なし	約3,000人
チケット 販売枚数	約17万枚	約12万枚	約9万枚	約17万枚
メディア 露出件数	237社以上 (うち海外36社以上) ※掲載件数は記録なし	1,089件 (うち海外40件)	1,233件 (うち海外165件)	1,763件 (うち海外139件)
サポーター 登録者数	719人	1,222人	1,510人	940人

## 沿革

- 1997 外務省が国際美術展の定期開催方針を発表
- 1999 横浜トリエンナーレ組織委員会(国際交流基金、横浜市、NHK、朝日新聞社)設立
- 2001 横浜トリエンナーレ2001「メガ・ウェイブー新たな総合に向けて」開催
- 2004 横浜市が創造都市施策を策定。横浜トリエンナーレをリーディング・プロジェクトに位置づける
- 2005 横浜トリエンナーレ2005「アートサーカス[日常からの跳躍]」開催
- 2008 横浜トリエンナーレ2008「TIME CREVASSEータイムクレヴァスー」開催
- 2010 横浜トリエンナーレ組織委員会の構成が横浜市、NHK、朝日新聞社の3者となる
- 2011 文化庁の「国際芸術フェスティバル支援事業」となる  
ヨコハマトリエンナーレ2011「OUR MAGIC HOURー世界はどこまで知ることができるか?ー」開催
- 2012 横浜トリエンナーレ組織委員会に公益財団法人横浜市芸術文化振興財団が加わる
- 2014 ヨコハマトリエンナーレ2014「華氏451の芸術:世界の中心には忘却の海がある」開催
- 2017 ヨコハマトリエンナーレ2017「島と星座とガラパゴス」開催
- 2020 ヨコハマトリエンナーレ2020「AFTERGLOWー光の破片をつかまえる」開催
- 2024 第8回横浜トリエンナーレ「野草:いま、ここで生きてる」開催

2001



2005

- ※1 参加作家数の単位や考え方は、企画意図により毎回異なる
- ※2 第1回、第3回、第4回、第5回、第7回、第8回については、有料会場の延べ来場者数
- ※3 新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け、開幕を2週間遅らせて開催

	第5回(2014年)	第6回(2017年)	第7回(2020年)	第8回(2024年)
会期 (開催日数)	8月1日－11月3日(89日間)	8月4日－11月5日(88日間)	7月17日－10月11日(78日間) <sup>※3</sup>	3月15日－6月9日(78日間)
主会場 (有料)	[2会場] ・横浜美術館 ・新港ピア	[3会場] ・横浜美術館 ・横浜赤レンガ倉庫1号館 ・横浜市開港記念会館地下	[2会場] ・横浜美術館 ・プロット48 (展示協力:日本郵船歴史博物館)	[3会場] ・横浜美術館 ・旧第一銀行横浜支店 ・BankART KAIKO
テーマ	華氏451の芸術: 世界の中心には忘却の海がある	島と星座とガラパゴス	AFTERGLOW ー光の破片をつかまえる	野草:いま、ここで生きてる
ディレクター/ キュレーター	アーティストック・ディレクター: 森村泰昌 [アソシエイト] 天野太郎 大館奈津子 柏木智雄 神谷幸江 林寿美	コ・ディレクター: 逢坂恵理子 三木あき子 柏木智雄	アーティストック・ディレクター: ラクス・メディア・コレクティブ (ジーベシユ・バグチ、 モニカ・ナルラ、 シュッダブラタ・セーングブタ)	アーティストック・ディレクター: リウ・ディン(劉鼎) キャロル・インホワ・ルー(盧迎華)
作家数 <sup>※1</sup>	65組(79作家)	38組、1プロジェクト	69組	93組
総事業費	約9億円	約9億円	約10億円	約9億円
総来場者数	約21万人	約26万人	約15万人 ※感染防止のため入場制限を実施	約58万人 ※集計方法変更
有料会場 来場者数 <sup>※2</sup>	約21万人 ※チケットは1会場1日有効 ※中学生以下無料	約25万人 ※チケットは1会場1日有効 ※中学生以下無料	約13万人 ※チケットは1日に限り有効 ※中学生以下無料	約15万人 ※チケットは1会場1日有効 ※高校生(18歳)以下無料
うち中学生以下	26,381人	26,988人	8,619人	10,351人
うち外国人	4,501人	7,059人	1,198人	4,555人
チケット 販売枚数	約10万枚	約10万枚	約6万枚 ※感染防止のため入場制限を実施	約6万枚
メディア 露出件数	3,899件 (うち海外117件)	6,923件 (うち海外314件)	4,238件 (うち海外257件)	5,651件 (うち海外377件)
サポーター 登録者数	1,631人	1,474人	1,671人	1,389人

2008



2011



2017



2024



2014



2020



## 人々の心に残る横浜トリエンナーレ

第1回から20年以上継続して開催してきた横浜トリエンナーレは、多くの人々の心に刻まれている。第8回展の開催に先立ち、過去の「横浜トリエンナーレに関する思い出」を公募したところ、市民をはじめ過去展を訪れた人々から、さまざまな思い出が寄せられた。

また、集まった思い出エピソードの一部でパネルを制作し、第8回展開幕期に横浜市役所アトリウムで開催した「わくわくアートひろば」内で展示した。

募集期間：2023年11月1日（水）～12月8日（金） 件数：60件



### 寄せられた思い出エピソード

※寄せられたエピソードを一部抜粋、省略・編集して掲載しています。

#### 自身の人生と重なっている

◎社会人2年目、貯めたお金でひとり訪れた横浜トリエンナーレ。作品鑑賞を楽しみながら横浜のまちをめぐった数日間がとても濃密で、帰りの新幹線でいつかこのまちに住むと心に決めた。

●第1回展に連れて行った当時9歳だった娘は、その後アートの道に進むことに。最近ではわたしの知らない作家さんやアートに関する知識を教えてくれるようになった。

◎現代アートという言葉の意味も知らずに、授業の一環で足を運んだ。こんな世界があるんだと心震わせたのを覚えている。美術という概念がひっくり返った日だった。その出会いがなければ、いまの仕事にはつなげていないと思う。

●高校生の時「あのバツタなんだろう？ 近くで見てみたくない？」と声をかけてきた男友達が、現在の夫。プロポーズは、あのバツタが貼り付いていたホテルのレストラン。忘れられない思い出に。  
(椿昇+室井尚《インセクト・ワールド、飛蝗》2001)

#### 楽しい体験・特別な体験ができた

◎ゴンザレスさんの《気休めの薬》、銀色に包まれた色とりどりのキャンディが美味しかった。手に取って、しかも食べられる作品は初めてで、嬉しかった。つい先日まで1個だけ記念にガラス瓶で保管していた。経年で溶けてしまったが、今でも良い思い出。  
(フェリックス・ゴンザレス＝トレス《無題(気休めの薬)》1991)

●第1回から第7回まですべて訪れた。今となっては存在しない会場を思い出しながら横浜、みなとみらい周辺を歩くと、一緒に展示を観た友人との会話、服装、景色、心動いた作品などさまざまなことが蘇ってくる。

◎コロナ禍の第7回展、飯川雄大さんの《デコレータークラブ》で汗をかいた事は横浜トリエンナーレならではの体験だった。  
(飯川雄大《デコレータークラブ》2020)

●第6回展で初めて参加したアートボランティアと一緒に活動した仲間との絆は、5年以上経った今でも続いている。そのなかでご縁があり結婚し、自分の人生のなかでも本当に大切な出来事になった。

#### アートの楽しさを知った

◎床に広がるカラフルなキャンディの川は、トリエンナーレが何かわからなかった当時小学5年生のわたしにも、十分すぎるときめきだった。  
(フェリックス・ゴンザレス＝トレス《無題(気休めの薬)》1991)

●とても難解な作品と誰でも親しめる作品が共存していて、「自分にわからない」ことを「楽しもう」という感じがする。

◎中学校で「美術館に行ってみよう!」という講習があり、軽い気持ちで受講した。「なんだこれ、これが芸術? 何してるかわかんねーよ!」と思っていたが、あの考えさせる力こそがアートだったりカルチャーなんだと今は解釈。触れたものに対して単に消費するのではなく深読みしてみたり面白がる力を横浜トリエンナーレは育んでくれた。

#### 気持ちが救われた、考え方が変わった

◎第1回展でホテルの壁に取り付けられた《飛蝗》を見て、「現代アートはなんて面白いのだろう」と驚いた。なかには理解ができない作品があったが、理解ができる・できないは関係なく受け入れられ存在できる世の中は、学校にあまり馴染めなかった自分の存在を認めてもらえた気がした。  
(椿昇+室井尚《インセクト・ワールド、飛蝗》2001)

●ツアーに参加したことで、わからないままでも体感すればいいという自分なりの現代アートの楽しみ方がわかった。コロナ禍で閉塞的な時期に開催してくれたのも、救われた思いだった。

◎あの同時多発テロが起きた21世紀最初の年に、平和とか命とか人間とかを考える契機にもなったあのときに、環境問題しかり、立ち止まって慎重にならなきゃいけないこともあったんじゃないかと。今日的な題材を汲んで20年余り開かれている横浜トリエンナーレは、自分にとっても人生の結び目のような存在。

## 組織体制

2024年6月9日時点  
・横浜トリエンナーレ組織委員会の構成員については原則2022年度から2024年度の構成員、横浜美術館については2023年度から2024年度の構成員を掲載した。  
・2024年6月9日前に異動した構成員については、在籍当時の肩書を採用した。  
・横浜市職員については、2022年度まで文化観光局文化プログラム推進部、2023年度よりにぎわいスポーツ文化局文化芸術創造都市推進部の所属である。  
\* =横浜美術館所属、\*\* =横浜市所属

### 横浜トリエンナーレ組織委員会

#### 名誉会長

山中竹春(横浜市長) [代表]  
稲葉延雄(NHK会長)  
中村史郎(朝日新聞社代表取締役社長)  
前田晃伸(NHK会長、-2023年1月)

#### 委員

近藤誠一(公益財団法人横浜市芸術文化振興財団理事長) [委員長]  
蔵屋美香(横浜美術館館長) [総合ディレクター]  
足立哲郎(横浜市にぎわいスポーツ文化局長)  
逢坂恵理子(国立新美術館館長)  
建畠哲(埼玉県立近代美術館館長)  
田中良憲(NHK展開センター事業主幹)  
日比野克彦(東京藝術大学学長)  
古屋昌人(独立行政法人国際交流基金理事)  
三好俊夫(朝日新聞社メディア事業本部文化事業専任本部長)  
山内健(朝日新聞社メディア事業本部文化事業専任本部長、-2024年3月)  
柄博子(独立行政法人国際交流基金理事、-2023年9月)  
神部浩(横浜市文化観光局長、-2023年3月)  
堀越礼子(朝日新聞社取締役、-2023年3月)  
梶健一郎(NHK事業センター長、-2022年6月)

#### 監事

ペイ・タックス税理士法人

#### 特別委員会

(第8回横浜トリエンナーレ アーティスティック・ディレクター(AD)選考委員会委員)  
※肩書はAD発表時(2022年6月)  
浅田彰(京都芸術大学大学院教授、ICA京都所長) [委員長]  
蔵屋美香(横浜トリエンナーレ組織委員会総合ディレクター、横浜美術館館長)  
鷲田めるろ(十和田市現代美術館館長)  
ビゲ・オール(イスタンブール・ビエンナーレ ディレクター)  
イザベル・ベルトロツェッティ(リヨン現代美術館館長、リヨン・ビエンナーレ ディレクター)

#### 事務局

永井由香\*\*、米澤陽子\*\*(-2024年3月)、中山陽子(-2023年3月) [事務局長]  
丸山晶子\*\*、八巻直史(朝日新聞社)、山田卓司(NHK) [事務局次長]  
帆足亜紀\* [総合ディレクター補佐]

### 第8回横浜トリエンナーレ実施体制

#### 展覧会

[アーティスティック・ディレクター]  
リウ・ディン(劉鼎)、キャロル・インホワ・ルー(盧迎華)  
[キュレトリアル・チーム]  
学芸統括/キュレーター 松永真太郎\*  
企画統括/キュレーター 片多祐子\*、木村絵理子\*(-2023年5月)  
アソシエイト・キュレーター 大澤紗蓉子\*、長谷川珠緒\*  
プロジェクト担当キュレーター 内山淳子\*、日比野民蓉\*、南島興\*  
キュレトリアル・コーディネーター 鈴木慶子  
キュレトリアル・アシスタント 伊達萌未  
プロダクション・コーディネーター 堀江紀子  
リサーチ・コーディネーター 三上真理子  
プロダクション・アシスタント 引地彩紗  
運営アシスタント 檜館萌絵  
テクニカル・アシスタント 藤田冴子(札幌文化芸術交流センター SCARTS 研修生)

#### [ビジュアルデザイン]

REFLECTA, Inc.(岡崎真理子+田岡美紗子+田中ヴェートリ美南海+邵琪)  
[空間設計] nmstudio 一級建築士事務所+ HIGURE 17-15 cas  
[ウェブサイト制作] 株式会社モノサス  
[通訳・翻訳] 展示関係の日中通訳: 秋山珠子、池田リリイ茜藍、金秋雨、王雨舟  
展示関係資料の日英翻訳: 河野晴子  
[サブ・デザイン] 展示、広報: 伊藤浩平 展示: 大貫茜  
展示、横浜トリエンナーレガイド: 中島美佳

[施工] 株式会社丹青ディスプレイ、スーパー・ファクトリー株式会社、株式会社ブランコ、HIGURE 17-15 cas株式会社、株式会社ノムラメディアス、株式会社美工社、株式会社NKB Y's、栗原元、小畑祐也、関本幸治  
[輸送・展示] カトーレック株式会社  
[照明] 株式会社YAMAGIWA  
[映像・音響インストール] 田中信至、山元史朗

#### パブリック・プログラム(横浜美術館企画)

[教育普及担当] 岡崎智美\*、大塚真弓\*(-2024年3月)  
[横浜トリエンナーレガイド企画・制作] 岡崎智美\*、森未祈\*、古藤陽\*、大塚真弓\*(-2024年3月)  
[はらっぱ企画運営] 横浜美術館教育普及グループ

#### コミュニケーション

[コミュニケーション・オフィサー] 西山有子  
[プレス担当] 石川葉月、山本紀子\*(-2023年3月)  
[海外プレス] 那波佳子(リレーリレーLLP)  
[デジタル担当] 伊藤琴音(株式会社thoasa)、岩本室佳(-2024年1月)

#### 記録

[アーカイブ・コーディネーター] 堀木結  
[映像ディレクション] 西野正将  
[映像撮影] 富田了平、西野正将、三上亮  
[写真撮影] 大野隆介、加藤健、加藤甫、富田了平

#### 総務・運営担当

[チームリーダー] 里見有祐\*、福岡綾子\*(-2022年3月)  
[担当リーダー] 飯阪直子\*  
[経理担当] 坂本由香\*、酒井美千代\*(-2024年3月)、山崎真弓\*(-2024年1月)  
[運営担当] 上符夏実\*、栗原寿美江\*、坂井若葉、宮田綾子\*、永田はるか\*(-2024年5月)、武笠真結(-2024年3月)  
[ゲストリレーションズ担当] 竹中祐子  
[サポーター運営支援担当] 吉田智恵美

#### 横浜市

岡部遥、小川哲、河野容子、笹渡航太、永宮春香、西田郁、福重隆佑、福間淳子、宮原操、安友沙織、山本真太郎、頼政佳緒里、伊藤寛泰(-2024年3月)、木村綾夏(-2023年3月)

#### 横浜美術館(公益財団法人横浜市芸術文化振興財団)

[館長] 蔵屋美香  
[副館長] 柏木智雄  
[学芸グループ] 松永真太郎、内山淳子、大塚真弓、片多祐子、坂本恭子、日比野民蓉、中村尚明、八柳サエ、相原佳奈子、飯岡陸、大澤紗蓉子、長谷川珠緒、南島興、石川明子、長谷川菜穂、大沢知二、加藤絢、土居由美、木村絵理子(-2023年5月)

[国際グループ] 帆足亜紀(学芸グループ兼務)、里見有祐、飯阪直子、上符夏実、栗原寿美江、坂本由香、宮田綾子、永田はるか(-2024年5月)、酒井美千代(-2024年3月)、山崎真弓(-2024年1月)

[教育普及グループ] 庄司尚子、岡崎智美、櫻庭瑠実、園田泰士、木下貴博、古藤陽、瀧口桃、濱野給美、平松朋子、藤谷まゆ子、發知言織、森未祈、中野葉月、六島芳朗、北川智里(-2024年3月)

[経営管理グループ] 山本ゆう子、熊谷敬子、普川由貴子、福山葉子、水谷英智、襟川文恵、小泉千恵子、近藤弘子、大山真紀子、川口早紀、小屋有紀子、高橋未早、松井美鈴、村松容子、山本紀子、中村美奈(-2024年5月)、坂口周平(-2024年3月)、澁谷菜美(-2024年3月)、根本広美(-2024年3月)

#### NHK・NHK横浜放送局

畑段光一、安楽裕里子、坂本有花

#### 朝日新聞社

竹部翔馬



# クレジット

## P.10、P.11、P.18 – P.26、P.41 (掲載順)

チュン・イン・レインポー・チャン / 陳雋然 | Courtesy of the Artist  
北島敬三+森村泰昌 | Courtesy of the Artists  
ビッパ・ガーナー | Courtesy of the Artist and STARS, Los Angeles  
ヨアル・ナンゴ | Courtesy of the Artist  
パピーズ・パピーズ (ジェイド・グアナロ・クリキ=オリヴォ) | Courtesy of the Artist  
サンドラ・ムジンガ | Courtesy of the Artist, Croy Nielsen, Vienna and The Approach, London  
志賀理江子 | © Lieko Shiga, Courtesy of the Artist  
オープングループ | Courtesy of the Artists  
サローテ・タワレ | Courtesy of the Artist  
ルンギスワ・グンタ | Courtesy of Lungiswa Gqunta and WHATIFTHEWORLD  
ブリックリー・ペーパー / 刺紙 | © 刺紙  
SIDE CORE | Courtesy of the Artists  
ポープ・L | © The Estate of Pope.L / Courtesy of The Estate and Mitchell-Innes & Nash, New York  
アラン・セクーラ | Courtesy of the Allan Sekula Studio  
トマス・ラファ | © Tomas Rafa, archive of "New Nationalism"  
ジョシュ・クライン | Courtesy of the Artist  
エリーズ・キャロン&ファニー・ドゥヴォー | Courtesy of the Artists  
ダムラ・クルッチクラン | Courtesy of the Artist  
マーガレット・サーモン | © Margaret Salmon, Courtesy of the Artist  
イェンス・ハーニング | Courtesy of Atelier Jens Haaning  
丹羽良徳 | Courtesy of the artist and Satoko Oe Contemporary, Tokyo  
你哥影視社 / ユア・ブラザーズ・フィルムメイキング・グループ | Courtesy of the Artists  
エクスペー・エクサー | Courtesy of the Artist  
リタ・ジークフリート | © Rita Siegfried, Courtesy of suns.works, Zürich  
ノーム・クレイセン | © Norm Clasen  
土肥美穂 | Courtesy of HAGIWARA PROJECTS  
ジョナサン・ホロヴィッツ | Photo: AP/AFLO  
佃弘樹 | © Hiroki Tsukuda, Courtesy of Nanzuka  
オズギュル・カー | Courtesy of the Artist  
アネタ・グシエコフスカ | © Aneta Grzeszykowska, Courtesy of the Artist, Raster Gallery, Lyles King Gallery  
ラファエラ・クリスピーノ | © Raffaella Crispino, Courtesy of the Artist  
インターアジア木版画マッピング・グループ | Courtesy of the Artists  
リャオ・シェンジェン&ホアン・イージェ / 廖炬榛&黄奕捷 | Courtesy of the Artists  
松本哉 | Courtesy of the Artist  
プック・フェルカーダ | © Puck Verkade, Courtesy of the Artist and gallery Dürst Britt & Mayhew  
ピエ・ビョ・タット・ニョ | Courtesy of the Artist  
クレモン・コジトール | Courtesy of the Artist, Chantal Crousel Consulting - Paris, Galerie Reinhard and Elisabeth Hauff - Stuttgart, Production: Seppia, Arte, YLE  
セレン・オーゴード | Courtesy of the Artist

## P.74 – P.75

(2001)  
椿昇+室井尚《インセクト・ワールド・飛蝗》2001  
撮影:黒川未来夫  
(2005)  
ダニエル・ビュラン《海辺の16,150の光彩》  
横浜、日本、2005年9月  
©DB - ADAGP Paris  
撮影:安齋重男  
(2008)  
エルムグリーン&ドラッグセット  
《落っちたら受けとめて》2008  
撮影:櫻井ただひさ  
(2011)  
イン・シウジェン《ワン・センテンス》2011  
協力:ALEXANDER OCHS GALLERIES BERLIN | BEIJING  
撮影:木奥恵三  
(2014)  
マイケル・ランディ《アート・ピン》2010/2014  
撮影:加藤健  
(2017)  
アイ・ウェイウェイ (艾未未)《安全な通行》2016(Reframe)2016  
©Ai Weiwei Studio  
撮影:加藤健  
(2020)  
ニック・ケイヴ《回転する森》2016(2020年再制作)  
©Nick Cave  
撮影:大塚敬太  
(第8回)  
サンドラ・ムジンガ《そして、私の体はあなたのすべてを抱きかかえた》2024年  
Courtesy of the Artist, Croy Nielsen, Vienna and The Approach, London  
ビッパ・ガーナー《ヒトの原型》2020年  
Courtesy of the Artist and STARS, Los Angeles  
撮影:冨田了平

## 第8回横浜トリエンナーレ

### 「野草：いま、ここで生きてる」

#### 記録集

#### 発行

2025年2月

#### 監修

横浜トリエンナーレ組織委員会

#### 編集・本文デザイン

株式会社ゴイズ(中尾江利、及位友美、岡部正裕)

#### 編集補

鈴木慶子

#### 表紙デザイン

REFLECTA, Inc.(岡崎真理子+田岡美紗子)

#### 印刷

株式会社エイコープリント

#### 発行

横浜トリエンナーレ組織委員会

〒231-0005 横浜市中区本町6-50-10 横浜市役所内

www.yokohamatriennale.jp

©2025 Organizing Committee for Yokohama Triennale

無断転写、転載、複写は禁じます。

All rights reserved. Printed in Japan



